年　報　第４３集

平成２４年度文化財調査報告書

前橋市教育委員会

はじめに

平成24年度は本市にとって記念すべき市制施行120周年の年であり、文化財保護課が主催する郷土芸能大会が第40回目の記念すべき大会となった年でした。郷土芸能はこれまで、長い年月をかけて地域で守り伝えられてきた伝統芸能であり、それぞれの地域で共同体としての結束を高める紐帯として強い役目を果たしてきたものです。

前橋市教育委員会では、これらの文化財について、イベントや講座、文化財展や修理工事見学会、出張授業などを通して、市民のみなさんに文化財を知っていただくとともに親しんでいただくことが、文化財保護精神の涵養につながると考えています。また、文化財保護課が管理している大室公園民家園、臨江閣、阿久沢家住宅は、今後の保存と利活用のためにも適切な保存整備、修理を行い、確実に後世に伝えていかなければならないと考えております。

埋蔵文化財の分野では、各種の開発に伴い試掘調査を行い、記録保存として遺跡地の発掘調査を行い、発掘調査報告書を刊行しました。特に、元総社蒼海遺跡群（40）・（41）では、発掘調査中に、現地説明会を開催し、地域のみなさまにその成果の一端を公開することができました。また、上野国府等範囲内容確認調査では、国府に関連する明確な遺構は確認することはできませんでしたが、今後の調査に向けて一定の方向性を見出すことができたと思っております。

本書をご覧いただいた皆様方の、文化財に対する理解がより一層深まる契機となれば幸いです。本書が読者の皆様の前橋の文化財に関するより深い理解の一助となれば幸いであります。また、平成２４年度の本市文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導・ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心より御礼申し上げます。

最後に、本市の文化財調査委員を長年に亘り務めていただきました阿久津宗二先生が平成24年5月28日に急逝されました。「前橋藩松平家記録」の刊行事業等多大な功績を残すとともに郷土芸能連絡協議会の会長を長くお務めいただき郷土芸能の保存と継承にご尽力されました。ここに、深く哀悼の意をささげ、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成２５年７月

前橋市教育委員会
教育長　佐　藤　博　之

目　　次

はじめに

第１章　文化財調査委員による調査
1　児童文化センターのシダレソメイヨシノ調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　樹木調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3　考古資料調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
4　建造物調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
5　県外視察調査（下仁田町・佐久市方面）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
6　歴史資料調査（継続調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第２章　新指定の文化財
1　新指定文化財（菊図）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2　新指定文化財（紺紙金泥）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
3　新指定文化財（山車）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第３章　文化財保護事業
1　保護管理運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
2　整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
3　普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

第４章　埋蔵文化財事業
1　埋蔵文化財発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
2　市内遺跡発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
3　遺跡台帳整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
4　埋蔵文化財資料整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
5　埋蔵文化財資料管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
6　上野国府等保存整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

あとがき

第１章　文化財調査委員による調査

１　児童文化センターのシダレソメイヨシノ調査

（１）日　　時　　平成２４年４月９日（月）
（２）調査対象物件　　シダレソメイヨシノ（前橋市児童文化センター内）
（３）調　査　者　　片山委員　　勝木主任研究員（独立行政法人　多摩森林科学園）
（４）概　　要

昨年度よりの継続調査である。多摩森林科学園勝木主任研究員のご指導をいただき懸案事項の調査を行なった。

調査の結果は以下の通り。

①エドヒガンとオオシマザクラの雑種であることは間違いない。
②厳密に捉えて、「名前のない別の品種」として捉える方が妥当である。ただ、名前として「シダレソメイヨシノ」を使っていても問題ない。
③出回っている「シダレソメイヨシノ」とは違う品種のクローンであると考える。
④栽培樹木において「来歴」が分からないのは致命的である。

加えて、勝木先生より天然記念物として考えるよりは、市街地に多種多様な樹木が植栽されている児童文化センターを何らかの形で市として支援・活用等をしていくことが大切なのではないかというご指導をいただいた。

２　樹木調査

（１）日　　時　　平成２４年９月２７日（木）
（２）調査対象物件　　ア　阿久沢家住宅北側屋敷林植生調査
　　イ　鳥居峠のヒカリゴケ
　　ウ　時沢の夫婦マツ（県指定天然記念物）
　　エ　横室の大カヤ
　　オ　小屋原のトチノキ
（３）調　査　者　　片山委員　　梅澤委員
（４）概　　要

標記５件の調査を実施。阿久沢家住宅側屋敷林植生調査では、今後、国庫補助事業により整備が予定されている建物周辺敷地の事前環境調査として実施。屋敷林内の樹木の分布状況や屋敷林が建物に対して悪影響を及ぼしている部分の確認等の調査を行なった。

鳥居峠のヒカリゴケについては、地元等より報告を受けたヒカリゴケ生息地域における分布範囲の確認、環境の調査等を実施。

時沢の夫婦マツについては、平成２３年９月の毀損以来、著しく樹勢が悪化し、唯一残された葉がついている枝にも枯死が確認されるようになったため、原因調査及びその対策を探るため実施された。調査では、当該樹木の養生を行なってきた昭和造園の樹木医２名、群馬県教育委員会文化財保護課担当指導主事も同席いただいた。

横室の大カヤについては、平成２２年度国庫補助事業の整備後の経過確認及び樹勢調査として実施。

小屋原のトチノキについては、新規の樹木として調査を実施。測定結果は次の通り。

【計測データ】

幹周り 449cm、　樹高 18.0m、　根回り 8.83m、　枝張り東西 14.40m、南北 17.60m

トチノキは一般に樹高が 20～30m に達するが、ここに生育するトチノキは樹高が 18m ある。また幹周りが 300cm 以上あって巨樹の範疇に入り、県内では６番目の規模であるという。平地にこれだけの大きさで存在することは珍しく貴重であるとの見解が出された。

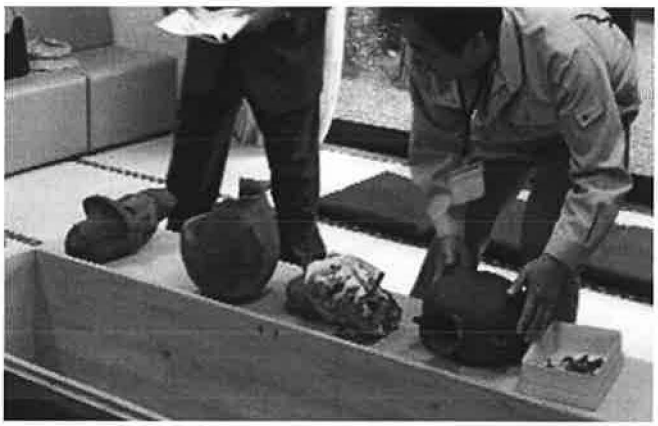
３　考古資料調査

（１）日　　時　　平成２４年１０月２３日（火）
（２）調査対象物件　　産泰神社所蔵考古資料
（３）調　査　者　　梅澤委員　　井上委員
（４）概　　要

産泰神社の協力の下、神社と群馬県立歴史博物館の２箇所で調査を実施。各場所での概要は以下の通り。

産泰神社では、アーネストサトウの論文に記載されている考古遺物と神社所蔵の遺物の確認照合を行なった。結果として、２点だけ確認が出来なかったが、全体的に良好な保管状況であった。

県立歴史博物館では、産泰神社より預かっている古鏡５面（「瑞花双鳳八稜鏡」「六鈴鏡」「半円方格帯四神四獣鏡」ほか江戸期の鏡が２面）の現況確認を行なった。



４　建造物調査

（１）日　　時　　平成２４年１１月８日（木）及び１１月２９日（木）
（２）調査対象物件　　赤城型養蚕住宅について調査
　　ア　町田紳三　宅
　　イ　田村文子　宅
　　ウ　北爪和男　宅
　　エ　長谷川富雄　宅（11/29 実施）
（３）調　査　者　　村田委員　　井上委員
（４）概　　要

平成２２～２３年度に実施された「近代和風悉皆調査」の結果をベースに、物件の現況を詳細に調査し、他の建造物データと比較検討するための基礎資料を収集することを目的に実施した。今回は、赤城型養蚕農家を中心に実施し、調査を行なった４棟とも保存状況はよく、一番古いもので１８Ｃ中頃まで遡る可能性があることが確認された。

5　県外視察調査（下仁田町・佐久市方面）

（1）日　　時　　平成２４年１１月１４日（水）
（2）視察調査地　　ア　下仁田町ふるさとセンター
　　イ　荒船風穴（国指定史跡）
　　ウ　旧中込学校
　　（国指定重要文化財）
　　エ　龍岡城五稜郭（国指定史跡）
　　オ　新海三社神社
　　（国指定重要文化財）
（3）調　査　者　　梅澤委員、井上委員、片山委員、村田委員
（4）概　　要

隔年で実施されているものである。今年度は、下仁田町及び佐久市の協力の下、国指定文化財を中心に視察調査を行なった。荒船風穴では２０１４年に世界文化遺産登録を目指している「富岡製糸場と絹産業遺産群」の４つの構成資産のうちの１つとして着々と整備されている現状を視察。また、佐久市の旧中込学校や龍岡城五稜郭では、文化財の整備事業における共通の問題点等について交換が出来た。

6　歴史資料調査　　※継続調査

（1）日　　時　　平成２４年１２月１日（土）
（2）調査対象物件　　寒河江家所蔵「前橋御城絵図面」
（3）調　査　者　　梅澤委員、井上委員、片山委員、村田委員
（4）概　　要

県史や前橋藩松平記録などの資料でも、利根川による侵食で前橋城が被害を受けている様子を表した絵図として周知のものであったが、所在場所が合併により前橋市となった旧富士見村であったため、本調査が初めてのものとなった。

絵図面の管理状況は、良好であるが、軸装されていないため折り目がつき、切れているところもあった。今後、何らかの措置を講ずる必要性が感じられた。また、調査時に本絵図面のほかに、貴重な文献、図面等が見つかり、今後、絵図面と併せて継続調査をしていくことが確認された。

第２章　新指定の文化財

今年度は、新指定文化財として重要文化財２件、重要有形民俗文化財１件が新たに指定され、これにより市指定文化財の総数は２４３件となった。以下は新指定文化財の概要である。

１　前橋市指定重要文化財　松平大和守直矩筆絹本著色菊図

所　　在　　地　　前橋市朝日町四丁目３３番１３号　　孝顕寺
所有者及び管理者　　孝　顕　寺
概　　要

本件は、美術愛好心が高かったとされる松平大和守家第２代直矩が幕府の御用絵師狩野探幽やその一門の絵師と作品を注文するなどの交流をする中で、自らが筆を取り描いたとされるものである。

直矩は、慶安元年（１６４８年）に父直基の死去により弱冠７歳で家督を継ぐことなる。当時、松平氏は姫路の藩主であったが、要衝の地姫路を７歳の幼君に任せるわけにいかず、慶安２年（１６４９年）に越後村上に転封となった。村上には１８年間在城した。寛文７年（１６６７年）には姫路に再び転封となり順風満帆であるかのように思われたが、越後騒動に連坐して閉門を仰せ付けられてしまう。その後、豊後日田藩主となるが、７万石（１５万石→７万石）に格下げとなり、同時に帝鑑之間詰、侍従の末席とされた。貞享３年（１６８６年）には、許され席を回復し、３万石加増となり山形へ１０万石で転封となった。元禄５年（１６９２年）には５万石を加えられて奥州白河藩主になり１５万石と回復するが、処分と度重なる引越しとで心休まるときは無かったようである。

その様な中でも、美術（芸術）愛好家としての気持ちがとりわけ強かった直矩は御用絵師狩野探幽などと交流し作品を注文するなどしていた。そのことは芸術資料として有名な「松平大和守日記」にも綴られている。また、万治２年（１６５９年）７月９日の条には「探幽にあつらへ申候富士之絵出来」や寛文２年（１６６２年）６月７日の条には「同日　探幽法印に言附三福一対之絵出来、是ハ当四日之暮方に以天野郷右衛門遣之　絵　雷　鐘馗大臣　風神」など、随所に見られる。直矩本人が本件を描いたかどうかの記述は残念ながら記録がすべて残っているわけではないので確認はできなかったが、落款や印章から本人筆であることを窺えさせる。

本件は、平成１１年度に前橋市文化財調査委員による孝顕寺調査の中で作られた目録に記載されていたが、本図自体への詳細調査は行なわれていなかった。そこで平成２４年度の前橋市粕川歴史民俗資料館での展示を機に、美術工芸の専門家による調査を実施した。その調査において、紅白の菊と蝶が繊細な筆致で描かれている様子は、中国の『銭舜挙』様の菊図であり、いわゆる殿様芸としては完成度が高く、松平大和守家にかかる貴重な美術資料であることが判明した。

このようなことから、資料の重要性に鑑み、今後、貴重な文化財の保存に万全を期すためにも、重要文化財指定を行ない、保護を図る必要性が極めて高い物件であると考える。

【指　定　理　由】

本市の近世の歴史を辿る上で、重要な存在である「松平大和守家」に由来するものであり、制作の緻密さ、完成度の高さから優れた絵画であり、芸術を愛好した松平直矩の姿を今に伝える貴重な資料である。

本市が所有している松平家関係の資料と共に近世前橋にかかる大和守家の藩主の姿を窺える重要な美術工芸資料である。

2　前橋市指定重要文化財　松平大和守直矩書写

紺紙金泥妙法蓮華経提婆達多品

所　　在　　地　　前橋市朝日町四丁目３３番１３号　　孝顕寺

所有者及び管理者　　孝　顕　寺

概　　要

この紺紙金泥「妙法連華経提婆達多品」は、松平大和守家第２代直矩により正室駒子の十三回忌に際し、法華経提婆達多品　第十二の教えのもと、無事に駒子が成仏できるよう祈願（女人成仏）し、紺紙に金泥で法華経の写経を行い、菩提寺である孝顕寺へ奉納されたものとされる。

直矩は、万治３年（１６６０年）４月２２日に伯父の松平直政の女「駒子」と結婚。しかしながら結婚生活は長く続かず、駒子は３年後の寛文３年（１６６３年）１月２９日に没する。江戸芝惣泉寺に葬られ、法号は、樹芳院殿花屋理春大姉。その後、直矩は姫路へ転封となる。過酷なまでの引越しやお家騒動（越後騒動）など、多難な生涯の中で最も安らいだ時期がこの頃ではないだろうか。この提婆達多品を奉納した６年後、越後騒動に見舞われ、閉門格下げとなり１５万石から７万石まで石高も落とされ、回復するまで長く苦難の日々となる。

現存している「松平大和守日記」には、正室駒子の一周忌、三回忌法要が執り行われている様子が記載されている。

一周忌に係る記述として寛文４年１月２７日の条に「同日　昼より於孝顕寺、樹芳院殿一周忌之法事執行之、東堂六人、惣出家五十人也、…」とあり、「わかれつる月ニハなれと其時の影さへなきの春の曙」と直矩による追善の歌が詠まれている。その外７首がさらに加えて詠まれている。

三回忌の法要に係る記述では寛文５年１月２７日の条に「同廿七日　朝曇、少々雪降、昼晴、今日ヨリ於端場惣泉寺、三回忌之法事云付ニ付テ、小河原、根村、安福…」とあり、さらに２９日の条に「同廿九

日　終日雨天、卯の中刻橋場惣泉寺参、羽州殿御裏方に懸御目、昨日書観音経并我作一巻仏段ニ置度由云、為進上……」としてあり、この後に追善の言葉と６首歌が詠まれている。

一周忌、三周忌以後の法事の様子については、日記が欠損しているため確認はできなかったが、本件、妙法蓮華経提婆達多品は、直矩により亡き正室駒子へ思いを込めて孝顕寺へ奉納されたものと考えられるものである。本件の「跋文」の部分には法華経提婆達多品を奉納した理由背景が「正室駒子がこの法華経の提婆達多品　第十二の教えにより極楽において悟りを開き、成仏されることを願う」と切実に綴られている。さらに経本の巻末に直矩直筆と思われる歌が次の通り添えてある。

花ちりし　むかしのあとを　十とせに
　　あまりて　みつのゆめは　さめけり

本件は、平成１１年度に前橋市文化財調査委員による孝顕寺調査の中で作られた目録に記載されていたが、妙法蓮華経提婆達多品自体への詳細調査は行なわれていなかった。そこで平成２４年度の前橋市粕川歴史民俗資料館における展示を機に、美術工芸の観点から専門家による調査を実施した。その調査において、「紺紙金泥妙法蓮華経提婆達多品」が松平直矩により延宝三年（１６７５年）に書写された一巻として貴重な資料であることが判明した。

このようなことから、資料の重要性や現況から鑑み、今後、貴重な文化財の保存に万全を期すためにも、重要文化財指定を行い保護を図る必要性が極めて高い物件であると考える。

【指　定　理　由】

本市の近世の歴史を辿る上で、重要な存在である「松平大和守家」に由来するものであり、紺紙に金泥で写経を行なう豪華さは当時の大名の姿をよく伝えている。

本市が所有している松平家関係の資料と共に近世前橋にかかる大和守家の藩主の姿を窺える重要な美術工芸資料である。

３　前橋市指定重要有形民俗文化財　平和町（旧向町）雷電神社の山車

所　　在　　地　　前橋市平和町一丁目８番１号　雷電神社社務所　山車庫
所有者及び管理者　　雷電神社氏子会

概　　要

本件は、江戸重層型山車の流れを汲む江戸時代末の山車であり、雷電神社の祭礼の際には常に引き出されたもので、現在も、祭礼時には町民を中心にした氏子により平和町内を引廻されている。市内に現存する山車としては、最古のものである。

前橋の祇園祭礼は、１７１６年頃から途中中断はあるものの江戸時代末まで毎年行なわれ、旧市２３町（後に１８町）が山車（飾り屋台）や踊り舞台（芸屋台）等を繰り出し、絢爛豪華な「おねり」を行なった。その様子は祇園祭礼絵巻（宝暦３年（１７５３年）、文政１１年（１８２８年）　前橋市指定重要文化財　前橋市立図書館蔵）や前橋町々祭礼行列絵図（寛政１０年（１７９８年）　県立歴史博物館蔵）に描かれている。平和町は、町名変更前（昭和４０年～４１年）は向町と呼ばれ、祇園祭礼には途中離脱はあるものの山車（飾り屋台）や踊り屋台（芸屋台）を出していた。

本件の山車については、平成２０年１０月に前橋市文化財調査委員による調査を実施した。その際、欄間飾りの裏面に墨書が確認され、赤外線調査の結果、「横地七右ヱ門」他約２０名（組頭及び大工等）の名前が確認された。「横地七右ヱ門」は、前橋市史（第６巻）や「向町御用日記」（横地家文書　前橋市立図書館）の記録によると天保１４年（１８４３年）から慶応３年（１８６７年）まで向町の名主を勤めたとされ、同じく記載されている組頭の横地兵太夫は安政元年に岩神村へ名主として異動したことが知れる。（松平記録第２６巻　安政元年申寅（１８５４年）　１２月２７日の条）これらのことから墨書の町役人の面々が揃う時期は遅くも安政元年と考えられ、本件の山車の完成はそのころまでには完成していたことが推測された。

これらの状況を受け、山車の重要性を鑑み、平成２４年度まで「市内文化財調査」（平成２１年１月、平成２１年８月）、「市内山車屋台調査」（平成２２年度～平成２４年度）として継続調査することとなった。調査は群馬県内の山車屋台の調査で精力的に活動する日本工業大学黒津高行教授の指導の下、前橋市内に現存する江戸・明治期の山車・屋台の調査を実施した。

調査では、準備調査として『祇園祭と山車・屋台調査報告書』（群馬県教育委員会文化財保護課 昭和５１年３月）を基に現地の確認、絞りこみを行い、最終的に１１地域の２２基について実地調査を行うこととした。実地調査では、２２基の建築の様式や改変の痕跡、欄間飾りなど細かにデータ収集を行い、最終的に、年代確定、現状及び復元図面を作成した。

これら一連の調査の中で本件の山車は、車体の上に床を乗せ、鉾台の形状は六角形で、鉾台を二重に重ねる点に特徴があることがわかった。さらに当初の山車の姿は、江戸山王祭りの古い山車の姿である二輪で牛が曳く形式の山車とも共通する特徴を持つことも明らかになった。これらのことにより本件が江戸重層型の山車であり、時代的にも江戸時代のものであることが構造的にも確認された。

平成２０、２１年度に実施された調査結果と「市内山車屋台調査」（平成２２年度～平成２４年度）において確認がされた欄間飾りの墨書などから、本件は、祇園祭礼の屋台の伝統を持つ向町が雷電神社の付祭りとして、本件山車を安政元年頃までに完成させたと考えられる。

以上の調査経過から、本件山車については、以下の３点が特筆すべき事柄として挙げられる。

①制作時期が判明し、かつ幕末まで遡る山車の事例は極めて少なく前橋市域には他に現存していない。

②関東に展開する山車や屋台の建築技術の特質を探る上でも興味深い対象であり、生きた歴史資料である。

③本件は今後の街づくりを考える上でも魅力的で有用な資料を提供する存在である。祭礼時における文化的環境を「後世に伝えるべき物件」として貴重な地域文化財である。

このようなことから、本資料の重要性に鑑み、今後、貴重な文化財の保存に万全を期すためにも、重要有形民俗文化財指定を行い、保護を図る必要性が極めて高い物件であると考える。

【指　定　理　由】

幕末期の山車であり、市内に現存するものとしては、最古の山車である。江戸型山車の流れを表す重層型の六角の鉾台など特徴部分の保存状況がよく、当時の山車屋台制作様式を今に伝える貴重なものである。

本市が所有してきた近世前橋に関する資料と共に、前橋の町方の文化的環境を窺い知ることができる重要な資料である。

第３章　文化財保護事業

１　保護管理運営事業

(1)　国有文化財管理

文部科学省（文化庁）が所有する、国有文化財天川二子山古墳と総社二子山古墳の２箇所について、自治会役員等を国有文化財看視人として委託し、見回り看視、清掃等の日常管理を実施した。また、同古墳の除草等については、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに業務委託し、総社二子山古墳は地元の総社地区史跡愛存会に業務委託のうえ、6月下旬と９月の計２回実施した。

総社二子山古墳除草作業

(2)　国・県・市指定文化財管理

今年度実施したし指定文化財の種別及び名称の修正による種別間の文化財異動と新指定を加えた平成２５年３月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指定名称	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	5	40	140	185
史跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
天然記念物	2	3	13	18
名勝	0	1	0	1
合計	18	58	243	319
登録有形文化財	21			21
登録有形民俗文化財	1			1
重要美術品	8			8

①　史跡等の除草及び竹片付け

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草面積（㎡）
1	亀塚山古墳	市指定	山王町 1-28-3	4,968
2	金冠塚古墳	市指定	山王町 1-13-3	4,814
3	今井神社古墳	市指定	今井町 818	4,624
4	車橋門跡	市指定	大手町 2-5-3	750
5	天神山古墳	県指定	広瀬町一丁目 27-7	730
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町四丁目 9-3	20,000
7	蛇穴山古墳隣接地	国指定	総社町総社 1587-2	5,674
8	宝刀山古墳	国指定	総社町総社 1606	2,204
9	女堀	国指定	富田・東大室・二之宮・飯土井他	59,986
10	不二山古墳	市指定	文京町三丁目 151-6	1,142
11	荒砥不二山古墳	県指定	西大室町 813-2 他	2,700
12	大胡城跡	県指定	河原浜町 660-1 急傾斜地 660-31, 32	24,934 3,700
13	堀越古墳	県指定	堀越町 861-1	582
14	大日塚古墳	市指定	五代町 214	1,124
15	総社古墳隣接地		総社植野 365-2	792
				138,724

○国指定史跡女堀二之宮町３５３－２地内の竹片付け
実施期間　平成２４年５月１４日～６月３０日
実施場所　女堀東沼　１６８０㎡

②　樹木管理

台風により総社二子古桜１本伐採、八幡山古墳墳松の倒木２本、遠見山古墳雑木１本伐採、中二子古墳小楢１本、女堀の西沼北等の剪定12月　車橋門伐採１本選定３本・１月　堀越古墳　伐採６本作業を行った。

③　その他の環境整備

ア．市が管理している史跡等について、職員の見廻り巡視を行い、見学路・景観確保のためゴミ拾いとともに、折枝や枯木の発見に努めた。

イ．市が直接管理する国指定史跡４ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行なうため、オルトランカプセル(樹木注入型殺虫剤)の樹幹注入を職員により実施した。

○ 実 施 日　平成２４年6月１９、２０日

○ 実施場所

①天川二子山古墳②総社二子山古墳③宝塔山古墳　④蛇穴山古墳⑤富士見文化財収蔵庫

○樹木本数　８３本(五ヶ所合計)

ウ．市が管理している、国指定史跡の女堀二之宮町地区の急傾斜を除く東沼・西沼全体に生えている竹に除草剤の竹稈注入を行い竹の枯死を計った。

○ 実 施 日　9月３日～9月２８日(１０日間)

○ 実施場所　国指定史跡女堀　二之宮町地区竹稈注入本数およそ７００本。

枯死した竹（西沼北）

エ．　本年は、蜜蜂・ススメバチが発生をしたため時沢小学校他４件の駆除を行った。

(3)　文化財の保護

①　文化財パトロール

市内を１０地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置して、指定文化財の管理状況の把握に努めた。報告は月１度書類の提出をお願いし、その報告の内容により、除草や倒木や説明板等の対処をした。また、その報告書は、文化財の状況をＡＢＣＤで評価している。平成２４年度は、２人が退任し、新たに２人の指導員を委嘱した。

第１回会議は、４月２７日（金）に行った。平成２４年度事業概要・事業計画及び平成２３年度文化財パトロール報告のまとめを報告し、説明板の破損状況や文化財の管理状況・樹木の伐採など文化財保護の率直な意見交換をした。

そして、文化財保護指導員の資質の向上を図るために、１１月１５日（木）に県外研修を実施した。今回は、府中市・小金井市方面で、大国魂神社・ふるさと府中歴史館、江戸東京たてもの園を能登文化財整備指導員の案内で訪問した。大国魂神社の宝物殿や武蔵国の国府跡、たてもの園では文化的価値の高い歴史的建造物を見学した。指導員の知識習得に多大な成果を収めることができた。

現地見学の様子

②　文化財防火訓練及び防火査察

ア　防火査察

第５９回文化財防火デーにより、４１件の文化財査察対象物に対して９班編成を組み、前橋市消防局(各消防署)及び㈱東京電力等と協力して、合同立入査察を実施した。

査察の様子

○平成２５年1月２３日(水)

（１班中央消防署：５施設　９：３０～）

臨江閣本館、茶室、別館、前橋藩松平家奉納能装束一式（東照宮）、前橋藩松平大和守家記録(405 冊)、酒井家史料(129 点)前橋祇園祭礼絵巻(2 巻)（市立図書館）、梵鐘（妙安寺）、神明宮の甲冑・奈良三彩（総合教育プラザ）

（２班中央消防署：４施設　１３：３０～）

旧蚕糸試験場事務棟、東福寺鰐口、上泉郷蔵附上泉文書・上泉の獅子舞、石造薬師三尊立像（宝禅寺如意寺）

（８班北消防署：２施設　９：３０～）

日輪寺寛永の絵馬十一面観音像、鉄造阿弥陀如来坐像（善勝寺）※前橋藩家老小河原左宮の甲冑附旗差物(紺糸威二枚胴具足)は都合つかず。

（９班北消防署：５施設　１３：３０～）

珊瑚寺の板碑と多宝塔、横室の歌舞伎衣装、萩林庵の阿弥陀像、原西の阿弥陀像、時澤の仁王と多宝塔（安楽寺）

○平成２５年１月２４日(木)

（６班南消防署：２施設　９：３０～）

駒形町午頭天王の獅子頭一対、円満寺薬師如来座像(※円満寺は１月２５日実施)

（５班西消防署：４施設　３：３０～）

光厳寺薬医門・打敷・油単並びに幡、上野総社神社本殿他、徳蔵寺懸仏・麻本著色両界曼荼羅一対、大徳寺総門・多宝塔油単並びに幡

（７班南消防署：６施設　９：３０～）

旧アメリカンボード宣教師館(共愛学園)、慈照院千手観音座像、二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納曽利面、無量寿寺地蔵菩薩立像・無量寿寺十一面観世音立像、産泰神社本殿・幣殿拝殿神門及び境内地他、旧関根家住宅、

○平成２５年１月２５日(金)

（３班東消防署：６施設　９：３０～）

五十山薬師如来十二神将（堀越町堀下自治会）旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一対（金蔵院）、大胡神社の算額、阿久沢家住宅、諏訪神社歌舞伎舞台他、金剛寺十一面観音木像他、

（４班東消防署：５施設　１３：３０～）

狂歌合の額他（住吉神社）、三夜沢赤城神社本殿内宮殿他、木造十一面観音立像、三番叟かしら対附属古文書、近戸神社御興地

イ　文化財防火訓練

平成２５年１月２７日（日）日輪寺町の日輪寺において、防火訓練予定であったが、当日、災害が発生したため、中止となった。

③　寄附の受入

平成２４年度は、以下７件の貴重な文化財資料等を受け入れた。

○徳川家斉御内書・前橋魚鳥市場創設資料等一式

○ひな人形一体(江戸時代末期の大名雛、伝前橋藩主松平直克より拝領)

○ひな人形親王飾り（明治１５年頃）

○オルガン（昭和初期）

○元国立原蚕糸種製造所　　前橋支所内写真

○明治前期測量フランス式彩色地図迅速測図復刻版

○近代蚕糸業関係資料一式(特許書類、レッテル等)

徳川家斉御内書

ひな人形

(4)　刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

①　刀剣の製作承認

市内在住の高橋恒厳氏から９口（太刀２、刀２、短刀５）の承認申請があり、すべてを承認した。

承認後は県公安委員会及び県教育委員会文化財保護課へ、承認した旨を通知した。

②　刀剣の手入れ

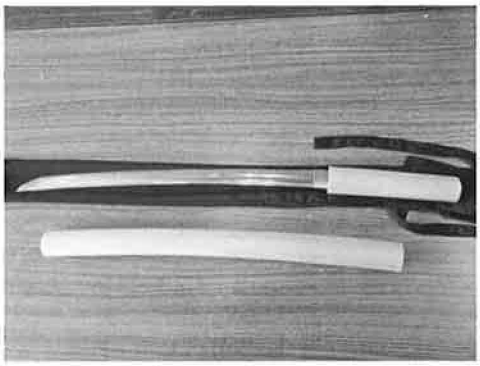
本市が寄附受入を行った刀剣を、良好な状態で保存するため、専門的な技術者による手入れを行っている。今年度も例年通り、９月と２月の２回実施した。

対象刀剣類は７種５２口。今年度は、錆のあるものなど、別途委託を要するものは見受けられなかった。

刀剣手入れの様子

③　所有刀剣の白鞘・鎺(はばき)作成

昨年度個人より寄贈いただいた脇差、直江 志津の保管のため、白鞘及び鎺の作成を委託した。



完成後

④　指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更は、国指定文化財２件、県指定文化財４件、市指定文化財１件であった。

詳細は一覧の通り。

種別	指定名称	内容
国史	女堀	台風 12 号により生じた地割れの復旧（法留柵設置）工事
国史	八幡山古墳	北側外柵建替え
市天	総社神社の社叢けやき６本	平成24年９月３日に枯死により倒木の危険が生じた指定樹木１本の伐採除却を行った。これにより社叢けやきの員数は、６本から５本になり、指定名称も「総社神社の社叢ケヤキ」と修正された。
県重	旧蚕糸試験場事務棟　一棟	アラームセンダ等（警備機器）の設置、窓ガラス交換
県重	臨江閣本館茶室二棟付棟札二枚	二階平瓦の葺き直し
県史	前橋天神山古墳	階段外側の石積みの積みなおし
県天	時沢の夫婦マツ	調査のための検体採集とアカマツの養生措置

⑤　重要文化財阿久沢家住宅の公有化

阿久沢家住宅は、北関東地方の平地における古民家の好例として、国の指定を受けた建造物である。

本住宅の所有者は個人であり、所有者側は維持管理を行っていく上で経済的に負担が大きく、公共団体による買上を望んでいた。また建物の老朽化が進んでおり、その改修費用も多額になると見込まれ、旧所有者の経済状況では、その負担は難しく、文化財の滅失につながる恐れがあった。

このため、文化財としての適切な保存・管理を図るとともに、市民の歴史学習の場として市民の文化財への理解を深め、後世に伝えていくことを目的として、国庫及び県費の補助を受けて阿久沢家住宅の所在する敷地の公有地化を行った。また南側に隣接する土地については、進入路やポンプ室等の防災設備等の用地として市費で取得した。

なお、阿久沢家住宅、同管理棟、防災設備一式については、旧所有者からの寄附の申出を受けて公有化した。

土地及び建物の取得後は、老朽化した建物本体の改修や周辺環境の整備を実施して、本来の歴史的景観を復元するとともに、駐車場やトイレ等の周辺施設の整備を行って、更なる活用を促進する予定である。平成２４年度は屋敷林の間伐を実施した。今後予定している整備事業を有効且つ円滑に行うため、有識者らによる阿久沢家住宅整備委員会を設立し、平成２５年１月２１日に第１回の会議を開催した。

(5)　前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園のこの場所に解体移築し、昭和５７年４月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。日常管理を前橋市シルバー人材センターに委託している。このほかに管理業務では、消防設備保守点検、樋及び周辺清掃業務を委託している。

建物内に４つの展示室(①開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座繰器をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や養蚕信仰の資料)を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

本年度は、春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催により、ゴールデンウィークから団体客が多数来館し、５，６０６人の見学者があった。また、ばら園まつり、バラフェスタの期間中、富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て座繰り・桑の木クラフト体験コーナーを設けた。今年は、春に４回、

秋に３回行った。春・秋合わせて３０１人が座繰り体験を楽しみ、自分で挽いて採った糸はお土産としてプレゼントした。

また、桑の木クラフト体験は、５０７人が参加し存分に楽しんだ。

座繰り、桑の木クラフト体験の様子

(6)　総社資料館の管理・活用

平成２４年度の開館日数は２５４日、来館者数は４，７８５人で平均的な目安となる５千人を割り込む状況であった。来館者は小学校による学校単位での利用によるものが中心で、天狗岩用水や昔の道具の学習、さらには古墳の見学を目的として、３，３２３人が訪れた。また近隣の市外小学校からの見学申込みもあり、地域で認知されていることが窺える。

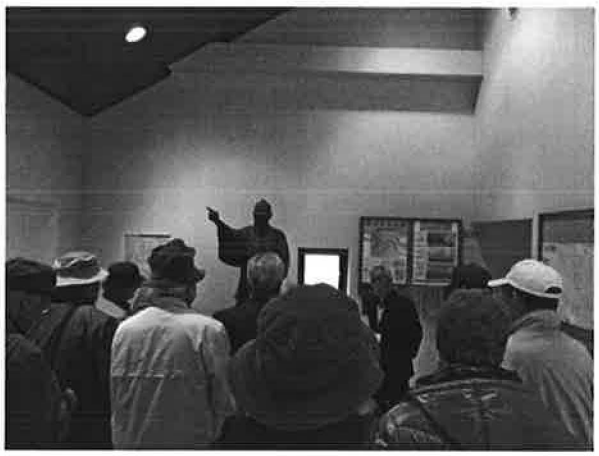
秋元歴史まつりは、武者行列の実施されない年であるため、総社地区文化祭の一環として関連事業を実施した。主に遺物の展示、資料館説明員による総社地区史跡案内を行なう。また例年のとおり、富岡製糸場世界遺産伝道師協会による「座繰り体験教室」も実施した。今回は、今まで北蔵で実施していた鎧の試着体験と記念撮影が、新しくなった総社公民館での実施となるなどイベントとの相乗効果が薄れ、全体的な入場者数に影響したと見られ、今後は展示面などで魅力を増していく必要もある

３月には説明員研修を実施した。今回は太田市の文化財や関連施設を学ぶ機会とし、金山城ガイダンス施設・高山彦九郎記念館・大隅俊平美術館・冠稲荷神社・縁切寺満徳寺資料館・新田荘歴史資料館・世良田東照宮を見学した。文化財的な資料や展示物の説明・解説の方法など、参考にできる点が多かったと思われる。

前年度より小学３年生の民具関連の見学が増えたことから、西倉の展示品の整理やキャプション等の充実が、当面の課題となっている。

また、年度当初の学校への案内、また資料館来館者用にパンフレットを用意しており、年度末に１，０００部刷した。

秋元まつり（史跡めぐり）



説明員研修視察（太田市：高山彦九郎記念館）

(7)　前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民族資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は１回の企画展を開催し多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。開館日数は１８９日入場者数合計１，６８４人を数えた。

企画展概要

特別企画展「藩主の肖像」

群馬県重要文化財指定記念特別展として、歴代前橋藩主の肖像を一挙に公開します。

特別公開：『松平大和守家藩主画像』『前橋藩松平大和守家記録』
※原品の展示は１１月４日まで、以降はパネルの展示となります。
展示期間：平成２４年９月２９日から平成２５年２月３日まで開館は２月１１日

(8)　前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

施設は無人となる。

施設内の機械警備、小荷物昇降機、浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(9)　大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選出して、史跡管理業務を委託した。

群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

６月１３日に開催された大室イベントでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座繰の体験を行い、多くの参加者を集めた。

(ア)管理業務実施日は以下のとおりである。
４月から１１月まで：月曜日を除く毎日。
１２月から３月まで：土・日・祝日。
前二子、後二子石室鍵開け　午前９：００
前二子、後二子石室鍵閉め　午後４：００

(イ)点検場所
1．前二子古墳　2．中二子古墳　3．後二子古墳
4．付小古墳　※清掃は石室開閉時に実施している。

(ウ)年末年始休業
１２月２７日(月)から１月４日(火)まで

(10)　大室公園民家園の管理・活用

民家園は赤城型民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。

平成24年度開館日数は２４６日、民家園来園者数は記帳者の確認だけで3,405人となっている。６月１３日に開催された大室イベントではふかし饅頭の体験が開催された。

また、古墳の語り部による勾玉作りが、８月６日（土）開催されおよそ30人が参加した。

(11)　臨江閣の管理・活用

平成２０年度から臨江閣の管理活用は、生涯学習課から文化財保護課へ替わった。それまで臨江閣は中央公民館の別館として利用されていた。明治時代に建てられ指定文化財になっている建物の保護と文化財としての普及活用を主眼としたため、所管換えが行われた。

日常管理については、管理人を２名常駐させ、館内外の清掃と見学者の受付を行った。この管理人は、前橋市シルバー人材センターへ委託した。この他に管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者委託した。なお、庭内の樹木は、公園管理事務所へ管理の依頼をしている。

また、管理人・消防設備点検業者を呼んで、１０月と３月に消防訓練を行った。３月の訓練では、消防署隊員にも立会っていただき、訓練を行った。

施設の活用では、展示室で「前橋空襲と都市の復興」を８月まで、９月以降は「臨江閣と近代前橋のあゆみ」を開催している。

イベントは、お茶会を中心に生花、百人一首大会、講演会等さまざまな文化的行事が行われた。また、今年はCM・ドラマ撮影などにも利用された。

見学会は、春、秋を中心に学校関係の学習見学や各種団体の視察見学が頻繁にあった。

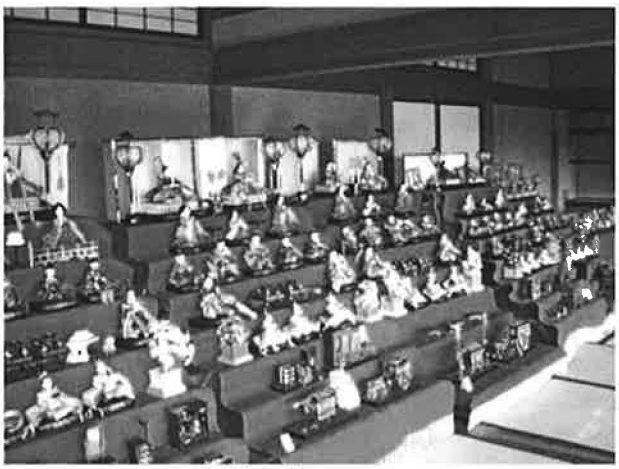
撮影は、結婚企画会社や写真館が中心に結婚衣装・七五三・成人式写真等の写真撮影が行われ、１年通して頻繁に利用された。今年は、記念写真の撮影場所として広く認知されてきており、昨年に比べるとかなり増えてきている。

２～４月には、市民の寄贈による雛人形を展示し好評を博した。

最後に臨江閣への平成２４年度の入場者数であるが、利用・見学・写真撮影など、２４，５５６人で昨年より６，５２１人増加した。

保全修理では、本館二階屋根瓦の補修工事を行った。また、台風によりに本館二階の窓木枠が破損したため、新規に窓木枠を作製し施設の保全に努めた。

パンフレットについては４，０００部増刷した。また、新しく団体見学者用のパンフレットを６００部作成した。



雛人形の展示

2　整備事業

(1)　前橋市臨江閣整備委員会

臨江閣を末長く保存整備し、積極的な利活用を図っていかなけならない。そのため、本市を代表する近代和風建造物である臨江閣の整備について、文化財保護、建造物調査、整備工事等の専門的な見地から検討し、協議を行う。

①　第３回前橋市臨江閣整備委員会

ア　開催日及び会場

平成２４年８月１日

前橋市役所３階３２会議室

イ　出席者

〈委 員〉　梅澤委員長、村田委員、松野委員、樽井委員、

〈ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ〉群馬県文化財保護課斉藤指導主事

〈事務局〉　関口管理部長、根岸教育施設課長、公園管理事務所上野維持管理係長、文化財保護課

ウ　内容

事務局より①臨江閣保存計画②これまでの経過③今後の予定を説明し、その内容について協議・検討を行った。

主な意見

・臨江閣は文化財の価値を損なわない範囲での利活用を図る。

・舞台は当初どうなっていたのかを検証のうえ、委員会で対応を協議する。

・保存計画管理では何年を基準に復原するのかを決める。

・本館、茶室の整備については、群馬県と協議をする。

②　第４回前橋市臨江閣整備委員会

ア　開催日時及び会場

平成２５年２月２０日

中央公民館５６学習室

イ　出席者

〈委員〉梅澤委員長、村田委員、内田委員、松野委員、樽井委員

〈事務局〉吉田公園管理事務所長、文化財保護課

ウ　内容

事務局より①臨江閣保存計画②今後の予定についての説明があり、その内容について協議・検討を行った。

主な意見

・舞台は撤去し、１８０畳の大広間に戻し、仮設の舞台（山台）を作製する。

・階段に障害用のリフトを設置する。

・渡り廊下の下の階段をスロープにする。

第２回整備委員会の様子

(2) 保存修理事業

①　臨江閣保存修理事業

平成２２年度から３年計画で本館と茶室の保存修理を行った。３年目の今年は本館二階屋根瓦等補修工事を行った。工事は平葺き部軒瓦１枚目及び２枚目までを残し、一旦全て瓦を解体し、横方向のズレ防止のため、横桟を追加し、縦方向にも桟を打ち、瓦すべて釘留めした。

ア　工事概要

仮説工事

木工事

屋根桶工事

解体工事

イ　事業費　　4,201,500円

（市単独費）

②　上野総社神社保存修理事業

＜本殿＞

本殿屋根のこけら葺きの損耗が顕著であることや壁画の剥落等の劣化が生じていることから補修を行うもので、５年計画事業の４年目である。

ア　工事概要

仮設工事、屋根工事、塗装工事、金具工事

イ　事業費　　16,402,000円

（内訳）

県補助金　　11,481,000円

市負担金　　2,460,000円

＜拝殿＞

棟の銅版が剥がれ落下した箇所があり、下地となる木部についても腐朽・劣化がみられ、銅版をとめている釘が効いていない可能性がある。棟の銅板が落下し穴から雨漏りを生じさせるおそれがあるため棟の補修工事を行った。

ア　工事概要
仮設工事、解体工事、木工事、板金工事
イ　事業費　　3,150,000円
(内訳)
市補助金　　1,575,000円

③　総社神社社叢けやき樹木診断業務
社叢けやき一本の根の部分が脆くなっており、樹木の状態をしっかり把握する必要があるためレジストグラフ診断を行った。
事業費　　36,750円
(市単独費)

(3)　その他史跡に関わる保存修理事業
①　八幡山古墳外柵改修工事
外柵が経年劣化により腐食、折損の箇所があるため、２～３年計画で補修を行うものである。今年度は、北側及び北西の一部の外柵 136.7mを新設した。
事業費　　1,806,000円
(市単独費)

②　天神山古墳石垣補修工事について
指定地内に設置された階段外面の石積みが、経年劣化により目地が緩んだことにより、積んでいた石の崩落が生じているため、史跡の保全及び周囲の安全確保のため石積みの改修工事を実施した。実施方法は階段外面の石積み約２０㎡をいったん撤去した後に再度積みなおし、石の接触箇所はボンドにより接着し、空隙はモルタルによる間詰めを行った。
工期は平成２４年１２月１０日～平成２５年２月１５日で、総事業費は924,000円である。

その他の簡易修繕

修　繕　名	金　額
蚕糸記念館ガラス修繕	90,457円
大胡城跡階段脇水路修繕	91,350円
臨江閣本館二階窓外枠修繕	98,910円
女堀立ち入り禁止柵設置	66,150円
蚕糸記念館消防用設備等修繕	99,750円
臨江閣別館ブレーカー修繕	53,130円
亀塚山古墳外柵修繕	99,823円
臨江閣門扉修繕	99,750円

(4)　文化財めぐり等案内板の整備
①　市指定文化財説明板等の建替等
劣化により読めなくなった箇所の説明板の建替・書替、標柱の書替を行った。
ア　工事概要
江田鏡神社の獅子舞、石田玄圭の墓、野良犬獅子舞、牧野家墓地、宿の平の宝塔、宇通遺跡、旧小暮一の鳥居、山王の宝塔、カロウト山古墳の説明板の建替(教育振興基金により執行)
石田玄圭の墓、山王の宝塔、野良犬獅子舞標柱の建替
イ　事業費　　2,551,500円

3　普及事業

(1)　前橋市・高崎市連携文化財展
前橋・高崎連携文化活用事業として、両市の所有する文化財を広く紹介することにより、文化財の共有化と市民相互の文化意識の向上や、文化財への理解に寄与することを目的として、文化財展「東国千年の都」を開催した。また今年度は、最新の発掘調査成果を分かりやすく市民の方に伝えることを目的として、両市それぞれで遺跡報告会を開催した。
①　展示テーマ
テーマⅠ『パワースポットへようこそ！－古墳時代の祈りのかたち－』
古墳時代の祭祀遺跡にスポットを当て、両

市における古墳時代の祭祀遺跡やその出土品を通じて、当時の人々の祈りや願いについて考える構成とした。本展示では祭祀に用いられた出土品を集成し、祭祀形態ごとに展示を行った。

テーマⅡ『発見されたタカラモノ－新発見！前橋・高崎の発掘調査速報－』

前橋・高崎両市で近年実施された発掘調査の成果を通じて、文化財への理解を深める構成とした。

② 期日・会場

・前橋会場　平成２５年１月９日～１５日
前橋プラザ元気21　１階にぎわいホール

・高崎会場　平成２５年１月１９日～２８日
高崎シティギャラリー　２階 第６展示室

③ 開催結果

来場者数は総計３，８０３人で、うち前橋会場は２，６１４人だった。また前橋会場でのアンケート結果では、この文化財展の感想として「おもしろい」９３．１%、「興味深い企画だ」９０．２%、「展示されていた遺跡を訪ねてみたい」８３．９%、「もっと続けてほしい」８５．１%（回答者１７４人）と好評を得た。

(2) 第40回前橋市郷土芸能大会

① 日　時　平成２４年１１月１７日（土）

② 会　場　前橋市民文化会館　小ホール

③ 内　容

前橋市内から出演の４団体に近隣市町村からの招待団体を加えた計５団体の公演を行った。

近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ恒例となっているが、今回は高崎市より、同市指定重要無形民俗文化財「大八木町諏訪神社獅子舞」に出演いただいた。もう一つの恒例となっている抽選会も実施した。これは余興的な要素がある一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで活気を持たせるねらいで実施している。市内外２０の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。

さらに、マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行った。（延べ550名入場）大会全体の所要時間は、各出演団体の協力により、ほぼ時間通りに進めることができた。今後も、より充実した大会を目指し、工夫と努力を重ねたい。

郷土芸能の名称	保　存　会　名	所在地
御霊神社 太々神楽	御霊神社保存会	粕川町 女渕
若一囃子	若宮町一丁目 お囃子保存会	若宮町 一丁目
大八木町 諏訪神社獅子舞	大八木町諏訪神社 獅子舞保存会	高崎市 大八木町
大友町百万遍 念仏供養	大友町百万遍 保存会	大友町
立石諏訪神社 の獅子舞	立石諏訪神社 獅子舞保存会	総社町 植野

公演の一場面

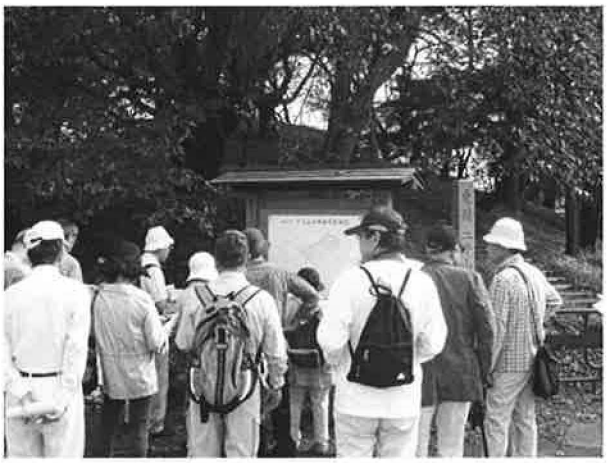
(3) 普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成１５年度より開始した。平成２４年度は、９月に「まえばしの古墳めぐり」と題し、総社古墳群を訪問した。総社二子山古墳、宝塔山古墳等全５古墳をめぐった。参加者も身近に、こんなに古墳があるとは思わなかったと感動していた。地元を知ることができる貴重な体験をすることができた。

日時　平成２４年９月２８日(金)
　　１３時３０分～１６時３０分
案内　文化財保護課　福田主任
参加者：１８名

コース：まえばしの古墳めぐり
王山古墳→総社二子山古墳→愛宕山古墳→宝塔山古墳→蛇穴山古墳



総社二子山古墳での見学風景

② 講座　前橋の文化財

多くの文化財と歴史遺産に恵まれた前橋の魅力を広く市民に周知すると共に、新しい前橋の歴史に触れ、「ふるさと前橋」に興味・関心を高めるための一助とすることを目的として、「きいて・みて・ふれて・あるく　前橋歴史探訪」ふるさとの語り部講座を開催した。本講座は平成２３年度に続く第二回目で、本講座で学んだ市民が、多くの他の市民や本市への来訪者に対し、文化財解説ボランティアとしてその知識を還元するとなるような講座を目指し、歴史を学習する楽しみを知ってもらう講座とした。講座は、座学とフィールドをセットとし、合計６単位１２日とした。

①講座内容

日時	単元講座名	内容	講義	講師
7月1日	前橋を掘る	大地に刻まれた前橋の歴史	座学	能登健氏
7月8日		埋もれた文化財を歩く	野外	文化財保護課職員
7月22日	前橋の地形と風土	前橋の成り立ち	座学	早田勉氏
7月29日		里山の自然	野外	片山満秋氏
8月19日	古墳時代の前橋	朝倉、広瀬古墳群を訪ねる	座学	右島和夫氏
8月26日		朝倉、広瀬古墳群を歩く	野外	文化財保護課職員
9月9日	戦国時代～近世の前橋	発掘された前橋城	座学	藤巻幸男氏
9月22日		前橋の城郭を歩く	野外	飯森康広氏
10月14日	前橋の歴史的建造物	前橋の歴史的建造物について	座学	村田敬一氏
10月21日		前橋の歴史的建造物をめぐる	野外	景観建築研究機構
11月3日	郷土の歴史と文化	前橋市の文化財	座学	文化財保護課職員
11月11日		前橋市内の指定文化財を歩く	野外	

②開催結果

広報まえばしにて参加者を募集したところ、定員数を超える申し込みがあり、抽選の結果参加者数は４５名、全１２回ののべ参加者数は４３９名であった。また参加者へのアンケート結果（回答数３０）では、本講座の内容について回答者の９割が「興味深い」と回答しており、「やや興味深い」を含めるとすべての回答が興味深いとの回答が得られた。また本市の歴史や文化を伝える活動について、９割が「興味がある」・「やや興味がある」と回答しており、本講座のもう一つの目的である解説ボランティアの養成について、次年度以降解説ボランティア養成する講座とすることに弾みがついたアンケート結果と考えられる。

③ 出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として授業を行うものある。依頼を受けた、学校の担当教諭と事前打ち合わせを行い、その中で、授業のねらいや留意点などをできるだけ詳細に確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、延べ１１校６３６名に対応した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名　学年	実施内容（実施場所）
4/15	滝窪小学校 ６年	土器つくり
5/31	粕川小学校 ６年	大室古墳群解説

6/8	広瀬小学校 ６年	土器つくり
6/12	大胡小学校 ６年	勾玉つくり
6/21	下川淵小学校 ６年	勾玉つくり
7/19	芳賀小学校 ６年	埴輪つくり
9/20	群馬大学教育学部附属小学校５年	臨江閣・前橋公園等前橋の歴史講義
1/31	滝窪小学校 ３年	むかしの道具・くらしの解説（体験学習含む）
2/6	月田小学校 ３年	むかしの道具・くらしの解説（体験学習含む）
2/14	大胡東小学校 ３年	むかしの道具・くらしの解説
2/27	朝倉小学校 ６年	勾玉つくり

○出前講座（生涯学習課事業）

今年から「解明！古代前橋の中心「推定上野国府跡」」を増設し、４つの内容で講座を実施した。状況は以下の通り。

ⅰ．「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」

希望なし

ⅱ．「古代の東国に咲いた華　山王廃寺」

２団体　　４６名

ⅲ．解明！古代前橋の中心「推定上野国府跡」

１団体　　８２名

ⅳ．「文化財のあらましと保護行政について」

２団体　　３０名

④　職場体験学習

今年度は、2 件の依頼があった。そのうち１件高校からの依頼を受け入れた。

実施概要は以下の通り。

○9/10～9/12

桂萱中学校　　第２学年　　７名

○10/22～10/25

群馬県立前橋商業高等学校

第１学年　１０名

⑤　文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、写真資料の貸し 出しを行なった。主な貸し出しは以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
楫取素彦公徳碑写真データ	萩博物館
阿久沢家住宅写真	（社）日本木造住宅産業協会
宝塔山古墳石室写真	読売新聞高崎支社
前橋天神山古墳全景・粘土槨写真	（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
山王廃寺推定配置図面等	韓国國立扶餘文化大学
臨江閣本館写真	一般財団法人　群馬経済研究所
・大室古墳群の写真 ・愛宕山、蛇穴山古墳、宝塔山古墳の各写真	群馬県西部県民局西部行政事務所

(4)　大室古墳群公開イベント２０１２

平成１６年度に整備事業が終了した大室古墳群で、古墳めぐりや体験活動、遺物展示などを行うことで、地域と結び付いた歴史遺産の活用促進と文化財愛護精神の高揚を図ることを目的として、大室古墳群公開イベント 2012「☆たんけん☆大室古墳王国！」を開催した。

①　開催日　平成２４年６月１０日

②　イベント内容

（1）体験イベント　勾玉づくり、火おこし体験、座繰り体験、桑の木細工

（2）古墳めぐりスタンプラリー

（3）市民ボランティア解説員「大室古墳（つか）の語り部」による大室古墳群の見学会。

（4）郷土の食コーナー　　ふかしまんじゅう調理体験

（5）観光物産品、農産物等直売

（6）文化財保護課作成物の頒布及び配布

③　開催結果

当日は好天にも恵まれ、各体験イベント参加者合計数は２，４００名を超えた。また来場者へのアンケートを実施したところ、肯定的な意見が多く、継続の要望も寄せられており、概ね好評を得られた。

(5)　前二子古墳石室復元市民プロジェクト

大室古墳群史跡整備事業の完成を記念して、前二子古墳石室出土遺物を市民ボランティアの手で復元する「前二子古墳石室復元市民プロジェクト」を実施している。平成１８～２０年度にかけて第１期事業として、前二子古墳出土の土器や金属器、装身具の制作を行い、完成品を前二子古墳の石室に納めた。平成２２年度からは第２期事業として、前二子古墳石室出土の装飾須恵器や金冠塚古墳出土の金冠などを制作し、第２期事業の最終年度に当たる今年度は、前二子古墳出土の杖形埴輪や後二子古墳出土の馬形埴輪、その他関連する埴輪を制作した。

○6月５日～9月２日

前橋市立図書館展示室の夏季企画展『前二子古墳出土品のルーツを探る～日韓の古墳と装飾土器～』を開催し、平成２３年度制作品を展示。

○7月２０日

実行委員会総会を開催。委員１０名、監事1名，顧問１名を委嘱。

○8月３１日～9月１８日

広報まえばし、ホームページ等でボランティアを募集。３６名の応募があり、３２名が参加。

○１０月６日

オリエンテーション開催。「大室古墳の語り部」による古墳案内、活動内容の説明。

○１０月１２日～１１月５日

埴輪制作ワークショップ。前半は総合教育プラザを、後半は文化財保護課を会場として開催。のべ参加者数は２１７名（ボランティア１５７名、実行委員６３名）３６点の制作品ができあがった

○１２月８日～1月１２日

埴輪の焼成。会場は鼻毛石町一心窯。のべ参加者数は６２名。すべて良好に焼きあがった。

○2月２４日

埴輪制作完成記念考古学講演会を総合福祉会館にて開催。講師は文化庁調査官和田一之輔氏に依頼し、「前二子古墳出土の杖形埴輪の謎」と題して講演を行った。来場者数は７４名で、９割以上の来場者から「面白い」、「興味深い」との回答が得られ、好評を博した

○3月６日～3月３０日

前橋市総合教育プラザ教育資料展示室にて、企画展「杖形埴輪の謎を探る～前二子古墳出土の杖形埴輪から～」にて、平成２４年度制作品を展示。

(6)　大室古墳群市民ボランティア解説員の活動

一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し、市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」が発足し７年目となった。ボランティアは9名、ほとんどが地元在住の市民で活動している。

春から秋にかけての定例説明会（古墳案内）。また、団体・個人から見学依頼を受けて行う案内。他に、大室イベントへの協力。小学生の夏休み期間にあわせて、まが玉づくり教室を開催するなど、今年も積極的な活動を行った。定例説明会は、「広報まえばし」や市ホームページでの広報も行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、翌年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体（施設）を見学し資質向上に努めている。

①　定例活動（古墳案内等）

（5月～１１月の主に第１土曜日）

9時30分から11時頃までを受付時間、民家園を集合・出発場所として開催。希望者が集まり次第、人数に応じてグループ分けするなどして案内。一周一時間程度。

大室古墳群公開イベントや小学生の夏休み特別教室に合わせても実施している。

見学者　計　７４名

② 学校・一般団体等の案内

19 団体へ実施

見学者　計　４７７名

古墳案内の様子

③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。本年度は、甘楽（笹森古墳・楽山園）・富岡（富岡製糸場）・安中（簗瀬二子塚古墳）方面を訪れ、史跡や案内の手法について学んだ。

野外研修（富岡製糸場）

(7) 文化財保存団体への育成補助

総社地区および荒砥地区において、その地内に残る文化財の説明板や標注の設置を継続的に行っている団体や、市内各所で活動している郷土芸能保存団体に補助金を交付した。

また、県指定文化財「上野総社神社本殿」をはじめ、市指定文化財「春日神社太々神楽」や「結城政勝画像」に関して、参拝者や見学者の安全の確保や文化財の保存と継承を目的として、補助事業での助成を行った。交付対象団体は、以下の通りである。

○荒砥史談会
○上佐鳥町自治会
○前橋市郷土芸能連絡協議会
○宗教法人　総社神社
○考願寺
○総社粟島自治会

(8) 文化財調査事業

① 山車・屋台総合調査

ア 調査の目的

前橋市内に現存する江戸・明治期の山車・屋台の調査を実施することで、貴重な山車・屋台の状況を把握し、さらに、それらをリスト化する事により、今後の保存活用の資料とするために実施。

イ 調査期間（報告書作成）

本年度は報告書作成のみ

平成 24 年 6 月 11 日～平成 25 年 3 月 28 日

ウ 調査対象

江戸～明治期に創建された前橋市内に現存する山車及び屋台。

エ 調査について

今年度は実調査はなく報告書作成のみとなる。昨年度までの市内の山車屋台のデータを集約し、「前橋市の山車屋台の調査報告書」としてまとめられることになる。

第４章　埋蔵文化財事業

１　埋蔵文化財発掘調査事業

(1)平成 24 年度の発掘調査をふりかえって

１）発掘調査事業

詳細は、平成 24 年度埋蔵文化財調査事業一覧表に掲載した通りである。発掘調査業務 20 件であった。内訳は、直営事業 9、委託事業 5、民民事業 6 である。発掘調査事業での調査面積は、20,405 ㎡で、直営 5,346 ㎡、委託 2,916 ㎡、民民 12,143 ㎡であった。

①　上野国府跡

平成 23～27 年度までの５ヵ年計画で上野国府範囲確認調査を開始した。現在、元総社蒼海地区の区画整理事業が進行中であるが、それに伴い区画整理地内に 10,000 ㎡強の公園の設置が計画されている。国府の中心施設である国庁跡を一日も早く発見し、公園予定地に保存し活用する必要がある。昨年度の調査では国庁推定地Ａ・Ｃ案の調査を進めたが、関連施設の発見には至らなかった。今後は、区画整理地内を探索しながら、今までの調査を総合的に分析した観点での調査も必要と思われる。

②　元総社蒼海遺跡群(40)～(50)

（40）では住居跡 41 軒、（41）では 71 軒を数える。(40)、(41) とも鍛冶遺構が各 1 軒発見されている。また、縄文時代前期諸磯期の住居跡が両方あわせて 6 軒検出された。（43）では 4 軒の住居跡を調査できたが、このうち 8 世紀代の 1 軒は一辺が 8～9m を超える大型のものであった。(44)からは 8 世紀前半の粘土採掘坑が発見され、(45)からは蒼海城の瀬下豊後屋敷東側の堀と推定されるものが発見された。(47)では蒼海城松井屋敷東側の堀跡が発見された。(48)では住居跡 32 軒であり、古墳時代前期の住居には人為的な埋め戻しの状態を検出した。今回の調査では、上野国府に直接関連する遺構は検出できなかった。

③　安通・洞№2 遺跡

縄文時代晩期の住居跡 1 軒と包含層等の調査を実施した。包含層からは石鏃 280 点、耳飾 101 点のほか勾玉 2 点や土偶 3 点などが検出できた。

④　朝倉工業団地遺跡群№2～5

№2 では FA 水田、B 水田と中世環濠集落である屋敷跡の検出、№3 でも FA 水田、B 水田が検出できた。さらに前橋大空襲の焼夷弾が 1 本検出された。№4 では B 水田のみが検出された。№5 では FA 水田、B 水田のほか C 水田も検出でき、FA 水田の大畦が C 水田の大畦と重なることが判明した。

⑤　六供遺跡群№7 遺跡

古墳時代中期から後期の住居跡が 12 軒発掘され、腕輪状石製模造品も出土している。また、八幡宮の参道側溝と思われる近世の溝も検出された。

⑥　上佐鳥中原前Ⅲ遺跡

B 水田の調査を実施したところ、水口や稲株痕の窪みが検出できた。

⑦　前箱田村西Ⅲ遺跡

B 水田の調査を実施したところ、群馬県史通史編 2 に示された大畦畔が検出された。

2）遺跡台帳整備事業

平成 15 年から開始された遺跡地図作成作業も A3 版総頁 200 頁を超える大著となって刊行された。本文の構成は遺跡地図約 1/6000 が 136 頁、遺跡台帳が 60 頁で構成され、旧前橋市、大胡町、宮城村、粕川村、富士見村をあわせた全市に及ぶ遺跡分布地図が完成した。今後、これを踏まえ県の WEB 地図の改訂作業を済ませていただき実際に供用開始となる。遺跡範囲については今までの範囲をはるかに超えたものとなっており、法 93 条・94 条の届出件数がかなり増加してくるため、受付事務の強化を図ることと、上半期、下半期での改訂作業が必要となる。

3）遺跡資料整備事業

学校用普及パンフレット「い･せ･きワールドｉｎ前橋」の刊行や出土資料の貸出や展示、前橋高崎連携文化財事業の展示品作成、前二子古墳石室復元市民プロジェクト事業に伴う準備作業のほか明治 11 年前二子古墳出土遺物報告書、前橋天神山古墳発掘調査報告書の作成を行なった。このほか図面や写真などのデジタル化および報告書の PDF 化も行なった。

4）開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議が合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均 150 件以上、年間にして 2,000 件もの協議に対応した。このうち 1,000 ㎡を超える大規模な開発や周知の遺跡に隣接するもの、上野国府や山王廃寺、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数 57 件であり、このうち調査に移行したものは 4 件であった。このほか立会調査が 34 件であった。今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の逐次更新とＧＩＳ活用を早急に進める必要がある。

5）遺跡ＧＩＳ業務

平成２０年度～２４年度の５ヵ年事業として実施し、24 年度に完成した。前橋市統合型遺跡 GIS 業務に遺跡地図を掲載し、開発部局との調整に際して、多くの遺跡の保存を図っていくことが必要がある。また、今後、GIS の公開も検討されるが、県 WEB 遺跡地図との連携を図りながら公開をしていく予定である。

(2) 平成24年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺　跡　名	ふりがな	コード	代表地番	面積㎡	方式	調査原因	調査期間
1	前箱田村西Ⅲ遺跡	まえはこだむらにしさん	24A101	前箱田町122-1	900	民民	店舗建設	25/2/4～25/2/25
2	元総社蒼海遺跡群（40）	もとそうじゃおうみ	24A130-40	元総社町1609	1280	直営	区画整理	24/5/10～24/12/27
3	元総社蒼海遺跡群（41）	もとそうじゃおうみ	24A130-41	元総社町1608	1943	直営	区画整理	24/5/10～24/12/21
4	元総社蒼海遺跡群（42）	もとそうじゃおうみ	24A130-42	総社町総社3054-2	8	直営	区画整理	24/5/18
5	元総社蒼海遺跡群（43）	もとそうじゃおうみ	24A130-43	元総社町1445-25	280	直営	区画整理	24/5/18～24/6/7
6	元総社蒼海遺跡群（44）	もとそうじゃおうみ	24A130-44	元総社町1582-3	320	委託	区画整理	24/9/26～24/10/31
7	元総社蒼海遺跡群（45）	もとそうじゃおうみ	24A130-45	元総社町2115-1	660	委託	区画整理	24/8/20～24/9/30
8	元総社蒼海遺跡群（46）	もとそうじゃおうみ	24A130-46	元総社町1702-1	30	直営	区画整理	24/8/31～24/9/7
9	元総社蒼海遺跡群（47）	もとそうじゃおうみ	24A130-47	元総社町2156	156	委託	区画整理	25/2/4～25/2/25
10	元総社蒼海遺跡群（48）	もとそうじゃおうみ	24A130-48	元総社町1557	1380	委託	区画整理	25/1/7～25/3/22
11	元総社蒼海遺跡群（49）	もとそうじゃおうみ	24A130-49	元総社町1445-109	160	直営	区画整理	24/10/15～24/10/24
12	元総社蒼海遺跡群（50）	もとそうじゃおうみ	24A130-50	元総社町1393-2	290	直営	区画整理	24/11/5～24/12/12
13	上野国府等範囲内容確認調査	こうずけこくふ	24A147	元総社町	705	直営	範囲確認	24/7/2～25/2/8
14	上佐鳥中原前Ⅲ遺跡	かみさどりなかはらまえ	24G17	上佐鳥町770-2	302	民民	施設建設	25/3/6～25/3/14
15	朝倉工業団地遺跡群No.2	あさくらこうぎょうだんち	24G75	下佐鳥町1-4	5291	民民	施設建設	24/11/26～25/2/26
16	朝倉工業団地遺跡群No.3	あさくらこうぎょうだんち	24G76	下佐鳥町17-2	713	民民	施設建設	24/7/17～24/8/27
17	朝倉工業団地遺跡群No.4	あさくらこうぎょうだんち	24G77	下佐鳥町2-3	174	民民	施設建設	25/1/25～25/2/3
18	朝倉工業団地遺跡群No.5	あさくらこうぎょうだんち	24G78	下佐鳥町10-1	4763	民民	施設建設	25/2/18～25/4/5
19	六供遺跡群No.7	ろっく	24H55	六供町320-5	400	委託	区画整理	24/12/12～24/12/29
20	安通・洞No.2遺跡	あんづう・ほら	24K3	粕川町室沢302-18	650	直営	道路築造	24/7/23～24/11/16

(3) 平成24年度　埋蔵文化財報告書一覧表

	報　告　書　名	遺　跡　名	発 行 者	発行年月日	備　考
1	元総社蒼海遺跡群（39）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2013.3.22	
2	元総社蒼海遺跡群（40・46・49・50）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2013.3.22	
3	元総社蒼海遺跡群（41・42・43）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2013.3.22	
4	元総社蒼海遺跡群（44・45）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2013.3.22	
5	元総社蒼海遺跡群（47）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2013.3.22	
6	安通・洞No.2遺跡	安通・洞No.2遺跡	前橋市教育委員会	2013.3.22	
7	推定上野国府	上野国府等範囲内容確認調査	前橋市教育委員会	2013.2.28	
8	朝倉工業団地遺跡群No.3	朝倉工業団地遺跡群	前橋市教育委員会	2012.11.9	
9	朝倉工業団地遺跡群No.4	朝倉工業団地遺跡群	前橋市教育委員会	2013.3.22	

平成24年度　試掘調査一覧表

	所 在 地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	
1	箱田町	2,000.00	宅地造成	4月4日	平安時代水田跡
2	粕川町月田	2,963.00	宅地造成	4月12日	近世溝跡、時期不詳井戸跡、石製品破片
3	江田町	2,427.00	宅地造成	4月17日	平安時代水田跡
4	大前田町	4,400.00	道路築造	4月20日	埋蔵文化財検出なし
5	富士見町小沢	1,980.43	宅地造成	4月25日	平安時代住居跡、近世溝跡、石器、土器
6	江田町	1,525.69	宅地造成	5月16日	埋蔵文化財検出なし
7	茂木町、富田町	33,741.00	公園整備	5月17日～5月18日	奈良時代住居跡、溝跡、土坑、柱穴等
8	古市町	48,206.02	店舗建設	5月22日～5月24日	古墳時代及び平安時代水田跡
9	六供町	432.47	店舗建設	6月5日	平安時代水田跡
10	元総社町	272.46	アパート建設	6月11日	遺構の検出なし。平安時代須恵器
11	二之宮町	144.00	携帯電話基地局	6月14日	平安時代住居跡、土師器、須恵器

12	箱田町	5,100.00	公民館建設	6月19日	埋蔵文化財検出なし
13	苗ヶ島町	1,300.00	道路築造	6月21日	埋蔵文化財検出なし
14	荻窪町、上泉町	15,000.00	道路改良	6月21日	遺構の検出なし。縄文土器片
15	粕川町膳	13,886.00	公園整備	6月26日～6月27日	古墳時代住居跡、中世溝跡等、土師器等
16	元総社町	24,759.31	パチンコ店建設	7月3日～7月6日	古墳・平安時代の住居跡、土器、石製品
17	小坂子町	1,527.00	駐車場	7月10日	埋蔵文化財検出なし
18	六供町	165.30	動物病院建設	7月11日	埋蔵文化財検出なし
19	上新田町	1,304.76	宅地造成	7月13日	古墳時代水田跡、溝跡
20	元総社町	822.00	宅地造成	7月17日	奈良・平安時代住居跡
21	柏倉町	4,227.00	駐車場	7月18日	埋蔵文化財検出なし
22	六供町	1,630.67	宅地造成	7月19日	平安時代水田跡
23	下新田町	1,974.00	宅地造成	7月24日	古墳時代水田跡、溝跡
24	総社町植野	999.00	保育園建設	7月25日	古墳時代住居跡、溝跡、土師器片、須恵器片
25	富士見町原之郷	1,880.00	宅地造成	7月23日	時期不詳溝跡
26	箱田町	3,490.20	店舗建設	8月7日	平安時代水田跡
27	下長磯町	2,976.00	宅地造成	8月9日	埋蔵文化財検出なし
28	元総社町	886.75	宅地造成	8月21日	平安時代住居跡、溝跡、土師器片、須恵器片
29	堀越町	786.92	個人住宅建設	8月22日	遺構の検出なし。土師器片少量
30	富士見町時沢	1,636.87	宅地造成	8月23日	遺構の検出なし。縄文土器・石器
31	総社町総社	2,031.17	老人ホーム建設	8月28日	平安時代住居跡、溝跡、縄文土器片、瓦片等
32	下新田町	3,666.81	宅地造成	8月29日	古墳・平安時代水田跡、土師器片
33	六供町	1,300.00	土地区画整理	8月30日	時期不詳溝跡、土器片
34	富士見町田島	2,424.00	有料老人ホーム建設	9月4日	遺構の検出なし。縄文土器
35	箱田町	127.34	道路拡幅	9月6日	埋蔵文化財検出なし
36	粕川町月田	612.00	特別養護老人ホーム建設	9月13日	埋蔵文化財検出なし
37	元総社町	421.00	土地区画整理	9月18日	平安時代住居跡、中世溝跡、須恵器片等
38	総社町総社	995.49	アパート建設	9月20日	時代不詳溝跡、縄文石器片、埴輪片
39	大胡町	1,613.00	宅地造成	9月25日	埋蔵文化財検出なし
40	川曲町	801.00	道路拡幅	10月10日	平安時代水田跡
41	富士見町原之郷	3,584.14	道路拡幅	10月11日	近世道路、土師器小片
42	総社町総社	3,899.00	公園整備	10月15日	平安時代住居跡、柱穴、溝跡、灰釉陶器等
43	新堀町	2,359.45	有料老人ホーム建設	10月17日	平安時代水田跡、土師器坏等
44	川曲町	13,924.00	店舗建設	11月6日～11月7日	平安時代水田跡、陶器片
45	前箱田町	6,803.51	店舗建設	11月8日	平安時代水田跡、近世溝跡
46	元総社町	2,117.83	宅地造成	11月15日	平安時代住居跡、溝跡、土師器、須恵器
47	富士見町小暮	2,611.79	宅地造成	11月22日	埋蔵文化財検出なし
48	東上野町	1,680.00	身体障害者福祉施設建設	11月27日	埋蔵文化財検出なし
49	上佐鳥町	2,995.00	特別養護老人ホーム増築	11月29日	平安時代水田跡、土師器片極少
50	六供町	1,480.00	住宅建築	12月4日	平安時代水田跡
51	古市町	2,975.67	宅地造成	12月7日	埋蔵文化財検出なし
52	富士見町時沢	458.00	個人住宅建設	12月18日	埋蔵文化財検出なし
53	六供町	390.12	個人住宅建設	2月15日	遺構の検出なし。土師器・須恵器片
54	堤町	248.00	小学校校舎建設	2月25日	遺構の検出なし。土師器・須恵器片
55	江木町	6,430.19	有料老人ホーム建設	3月5日	時期不詳溝跡
56	田口町	1,604.95	高齢者介護施設建設	3月15日	縄文・平安時代住居跡、土師器・須恵器等
57	幸塚町	1,944.00	店舗建設	3月21日	埋蔵文化財検出なし

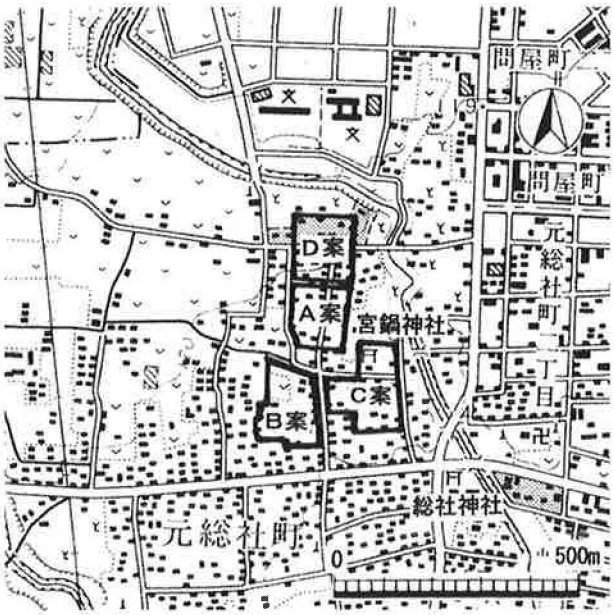
平成24年度　立会調査一覧表

	所 在 地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調 査 結 果
1	柏倉町	1,400.00	牛舎建設	4月5日	埋蔵文化財検出なし
2	下阿内町	47.20	店舗建設（かつはな亭）	7月13日	As-B軽石混土層検出
3	堀越町	3.75	個人住宅建設	7月23日	縄文時代住居跡、縄文土器片
4	粕川町深津	6.00	個人住宅建設	7月25日	埋蔵文化財検出なし
5	富士見町時沢	422.00	個人住宅建設	8月2日	埋蔵文化財検出なし
6	上泉町	-	排水枡設置(上武道路関連)	8月16日	埋蔵文化財検出なし
7	元総社町	635.00	個人住宅建設	8月16日	埋蔵文化財検出なし
8	上泉町	-	排水路敷設(上武道路関連)	8月20日	新田塚古墳の周堀を確認
9	粕川町月田	-	道路建設	9月24日	土師器片極少量
10	元総社町	3,000.00	貸住宅建設	9月26日	中世の溝、羽釜片、土師器片
11	古市町	2,000.00	貯水槽（フォレスト関連）	10月1日	As-B、Hr-FAが検出されるも明確な遺構なし
12	古市町	-	店舗建設（ﾌｫﾚｽﾄﾓｰﾙ）	10月4日	As-B、Hr-FAが検出されるも明確な遺構なし
13	元総社町	21,407.93	店舗建設（ﾏﾙﾊﾝ）	9月27日	埋蔵文化財検出なし
14	元総社町	21,407.93	店舗建設（ﾏﾙﾊﾝ）	10月4日	埋蔵文化財検出なし
15	元総社町	21,407.93	店舗建設（ﾏﾙﾊﾝ）	10月5日	埋蔵文化財検出なし
16	下佐鳥町	2.80	浄化槽設置	11月15日	埋蔵文化財検出なし
17	川原町	1,081.00	宅地造成	11月22日	埋蔵文化財検出なし
18	朝倉町二丁目	390.61	個人住宅建設	12月20日	埋蔵文化財検出なし
19	西片貝町五丁目	1,064.00	宅地造成	1月18日	埋蔵文化財検出なし
20	山王町（文珠山古墳）	80.00	墓地造成	1月22日	埋蔵文化財検出なし
21	総社町総社	-	道路側溝新設	1月22日	埋蔵文化財検出なし
22	総社町総社	3,899.00	公園造成	1月22日	瓦片
23	富士見町原之郷	-	個人住宅建設	2月22日	埋蔵文化財検出なし
24	鶴光路町	12.00	店舗建設（みなみモール）	2月25日	平安時代水田跡
25	下佐鳥町	16,528.95	工場建設（ベイシア）	2月28日	埋蔵文化財検出なし

① 上野国府等範囲内容確認調査（24A147）

遺跡位置図

事 業 名　上野国府等範囲内容確認調査
所 在 地　前橋市元総社町2115番地1ほか
調査期間　平成24年7月2日から
　　平成25年2月8日まで
担 当 者　阿久澤智和・並木勝洋
調査面積　705㎡
調査の経緯　上野国府は前橋市元総社町付近に設置されたと考えられているが、その中心施設である国庁の位置のほか、その詳細が不明なため、平成23年度から5ヵ年計画で上野国府の概況を把握することを目的とした「範囲確認調査」を行うこととした。本年度はその2年次である。
調査の成果　平成24年度は「上野国府の国庁推定地」のC案周辺とA案の北東、総社神社西側に9ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。



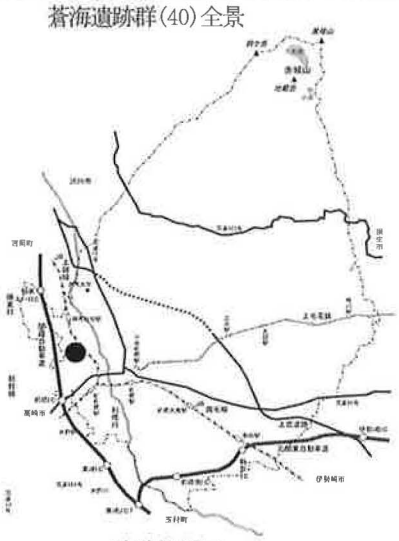
上野国府の国庁推定地4案

（1）C案周辺の調査
古墳時代の住居跡7軒、平安時代の住居跡10軒、時期不明の住居1軒、古代の溝跡1条、中世の溝跡8条、井戸1基、土坑9基、ピット15基を検出した。宮鍋神社の北東に隣接する13トレンチで、遺構の重複関係から古墳時代後期から平安時代の間に造られた南北方向に走行をもつ溝（W－1号溝跡）が検出された。
（2）A案の補足調査
昨年度6トレンチで検出された古代の大溝の延長線上で大溝の規模を確認することを目的に調査を行った。その結果、古墳時代の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒、土坑1基、井戸2基、落ち込み1ヵ所が検出されたが、大溝は検出されなかった。
（3）総社神社西側の調査
調査地点は総社神社西方400m付近で、推定東山道から分岐する通称「日高道」がその西側を北上し、トレンチの北側と東側には蒼海城の溝が位置している。ここでの調査では平安時代の住居跡7軒、中世の溝跡1条・時期不明の溝2条、井戸2基、土坑1基、中世の整地面1ヶ所とピット17基が検出された。
調査のまとめ
（1）国庁推定案C案と宮鍋神社周辺
検出された主な遺構は、古墳時代・平安時代の住居跡と中世の溝跡であり、確実に8・9世紀頃の遺構と考えられるものは検出できなかった。ただし、13トレンチで検出された溝跡については、その推定される時期から、国府と同時期に存在した可能性が指摘できる。
（2）総社神社西側周辺
検出された遺構は平安時代の住居跡、中世の溝跡と建物跡で、遺物についても特筆する遺物はなかった。このことから、平安時代に集落が営まれ、中世に蒼海城関連もしくは何らかの施設が設置されたと思われる。

13トレンチ　W－1号溝跡（南から）

② 元総社蒼海遺跡群(40) (46) (49) (50) (24A130-40、-46、-49、-50)

蒼海遺跡群(40)全景



遺跡位置図

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業
所 在 地 前橋市元総社町他
調査期間 平成24年5月10日から
平成24年12月27日まで
担 当 者 藤坂和延・細野泰宏
(前橋市教育委員会)
調査面積 1,280 ㎡ (24A130-40)
30 ㎡ (24A130-46)
160 ㎡ (24A130-49)
290 ㎡ (24A130-50)

調査の経緯 平成24年5月7日付けで、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直営での発掘調査を実施することとなった。これを受け、5月10日から現地での発掘調査を開始した。

調査の成果 (40)では、縄文時代・古墳時代から平安時代にかけての集落跡が見つかった。縄文時代の遺構は、竪穴住居跡が4軒、土坑が2基、単独の埋甕が2基検出された。縄文時代の竪穴住居跡は、前期の諸磯式期に属するものが3軒で、2軒は重複する。また、中期の加曽利式E期に属する住居跡からは、甲信地方の影響を受けた土器も出土している。古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡は37軒を数える。また、1軒の住居跡からは床面に炉体および金床石・船を設置する鍛冶遺構が確認され、棒状鉄製品や鍛造剥片が検出された。

鍛冶遺構を伴う竪穴住居跡

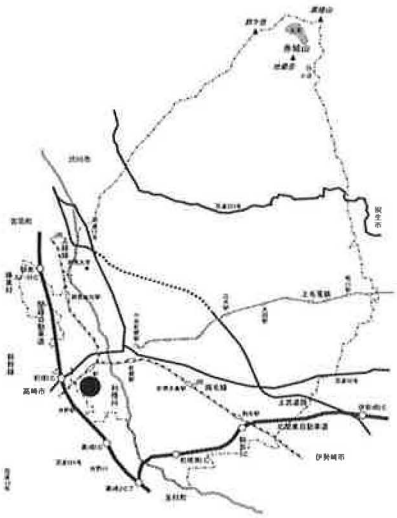
(46)では平安時代の竪穴住居跡が1軒、時期不明の井戸が1基を検出した。

(49)では、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡5軒、時期不明の井戸2基、土坑3基を検出した。

(50)では、縄文時代の竪穴住居跡1軒、奈良から平安時代の竪穴住居跡18軒、竪穴状遺構1基、土坑6基等を検出した。

③ 元総社蒼海遺跡群(41) (42) (43) (24A130-41、-42、-43)

蒼海遺跡群 (41) 全景



遺跡位置図

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業
所 在 地 前橋市元総社町1608ほか
調査期間 平成24年5月10日から
平成24年12月21日まで
担 当 者 小峰 篤・瀧澤 重雄
(前橋市教育委員会)
調査面積 1,943 ㎡ (24A130-41)
8 ㎡ (24A130-42)
280 ㎡ (24A130-43)

調査の経緯 平成24年5月7日付けで、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直営での発掘調査を実施することとなった。これを受け、5月10日から現地での発掘調査を開始した。

調査の成果 (41)では、縄文時代から平安時代にかけての集落跡が見つかった。古墳時代から平安時代にかけての住居跡が69軒を数える。その内1軒は、鍛造剥片や鉄塊などの鉄滓を伴う鍛冶遺構であることが確認された。また、1辺が7mにも及ぶ大きな古墳時代の住居跡も見つかった。さらに、本遺跡からは、奈良三彩や金の付着した灰釉陶器、墨書土器など貴重な遺物が出土している。

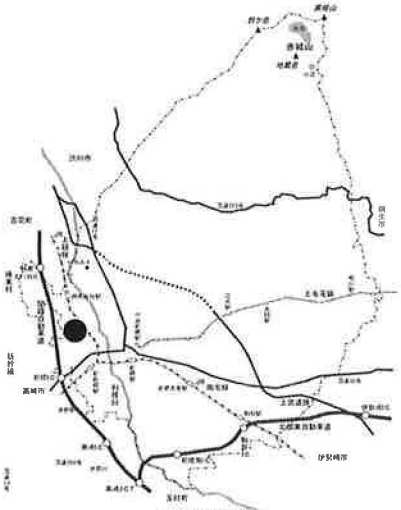
規模の大きい竪穴住居跡

(42)については、重機による掘削を行なったが、遺構は検出されなかった。(43)では、古墳時代から平安時代にかけての住居跡4軒が見つかった。中でも1号住居跡は、(41)における規模の大きい住居跡をさらに上回り、1辺が8～9mに及んだ。

墨書土器・刻書土器

④　元総社蒼海遺跡群（44）、（45）
（24A130-44）、（24A130-45）

(44)粘土採掘坑全景



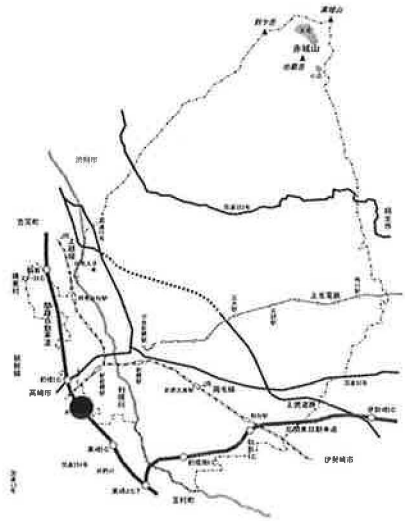
遺跡位置図

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町1582-3ほか
調査期間　平成24年　8月20日から
平成24年10月31日まで
担 当 者　福田貫之（前橋市教育委員会）・山田誠司（技研測量設計株式会社）
調査面積　(44)320㎡、(45)660㎡
調査の経緯　平成24年7月5日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について、前橋市の合意も得られたため、市教育委員会の監理の下、発掘調査を実施することになった。平成24年8月8日付けで前橋市と技研測量設計株式会社との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　元総社蒼海遺跡群(44)からは奈良・平安時代の竪穴住居跡3軒や土坑39基、上幅2.5m以上、深さ2m前後の断面V字状の薬研堀2条等が検出された。検出された土坑は2か所に分けて集中的に分布する。土坑群は灰黄褐色粘質土層まで掘り込んでおり、粘質土採取を目的としたと思われ、出土遺物の傾向や重複関係から8世紀前半頃に帰属すると推定される。元総社蒼海遺跡群(45)からは古墳時代後期と平安時代の竪穴住居跡、蒼海城関連の堀跡、土壙墓、地下式坑、井戸、柱穴、溝跡等が検出された。検出された堀跡のうち東西方向の堀は上幅5m以上、深さ約2mの箱堀の形態を示している。また、覆土中に黒褐色粘質ブロックを含む堅緻な層が確認され、土塁の土が埋没したことが指摘される。また南北方向に走行する堀跡は上幅9m以上、深さ約2mを測る。「蒼海城絵図」等から瀬下豊後屋敷の東側の堀跡と思われる。

(45)調査区全景

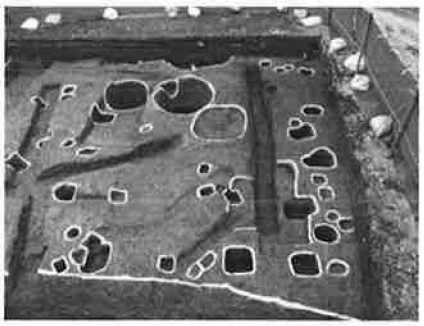
⑤　元総社蒼海遺跡群(47)(24A130-47)

調査区全景



遺跡位置図

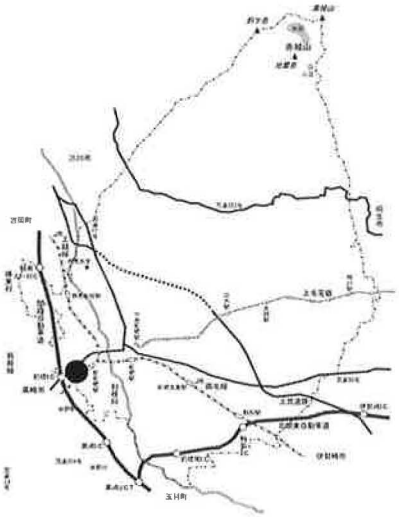
事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町2156
調査期間　平成25年2月　4日から
平成25年2月25日まで
担 当 者　福田貫之（前橋市教育委員会）・相澤正信（株式会社シン技術コンサル）
調査面積　156㎡
調査の経緯　平成24年12月27日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について、前橋市の合意も得られたため、市教育委員会の監理の下、発掘調査を実施することになった。平成25年1月18日付けで前橋市と技研測量設計株式会社との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　調査区からは柱列跡、井戸跡、土坑、蒼海城に関連する堀跡が検出された。堀跡は南北方向、東西方向に走向する堀が「T」字状に接続する状況が判明した。土層堆積状態や底面の様相から南北方向の堀跡は2時期以上、東西方向の堀跡は3時期の重複が確認された。総社長尾氏が在城時の資料と考えられている「蒼海城絵図」と照らし合わせると、南北方向に走向する堀跡は松井屋敷東側に所在する堀跡と考えられる。また、各時期の底面や中位にはグライ土壌が確認されており、湛水した痕跡と推測される。調査区が狭いため、溝底面の比高差から流下方向を特定するには至らなかったが、近隣の調査成果から南側に流下するものと推定される。柱列跡や井戸、土坑から出土した遺物は破片資料であるため時期特定は困難であるが、中世から近世が大半を占めるものと思われる。



柱穴、井戸検出状態

⑥元総社蒼海遺跡群(48)(24A130-48)

全景写真（右が西）



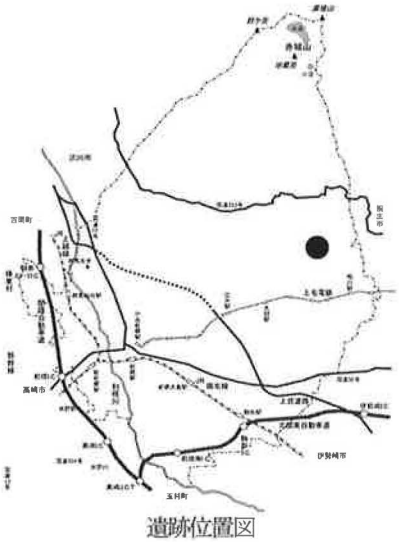
遺跡位置図

事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町1557ほか
調査期間　平成25年 1月7日から
平成25年3月22日まで
担 当 者　福田貫之（前橋市教育委員会）・日沖剛史（有限会社毛野考古学研究所）
調査面積　1380㎡
調査の経緯　平成24年11月15日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について、前橋市の合意も得られたため、市教育委員会の監理の下、発掘調査を実施することになった。平成24年12月13日付けで前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　調査区からは竪穴住居跡32軒、土坑12基、ピット多数、溝3条、竪穴状遺構3基、性格不明遺構3基、南側にかけて自然流路が検出された。竪穴住居跡は縄文時代前期後半(諸磯b式期)が1軒であり、その他は古墳時代前期から平安時代に帰属する。縄文時代の住居跡からは、多量の土器や石器の出土が認められる。古墳時代前期から平安時代にかけて検出された住居跡のうち、南壁面、北壁面のみに直径15cm程の柱穴列が確認された古墳時代前期の住居跡や人為的な埋没を示す古墳時代後期の竪穴住居跡、南壁にスロープ状の盛土を設ける9世紀代の住居跡などが検出されている。確認された土坑のうち3基が縄文時代、6基が古墳時代から平安時代、3基がAs-B降下以降の所産である。縄文時代の土坑は加曽利EⅢ式期、堀之内2式～加曽利B式基に帰属するものである。

縄文時代住居跡調査風景

⑦ 安通・洞No.2遺跡(24K3)

調査区全景(東から)



遺跡位置図

事 業 名　市道２１－６１１９号線道路築造
所 在 地　前橋市粕川町室沢302-1B
調査期間　平成24年7月23日から
平成24年11月16日まで
担 当 者　並木勝洋・阿久澤智和（前橋市教育委員会）
調査面積　650㎡
調査の経緯　平成24年4月16日付けで前橋市長山本龍(東部建設事務所)より市道２１－６１１９号線道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。これを受けて、平成24年7月23日から発掘調査を行った。
調査の成果　本遺跡は東側に山伏川、西側に粕川が流れる粕川扇状地上に位置している。過年度の周辺部の調査で縄文時代の遺構が確認されていることから、今回も縄文時代の遺構を中心とした調査になることを想定して取り組んだ。その結果、縄文時代の包含層・竪穴住居跡1軒、平安時代の溝跡1条を検出した。

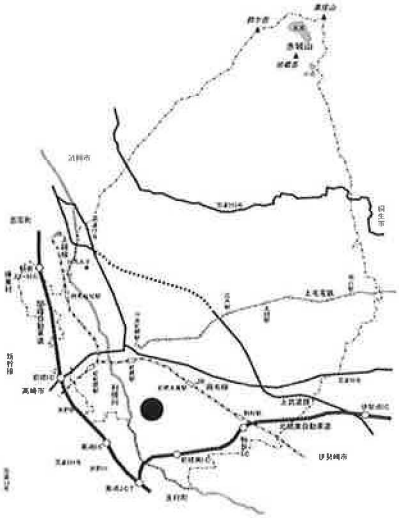
調査区中央部の遺物包含層は土層の堆積状況から埋没谷と考えられる。包含層が縄文時代中期頃に形成された「淡色黒ボク土」より上位に位置していることや出土した土器の形状から、その年代は縄文時代後晩期と考えられる。包含層からは石鏃や打製石斧、石皿、多孔石、石製玉類、耳飾り、土偶、土製垂飾具などの遺物が数多く出土した。炉址を中央西寄りに持つ竪穴住居跡は出土した土器から縄文時代晩期と推測される。

調査区西側の溝跡の年代は覆土の自然化学分析から、Hr-FA（6世紀初頭）からAs-B（1108年）の間となった。溝跡の南東部に厚く堆積した泥流が弘仁9年(818年)の大地震に関係したものである可能性が高く、溝跡の年代は更に絞り込まれ、平安時代と考えられる。土層堆積から何度も激しい流れがあったことが伺え、溝跡の中から遺物を確認することはできなかった。

石製玉類出土状態

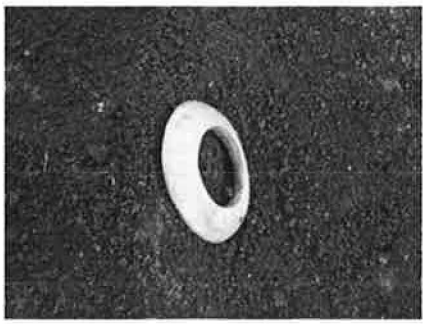
⑧　六供遺跡群No.7遺跡（24H55）

遺物出土状態



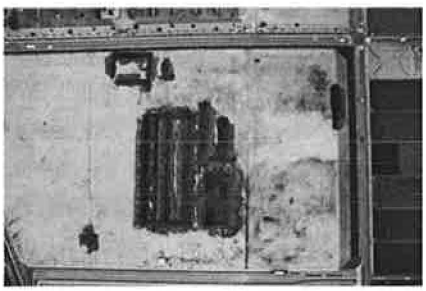
遺跡位置図

事業名　六供土地区画整理事業
所在地　前橋市六供町320-5
調査期間　平成24年12月12日から
　　平成24年12月29日まで
担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・櫻井和哉（山下工業株式会社）
調査面積　400㎡
調査の経緯　平成24年11月22日付けで前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について、前橋市の合意も得られたため、市教育委員会の監理の下、発掘調査を実施することになった。平成24年12月10日付けで前橋市と山下工業株式会社との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　調査範囲が狭小であるものの、古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡12軒、土坑6基、柱穴15基、溝2条が確認された。竪穴住居跡の主体は5世紀後半に帰属するものが大半であり、近接する六供遺跡群No.5、No.6と近い様相を見せている。住居跡からの遺物は豊富で、良好な器種組成が見られる。特筆すべき遺物としては5世紀後半の住居跡床面直上から出土した腕輪状石製模造品があげられる。他の遺構としては深く掘り下げられる土坑や南北に走行する溝跡があげられる。深く掘り下げられる土坑は4世紀～5世紀にかけてと年代幅は広く、平面形態もまちまちであるが、確認面から100～120cmほど掘り込まれている点において共通する。溝跡は断面逆台形状を呈し、南北方向に走行する。遺物は17世紀を主体とする菊花皿等が出土している。調査区北側に所在する八幡宮の参道側溝である可能性を有している。

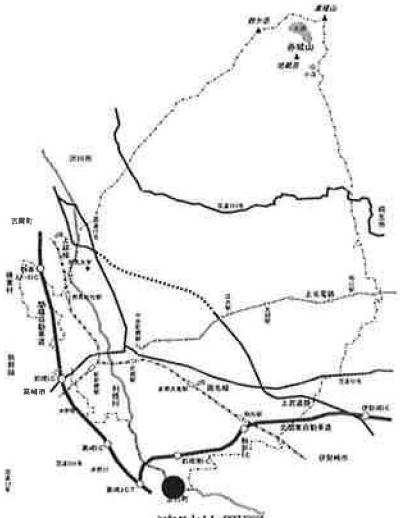


腕輪状石製模造品出土状態

⑨　朝倉工業団地遺跡群No.2（24G75）



調査区全景

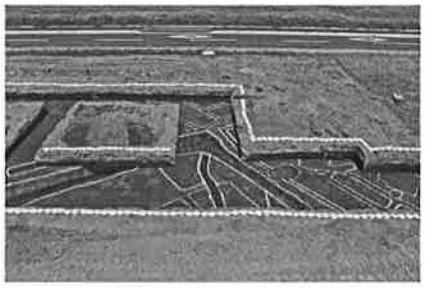


遺跡位置図

事業名　鉄工所新築工事
所在地　前橋市下佐鳥町1-4ほか
調査期間　平成24年11月26日から
　　平成25年　2月26日まで
担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・井上　太（有限会社毛野考古学研究所）
調査面積　5,291㎡
調査の経緯　朝倉工業団地は、平成22年度の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。平成24年1月18日、株式会社吉田鉄工所より埋蔵文化財の取扱いについて問い合わせがあった。その後、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。
調査の成果　トレンチ状の調査区であるが、Hr-FA泥流層下の畠跡・水田跡・溝跡、As-B直下の水田面・畦畔、中世屋敷跡が検出された。Hr-FA泥流層下の水田跡は残りが悪く、部分的に確認されるのみだが、一部では畦畔も高く良好に残存していた。南北方向に長辺をとり1.5m×3m程の長方形を呈するものが多いが、7m近い区画も認められた。As-B直下の水田跡は南北方向の畦畔を軸に東西方向の畦畔が取り付く形で区画が構成されている傾向であることが判明し、水口に礫を敷設する例も確認された。中世では屋敷跡と思われる屈曲する堀跡が確認され、環濠集落の発祥が中世までさかのぼることが再確認された。また、古墳時代～平安時代の住居跡は確認されなかったが、遺物包含層の分布状況と地形から調査区北側に存在する可能性が高いと推測される。

As-B下水田跡

⑩　朝倉工業団地遺跡群No.3（24G76）



2トレンチ西側・7トレンチ俯瞰

遺跡位置図

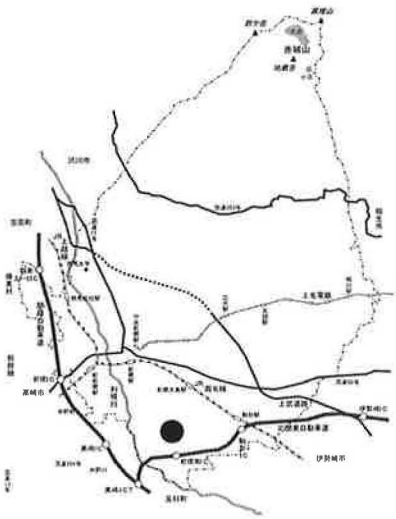
事業名　倉庫・事務所建設工事
所在地　前橋市下佐鳥町17-2ほか
調査期間　平成24年7月17日から
　　平成24年8月27日まで
担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・板垣　宏（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　713㎡
調査の経緯　朝倉工業団地は、平成22年度の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。平成24年1月18日、伊藤忠丸紅特殊鋼㈱より埋蔵文化財の取扱いについて問い合わせがあり、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、スナガ環境測設㈱が発掘調査を実施することになった。平成24年7月12日付で伊藤忠丸紅特殊鋼㈱とスナガ環境測設㈱との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　本調査の結果、古墳時代の水田跡56区画、溝20条、ピット1基を検出した。

Hr-FA層下で検出された水田跡は、いわゆる極小区画水田で、概ね北西方向から南東方向に向かう傾斜の等高線に直交する縦畦畔を形成した後に横畦畔の形成が見られ、これは「開田型小区画水田」と呼ばれるタイプに相当するが、一部にそれと異なる水田跡もあった。本遺跡群No.1の2区で極小区画水田跡を検出し、畦畔の方向性や検出状況が類似しているので、本調査区から北側に水田跡が広がると考えられる。

なお、3トレンチから焼夷弾1本が検出された。本市は、昭和20年8月5日夜にB-29による大空襲により、市街地の大部分を消失する被害を受けた。8月14日には伊勢崎市街地と周辺地域、高崎市東部、前橋市南部等が攻撃されている。「上川渕村史」によれば、14日深夜の空襲で罹災し、15日に落ちた焼夷弾の抜き取り作業を行ったとあり、本焼夷弾は15日の作業で取り残されたものと思われ、こうした資料の蓄積により、空襲の実態が理解できるものと思われる。

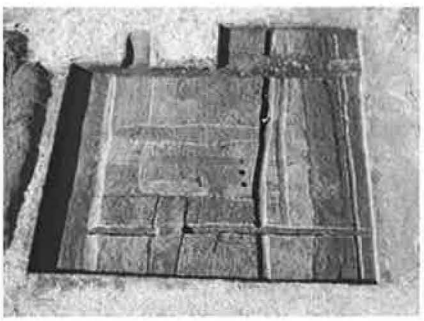
⑪　朝倉工業団地遺跡群No.4（24G77）

調査区東側で確認された溝跡



遺跡位置図

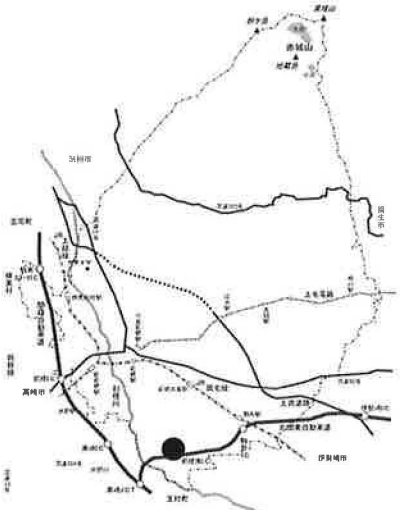
事業名　工場棟新築工事
所在地　前橋市下佐鳥町2-3ほか
調査期間　平成25年1月25日から
　　平成25年2月　3日まで
担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・青木利文（山下工業株式会社）
調査面積　174㎡
調査の経緯　朝倉工業団地は、平成22年度の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。平成24年4月16日、株式会社ヤマトより埋蔵文化財の取扱いについて問い合わせがあった。その後、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、山下工業株式会社が発掘調査を実施することになった。
調査の成果　本遺跡は朝倉工業団地遺跡群1区北側に所在し、浅間B軽石で覆われた水田跡や浅間B軽石降下後の溝、近現代の水路等が検出された。調査区南側は浅間B軽石純層の堆積が良好であるが、北側では残存状況は不良であり部分的に残存するのみであった。南北方向の畦畔を境とし、東側の水田面は西側に比して低いことから、北西方向からの導水が想定される。水田面を精査したところ、歩行痕、耕作痕等は確認されず、浅い凹凸が見受けられるのみであった。浅間B軽石降下後に掘削された溝跡は5条検出された。各々の溝跡は、若干ぶれるものの、ほぼ東西軸や南北軸を基本としている。東西軸、南北軸の溝跡は重複するが、方形区画を形成するものではなく、数時期に亘って掘削された溝跡と思われる。



調査区全景

⑫　朝倉工業団地遺跡群No.5（24G78 ）

調査区全景（後方、榛名山がそびえる）



遺跡位置図

事業名　工場棟新築工事

所在地　前橋市下佐鳥町10-1 ほか

調査期間　平成25年2月18日から
平成25年4月　5日まで

担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・宮本久子（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積　4,763 ㎡

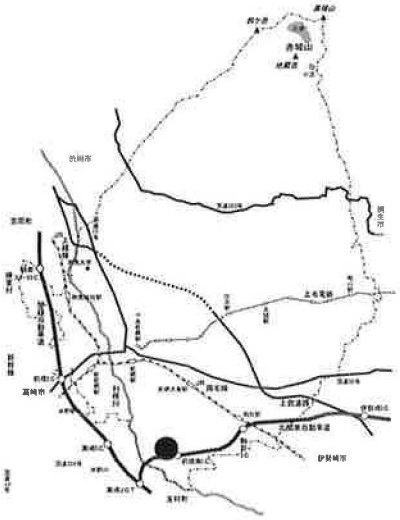
調査の経緯　朝倉工業団地は、平成22年度の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。平成23年10月19日、マニハ食品株式会社より埋蔵文化財の取扱いについて問い合わせがあった。その後、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

調査の成果　本遺跡は朝倉工業団地遺跡群1区南側に所在し、浅間B軽石で覆われた水田跡28区画、Hr-FA泥流下の水田跡50区画以上、As-C混土下水田跡6区画、溝42条、掘立柱建物跡1棟が確認された。As-C混土下の調査では上位に存在するHr-FA泥流下の畦畔と同じ方向に走向することが判明した。また、水田規模はAs-C混土下の方が広大であることが把握できた。Hr-FA水田跡の調査では北東から南西方向へ走向し、幅約150cmを計る大アゼが検出された。As-B層直下の水田跡の調査では、水田面の工具痕が顕著な箇所と畦畔は幅広で低く、水田面は平坦で工具痕が少ない箇所が確認された。後者の箇所についてはAs-B降下時には機能していない水田であった可能性を有する。溝跡と掘立柱建物跡は中世から近世に帰属すると思われる。

Hr-FA泥流下の大アゼ

⑬　前箱田村西Ⅲ遺跡(24A101)

調査区全景



遺跡位置図

事業名　店舗建設工事

所在地　前橋市前箱田町118-1 ほか

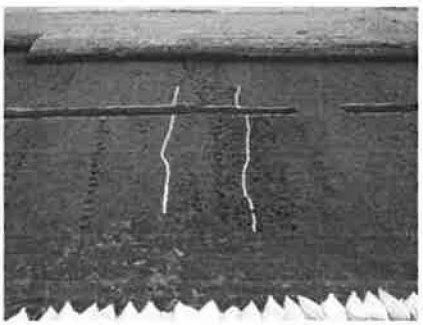
調査期間　平成25年2月18日から
平成25年3月　1日まで

担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・菊池康一郎（株式会社シン技術コンサル北関東支店）

調査面積　900 ㎡

調査の経緯　平成24年11月2日、開発事業者より試掘調査依頼書が提出され、同月8日に試掘調査を実施した。その結果、開発事業地内において浅間B軽石で覆われた水田跡が確認された。なお、平成12年に本遺跡の西側で調査が実施され（前箱田村西Ⅲ遺跡）浅間B軽石で覆われた水田跡が確認されている。埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により市教育委員会の監理、指導のもと、株式会社シン技術コンサル北関東支店が発掘調査を実施することになった。

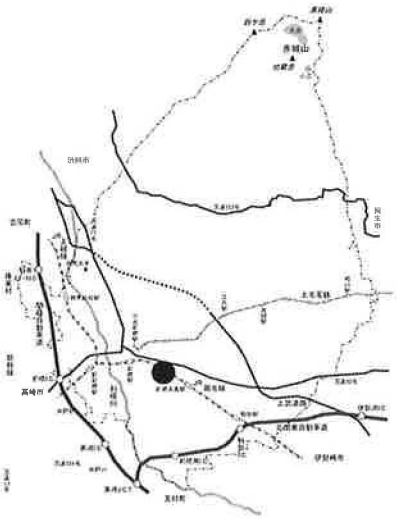
調査の成果　As-Bに被覆された畦畔5条と畦畔に区画された水田7面、中世の溝などが確認された。検出された畦畔のうちの東西方向に走向する1条は上幅1.1m、下幅1.7mと規模が大きいため、大畦畔と考えられる。走向は『群馬県史』通史編2で示されたS51ライン付近に沿うため、大畦畔であることは確実であろう。大畦畔は検出されたが、畦畔で区画された水田規模は区画性がみられないため、As-B降下時には区画が乱れていたことが指摘される。検出された溝は複土にAs-B二次堆積がみられることなどから、復旧に関係する遺構と思われる。



大畦畔検出状態

⑭ 上佐鳥中原前Ⅲ遺跡(24G17)

調査区全景



遺跡位置図

事業名　特別養護老人ホーム増築

所在地　前橋市上佐鳥町770-2ほか

調査期間　平成25年3月　6日から
平成25年3月14日まで

担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・櫻井和哉（山下工業株式会社）

調査面積　302㎡

調査の経緯　平成24年11月8日、開発事業者より試掘調査依頼書が提出され、同年11月29日に試掘調査を実施した。その結果、開発事業地内の東側において浅間B軽石で覆われた水田跡が確認された。なお、平成9年、15年に本遺跡の南側で調査が実施され（上佐鳥中原前遺跡、上佐鳥中原前Ⅱ遺跡）浅間B軽石で覆われた水田跡が確認されている。埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により市教育委員会の監理、指導のもと、山下工業株式会社が発掘調査を実施することになった。

調査の成果　調査区東半分は層厚5～10cmの浅間B軽石の純層が確認されたが、西側においては耕地整理に伴う攪乱が及んでおり、浅間B軽石の純層は確認されない箇所もあった。浅間B軽石の除去後、南北方向に走行する2条の畦畔が確認された。残存状況の良い畦畔は水田面からの比高差は2～6cmであった。また、北側においては水口が設置されている状態が確認された。水田面を精査したところ、歩行痕、耕作痕は確認されず、疎らに稲株痕と思われる窪みが認められるのみであった。今回の調査では浅間B軽石降下以前の水田利用を把握できた。

水口検出状態

2　市内遺跡発掘調査事業

(1)　事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地外の規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。

(2)　事業の内容

①　調査方法

開発地内に調査トレンチを設定、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の１割程度を基本に調査した。

②　記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

元総社町地内の試掘調査の様子

(3)　調査結果

試掘調査は、57 件実施した。このうち、40 件で埋蔵文化財が確認できた。

①　確認できた遺跡の時代

縄文時代～近世にかけての遺構を確認した。

②　調査した遺構

住居跡、水田跡、溝跡等

③　試掘調査から発掘調査をした主な遺構

ア　元総社蒼海遺跡群(50)

平安時代住居跡、中世溝跡

イ　前箱田村西Ⅲ遺跡

平安時代の水田跡、近世の溝跡

ウ　上佐鳥中原Ⅲ遺跡

平安時代の水田跡

エ　川曲阿弥陀西遺跡№2（25 年度調査予定）

平安時代の水田跡

3　遺跡台帳整備事業

(1)　前橋市遺跡地図の作成

平成１５年度から開始した遺跡地図作成事業は平成２４年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行した。平成２５年度以降も開発に伴う発掘調査による遺跡分布地図の更新を随時行っていく。

(2)　遺跡ＧＩＳの作成

平成２０年度から開始した遺跡ＧＩＳ事業は平成２４年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。平成２５年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡ＧＩＳへ随時更新を行い情報を追加していく。また、重要文化財情報もＧＩＳに搭載し、内容の充実を図っていく。

4　埋蔵文化財資料整備事業

(1)　普及パンフレット「い・せ・きワールド・ｉｎ前橋」の作成

平成２４年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、Ａ３版の両面印刷(表面カラー)の「い・せ・きワールド in 前橋 2013 平成２４年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。表面はカラーということで写真を多く取り入れ、裏面には前橋市のどの場所で調査が行われたのか地図を配置し、調査内容をわかりやすくまとめた。7000 部作成し、平成２５年度初めに市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係機関等に配布し、文化財の普及を進めた。

「い・せ・きワールド in 前橋 2013」表面

「い・せ・きワールドin前橋2013」裏面

(2)　出土資料の活用（貸出展示）

かみつけの里博物館（高崎市）

中二子古墳・内堀１号墳出土盾持ち人埴輪

岩宿博物館（みどり市）

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡、市之関前田遺跡出土石器

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋天神山古墳出土壺　他

(3)　貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

展示や貸し出しに頻繁に利用する遺物・写真などの資料を利用しやすくするため遺物と報告書の実測図の写しを一緒に管理するなどの整備を行った。

(4)　前橋高崎連携展資料の作成

前橋・高崎連携展資料として櫃石遺跡出土の土器、舞台遺跡１号古墳出土の石製模造品・供物を盛り上げた供献用高坏の土師器を複製し、展示資料を作成した。

(5)　展示成果

①富士見公民館

富士見地区文化祭に富士見地区の古墳に関連する写真・出土遺物などの展示を行った。

富士見公民館での展示

②元総社公民館

元総社地区の土地区画整理に伴う発掘調査の成果である壺や高盤などの出土遺物、上野国府に関連する人形や墨書土器などの複製品、写真などの展示を行った。

③けやきウォーク前橋

平成２３年度の発掘調査で出土した古銭や丸鞆（ベルトの飾り）などの出土遺物、市民プロジェクト作成の金冠塚古墳出土の金銅製冠や大室古墳群関連の出土品の複製品の展示を行った。

④芳賀公民館

芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの解説パネル、発掘調査写真などの展示を行った。

⑤前橋市立図書館

図書館と連携し市制１２０周年記念企画展として大室古墳群の古墳から出土した土器、金銅製馬具を展示し、市民プロジェクト作成の金冠塚古墳出土の金銅製冠の複製品など前橋市の古墳に関する展示を行った。

(6)　報告書の作成

前二子古墳

明治時代に前二子古墳石室から出土した鉄器・土器などの副葬品を中心とした報告書作成に着手

5　埋蔵文化財資料管理

(1)　寄贈図書用務

平成24年度の他市町村教育委員会等からの寄贈図書(埋蔵文化財発掘調査報告書が、ほとんどである)は、2,280冊だった。

(2)　報告書一斉送付

上記(1)のとおり、他市教育委員会等から報告書等を寄贈されており、返礼の意味と前橋市の文化財行政を知ってもらうため、11月に『山王廃寺～平成22年度調査報告』他11冊を192ヶ所に一斉送付した。

(3)　報告書等のpdf化に関すること

平成24年度にpdf化したものは、上野国府に関係する資料等で15冊であった。例年同様にpdf化したファイルは、パソコンハードディスクとCD-R正副に保存した。

(4)　写真資料デジタル化に関すること

劣化していく写真のネガをデジタル化保存し資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。平成24年度は主に内堀遺跡群に関する資料のデジタル化を行った。

6　上野国府等保存整備事業

(1)　上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国庁や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成23年度から国庫補助事業「上野国府等範囲内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会（平成12年度に発足した山王廃寺等調査委員会の名称を平成23年度開催の委員会において変更）において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施してきた。

本年度は、5か年計画の2年目の調査を実施したが、残念ながら国府に直接関係する遺構は確認できなかった。そのため、例年は2回（現地視察と定例会）開催している委員会を2月6日の1回のみ開催し、現地視察と事業内容に関する協議を併せて行った。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。

(2)　第18回上野国府等調査委員会

開催日　　平成25年2月6日
開催場所　元総社公民館、発掘現場等

《現地視察》

13トレンチ、御霊神社、関連遺跡

《関連する埋蔵文化財の発掘調査報告》

①元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果
②推定上野国府における遺構・遺物の検討

第18回委員会の様子

《協議》

①平成24年度事業の成果について

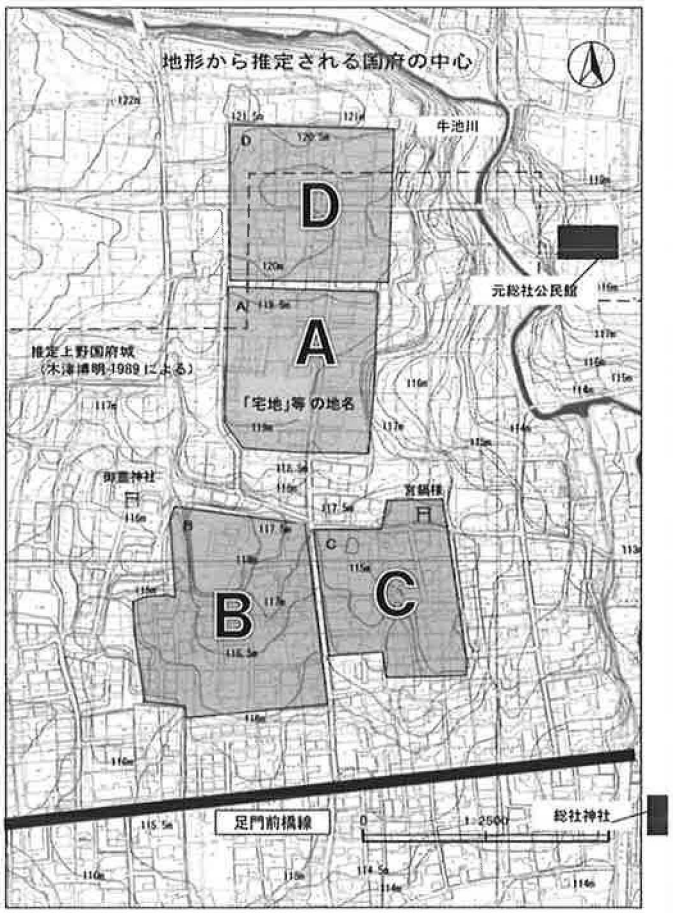
C案の範囲内容確認、A案の補足調査及び総社神社西側の調査のため、9か所のトレンチを設定し、調査を行った。古墳時代から平安時代にかけての住居跡や溝跡等が多数検出されたが、国府政庁に直接関連する遺構、遺物は検出されなかった。

②平成25年度事業計画について

蒼海城の本丸を国庁の跡地と仮定したB案について調査を行うことを提案した。

③主な意見

・13トレンチで確認された南北方向の溝は、国府の時期の溝であり、今後調査を行ううえで重要な遺構である。
・調査範囲が狭小である。
・宮鍋神社を国府の南辺と考えると、宮鍋神社を南東隅、御霊神社を南西隅、中間点を日高道が通り、日高道は政庁の正面に延びる最も重要な道路と想定して考える必要がある。
・大溝の中のエリアの性格付けも必要である。「ない」ところを広げていけば範囲を狭められる。
・初期国庁は、正殿・脇殿と整っていないので、遺構の見方を改める必要がある。
・蒼海城造成の際に遺構が壊された可能性がある。遺構が見つからなくても国府の時期の遺物が見つかる可能性があるので、範囲を絞り込めるのではないか。
・御霊神社周辺の地形がとてもよく残っているので、精密な実測図を作成する必要がある。



上野国府等範囲内容確認調査A案～D案

（3）　上野国府に関連する主要遺物の分布について

上野国府等範囲内容確認調査の実施とあわせて、上野国府に関連する既出資料の集成作業を行い、その成果を元総社蒼海遺跡群内における7世紀から10世紀の住居分布とあわせて平成23年度調査報告書に掲載した。その際は、既出資料のうち、掘立柱建物跡、古代の大溝、神社遺構、鍛冶工房跡など国府との関連が推定される遺構と、墨書土器、人形、螺旋状暗文を有する杯形土器、硯、盤・高盤形土器、腰帯具、青白磁類などの遺物を掲載した。

上野国府に関連する主要遺物については、平成23年度報告書に掲載した資料以外にも出土していることから、再度遺物集成を行うこととした。

1　集成作業について

対象とした区域は平成23年度報告書掲載時と同じ範囲を対象とした。具体的には元総社町を中心として、周辺地域を含めた範囲である。範囲内の主な遺跡としては、元総社蒼海遺跡群、天神遺跡、弥勒遺跡、元総社明神遺跡、元総社寺田遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡などの遺跡を対象とした。なお、対象とした遺跡（使用報告書）は一覧のとおりである。なお、集成作業にあたっては遺物の実測図と遺物一覧表を作成し、さらに出土点数を分布図にまとめた。抽出した遺物は螺旋状暗文を有する坏形土器、盤・高盤形土器、須恵器長頸瓶、墨書土器、文字瓦、硯、腰帯具、緑釉陶器、青磁、白磁、三彩、銅椀、特殊金属製品、その他の貴重遺物（人形等）とした。

2　各主要遺物の分布について

（1）　螺旋状暗文を有する坏形土器

螺旋状暗文を有する坏形土器は対象範囲内で142点確認されている。その中で上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡での出土が多く、元総社蒼海遺跡群でも西寄りの地域で出土している。その他では元総社小学校周辺でも数点出土している。多く出土している地点では国分僧寺・尼寺中間遺跡で調査した染谷川河川敷で34点出土し、鳥羽遺跡H区のH１号掘立柱建物跡（神社遺構）の区画溝から合計で25点出土している。鳥羽遺跡ではその他にM・N区第２台地下から５点出土している。染谷川河川敷については具体的な遺構は確認されていないが、７世紀後半以後の土師器坏や須恵器坏が集中して出土しており、その中に混ざり出土している。M・N区第２台地下も弥生時代後期・古墳時代初頭から奈良・平安時代に至る各時期の土器が多量に廃棄されていた。その他の螺旋状暗文を有する坏形土器は住居跡から出土する例が多い。

（2）　盤・高盤形土器

盤・高盤形土器は対象範囲内で189点確認されている。基本的には螺旋状暗文を有する坏形土器と似た分布をしており、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡、鳥羽遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡で多く出土している。また元総社蒼海遺跡群の西寄りの地域でも出土している。その他では元総社小学校周辺でも数点出土しているほか、天神遺跡でも出土しており、螺旋状暗文を有する坏形土器よりも、やや広い範囲に分布している。多く出土する地点・遺構では元総社寺田遺跡の牛池川の河道や、鳥羽遺跡のM・N区第２台地下が挙げられる。前者では盤のほかに、螺旋状暗文を有する坏形土器、墨書土器、硯、人形なども出土している。後者については前述のとおり多量に廃棄された土器に含まれている状態で出土している。

（3）　須恵器長頸瓶

須恵器長頸瓶は対象範囲内で29点確認され、鳥羽遺跡や元総社西川遺跡など、西寄りの地域で出土し

ている。その他に元総社明神遺跡でも出土している。多く出土する地点や遺構はなく、住居跡から出土している。

（4）墨書土器

墨書土器は対象範囲内で144点確認されている。墨書土器に記された個々の文字の分析まで行っていないため、客観的な分布を把握するのみとなってしまうが、遺跡レベルでの多少の集中はあるものの、全体的に対象地域全体に分布するが散漫に分布する傾向がある。ただし、元総社寺田遺跡では河道から多くの墨書土器が出土しており、その中には「国厨」「曹司」等の国府関連施設が書かれた墨書土器が含まれている。また、国分僧寺と国分尼寺の中間付近に位置する元総社蒼海遺跡群（26）では、住居の覆土からの出土ではあるが「大舘」の墨書土器が出土している。大舘は国司館を示すと考えられ、周辺で掘立柱建物跡等は検出されていないため、国司館の詳細の位置は不明であるが、国府関連遺物として特筆される。

（5）文字瓦

文字瓦は対象範囲内で332点確認されている。文字瓦についても墨書土器と同様に対象地域全体に分布が広がる傾向を示す。出土点数では国分僧寺と国分尼寺の付近が多い。国府域で国庁・国衙以外で存在した主な瓦葺建物としては国分僧寺と国分尼寺が挙げられるが、この出土状況は両寺院で使用された瓦の影響と考えられるだろう。国分僧寺・国分尼寺周辺以外で文字瓦が多く出土した地点・遺構はほぼなく、元総社蒼海遺跡群の調査でも、文字瓦も含め瓦の出土は住居のカマドの構築材へ転用した例が多い。

（6）硯（円面硯・蹄脚硯・風字硯・転用硯）

硯は円面硯・蹄脚硯・風字硯・転用硯が出土しているが、対象範囲内で円面硯26点、蹄脚硯1点、風字硯9点、転用硯61点確認されており、点数的には転用硯が一番多く、出土した硯の約63%を占める。分布については硯の形態に大きな差はなく、国分僧寺・国分尼寺中間遺跡や鳥羽遺跡などの西寄りと、元総社明神遺跡周辺に集中している。多く出土した地点・遺構はなく、住居跡や溝から出土している。

（7）腰帯具（丸鞆・巡方・鉈尾・帯金具）

腰帯具としては丸鞆・巡方・鉈尾・帯金具（鉸具等）が出土しており、対象範囲内で丸鞆10点、巡方12点、鉈尾5点、帯金具4点確認されている。分布は鳥羽遺跡や元総社蒼海遺跡群を中心に出土しているが、散漫な状態で出土している。遺物が多く出土が集中する地点・遺構も検出されておらず、住居跡から出土する例が大部分を占める。

（8）緑釉陶器

緑釉陶器は対象範囲内で緑釉陶器は点数に差はあるものの国府域全域から出土している。特筆されるのは天神遺跡から120点出土しており、一つの遺跡からの出土点数としては群を抜いている。その他に鳥羽遺跡や元総社蒼海遺跡群の染谷川寄りで多く出土している。よって点数的な分布としては国府域の南東に集中する傾向がある。

（9）青磁・白磁・三彩・銅椀

青磁と白磁については国府域全域から出土している。青磁は点数的にも出土が集中する地点はないが、白磁は元総社明神遺跡や元総社西川塚田・中原遺跡などで多く出土している。三彩と銅椀については出土例も少なく、分布についても鳥羽遺跡や元総社西川塚田・中原遺跡を中心に出土する程度である。

（10）特殊金属製品

特殊金属製品として鉄製品、銅製品、金銅製品を挙げた。鉄製品は鋏・鉋・毛抜形鉄製品などの道具自体が鉄を素材としたもの、刀装具・留め金具などの鉄製の部品、その他の板状や環状の鉄製品に分けられる。銅製品は鈴などの銅製品、刀装具・刀館具などの銅製の部品、銅粒や銅原料地金と思われるものなどの原材料に分けられる。金銅製品は基本的には道具の一部もしくは部品であるが、部分的な出土

であるため詳細が不明な場合がある。

分布は僧寺・尼寺中間地域、鳥羽遺跡、元総社西川遺跡など国府域の西寄りに分布している。出土した遺構も住居や溝が中心であり、特殊な遺構からの出土はみられない。

(11) その他の貴重遺物

その他の少数ながら出土した貴重遺物としては、人形、須恵器獣脚、水瓶、水柱須恵器を挙げた。

人形は元総社明神遺跡や寺田遺跡から出土している。いずれも牛池川の河道から出土している。須恵器獣脚は天神遺跡と堰越遺跡から出土している。水瓶は頸部のみの出土であるが、元総社蒼海遺跡群と元総社明神遺跡から出土している。水注は１点のみ元総社蒼海遺跡群から出土している。

3　まとめ

以上のように上野国府に関連する主要遺物の分布状況をみてきたが、全体的な傾向としては、主要遺物の出土は対象地域でも西寄りの国分僧寺・尼寺中間遺跡や鳥羽遺跡、東寄りでは元総社明神遺跡や寺田遺跡など、総社神社や元総社小学校周辺から出土する。

出土状況については大きく３つのケースに分けることができる。

一つめは、住居跡の覆土から出土するケースで、大概の遺物はこのケースに該当する。各住居跡と遺物の出土状況について今後の検討課題となるため詳細が不明であるが、文字瓦とカマドの構築材の関係のように遺物と出土した遺構が直接的に関係を持たない例があることは考慮したい。

二つめは、溝や染谷川や牛池川の河道や河川敷から出土するケースで、螺旋状暗文を有する坏形土器、盤・高盤形土器、人形、一部の墨書土器が該当する。出土状況を詳しく見てみると、河川に面した台地の下部でまとまって出土した土器の中に含まれていた例や、調査で確認された河道で出土した例が多い。人形については、祓において罪・穢等を人形に移し、流れに投じたという使用方法から河道で出土することも十分想定できる。螺旋暗文を有する坏形土器や盤・高盤形土器などの土器類についても、使用後に河川敷や河道に廃棄したことが考えられる。また、鳥羽遺跡のＨ１号掘立柱建物跡（神社遺構）の区画溝（Ｗ－10～12）から螺旋状暗文を有する土器が多く出土している。比較的完形の坏形土器が出土していることから、遺構と土器との関連性について検討する必要がある。

三つめは遺構などに伴わず調査区の覆土から出土するケースで、緑釉陶器、青磁、白磁に多く見られる。特に、青磁と白磁については、元総社明神遺跡から多く出土しており、他の遺物と分布の状況に差がある。

このように、遺物によって出土状況にある程度の傾向があると思われる。特に土器等が廃棄された溝や河川敷の存在については、住居跡の覆土から出土する例と性格が異なると思われ、今後さらなる性格の検証が必要と思われる。

参考文献

中山真治・西野善勝　1999　『武蔵国府の調査 22　－平成 11 年度府中市内調査概要』府中市教育委員会・府中市遺跡調査会

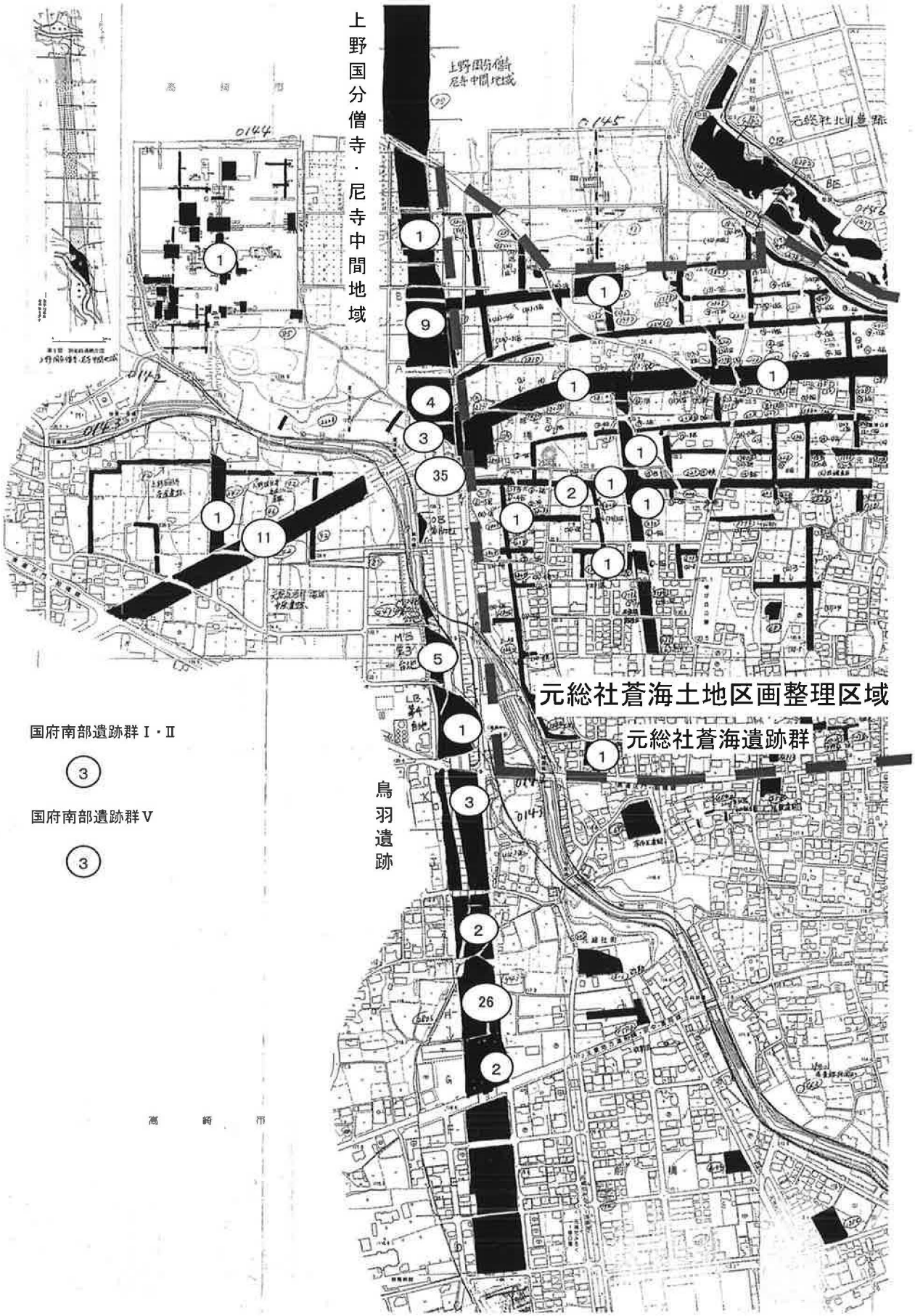
江口　桂　2002　「武蔵国府関連遺跡出土墨書土器の基礎的検討」『府中市郷土の森博物館紀要』15

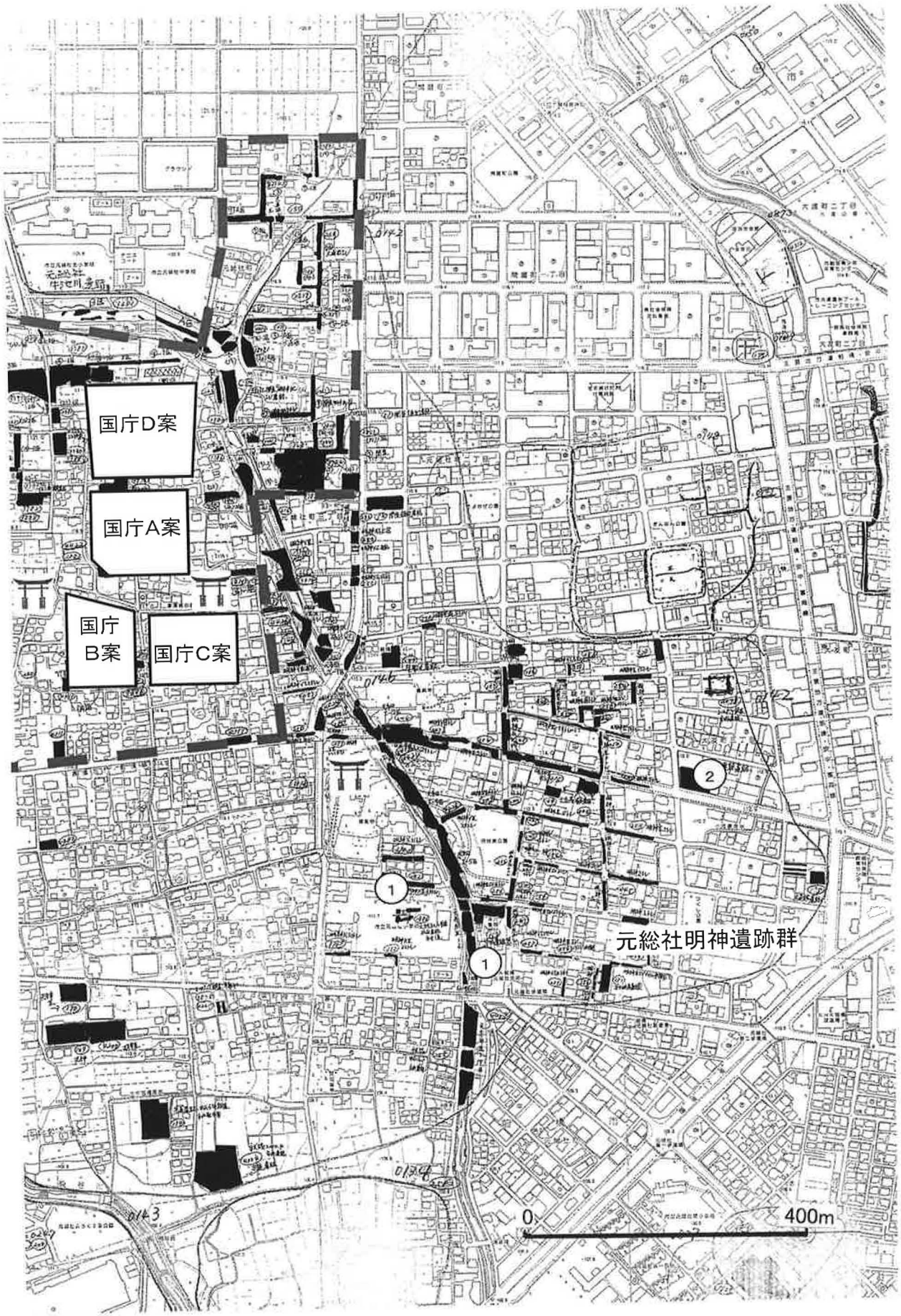
奈良文化財研究所　2004　『古代の官衙遺跡』Ⅱ　遺物・遺跡編

（財）府中文化振興財団・府中市郷土の森博物館　2005　『古代武蔵国府』府中市郷土の森博物館ブックレット６

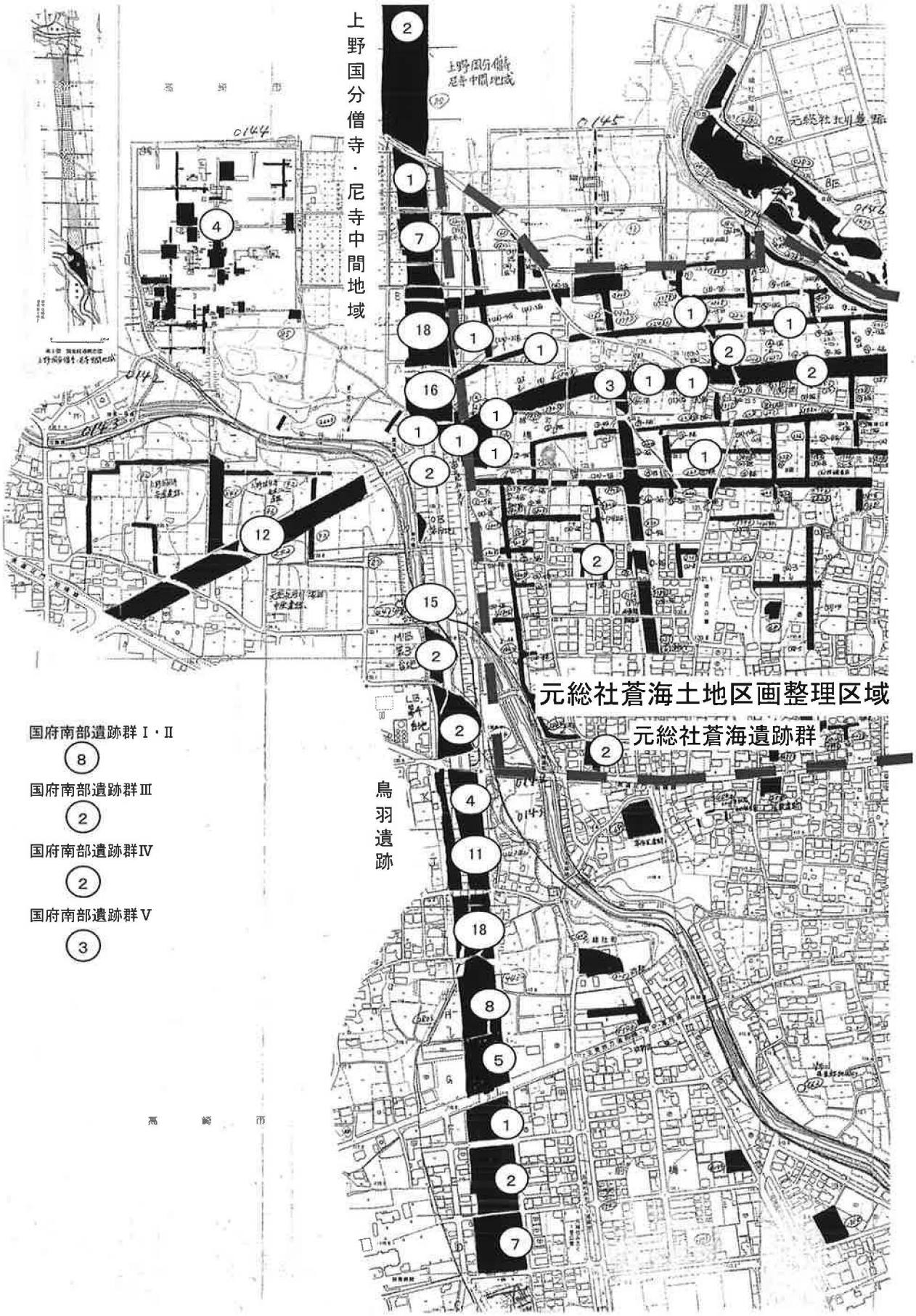
なお、報告書については一覧のとおり

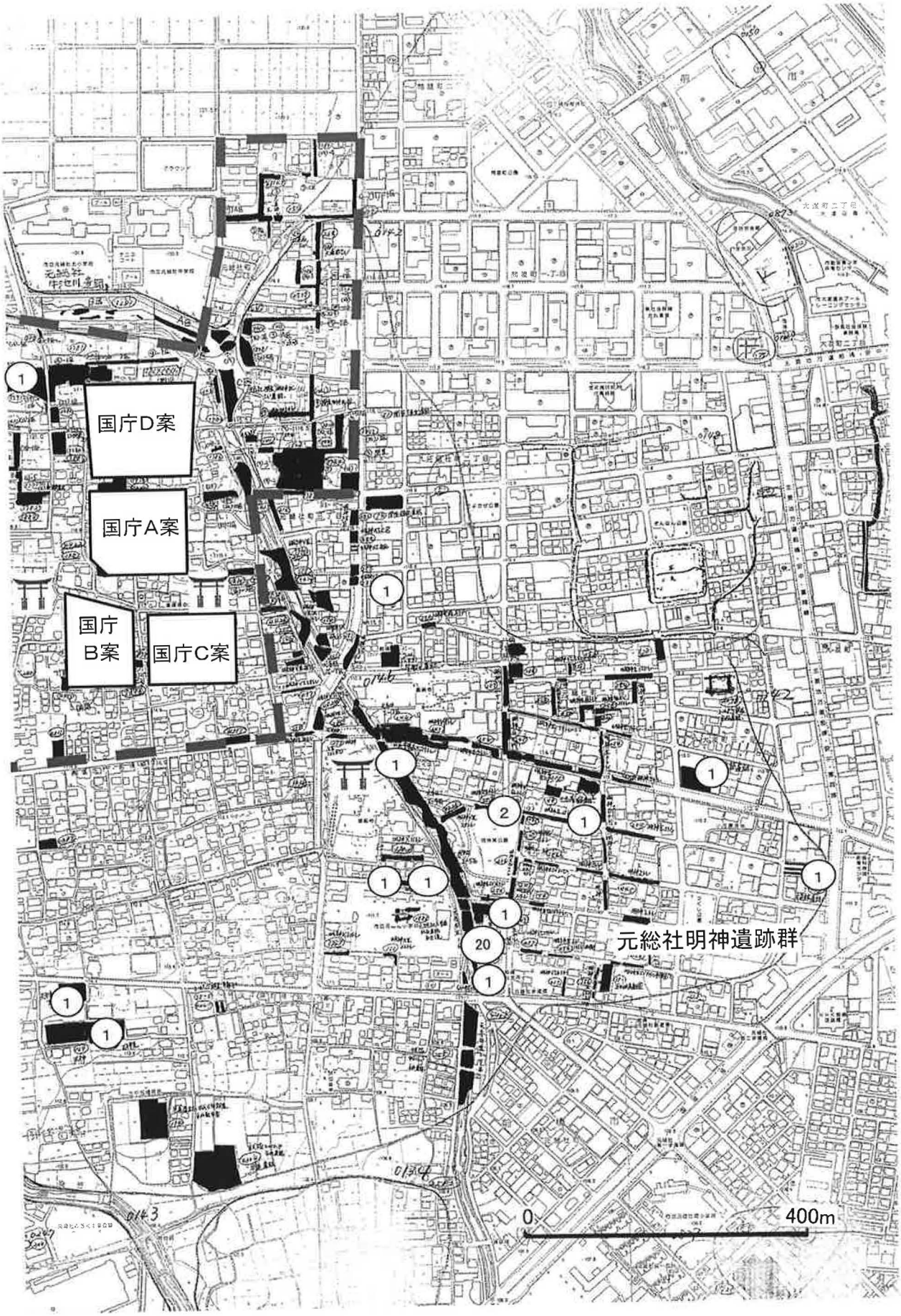
01 螺旋状暗紋を有する坏形土器の分布図



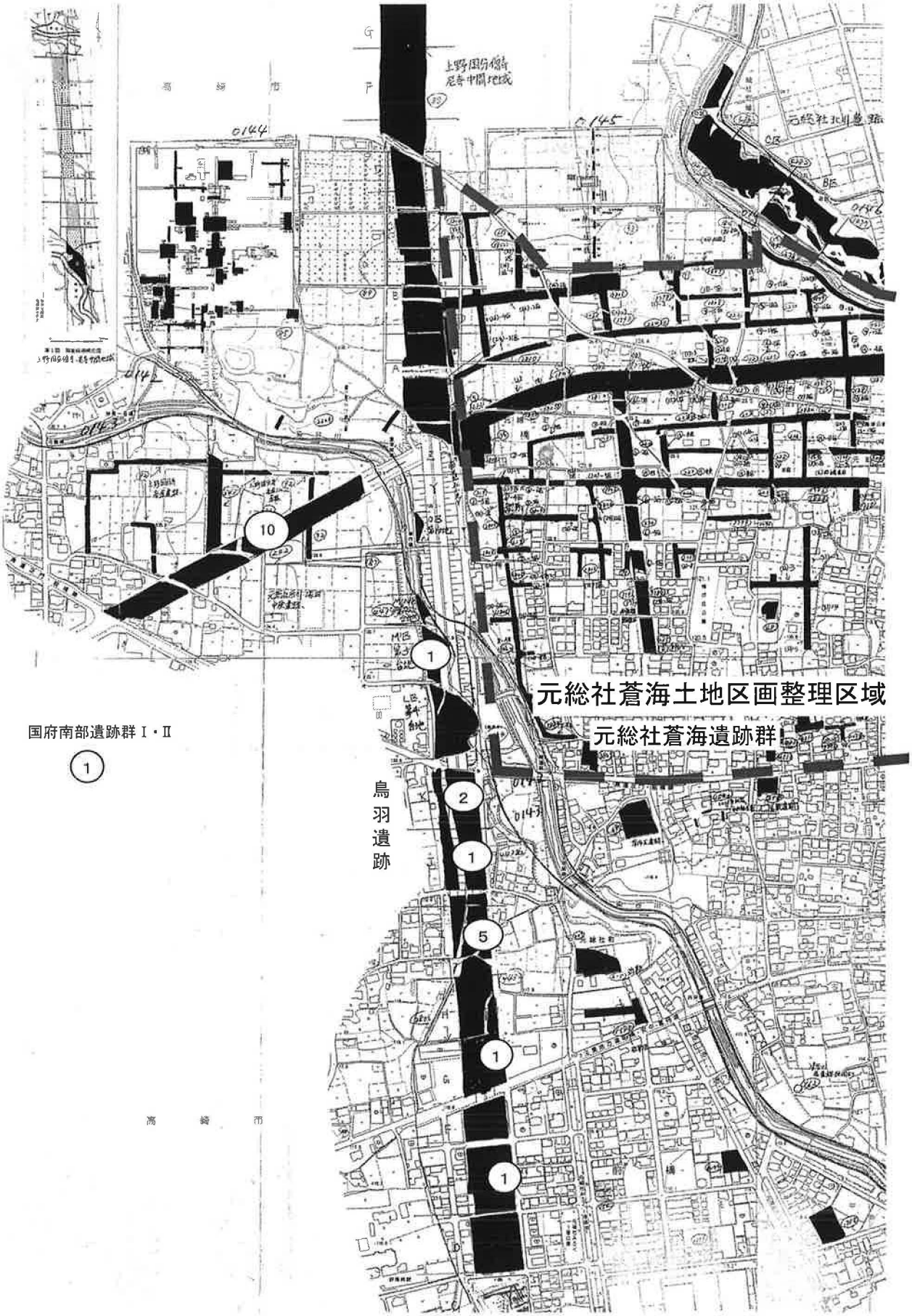

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

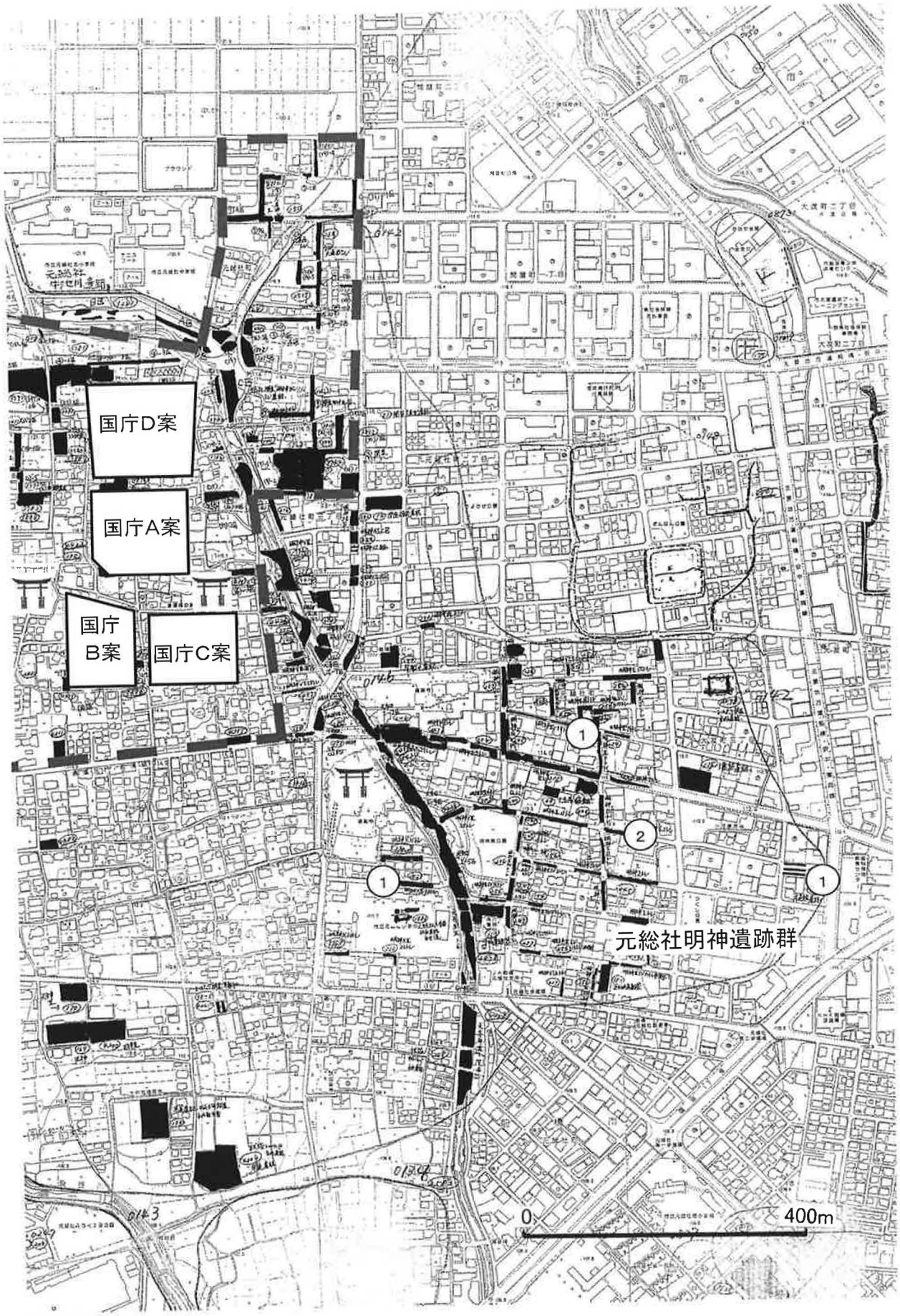
02 盤・高盤形土器の分布図




国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

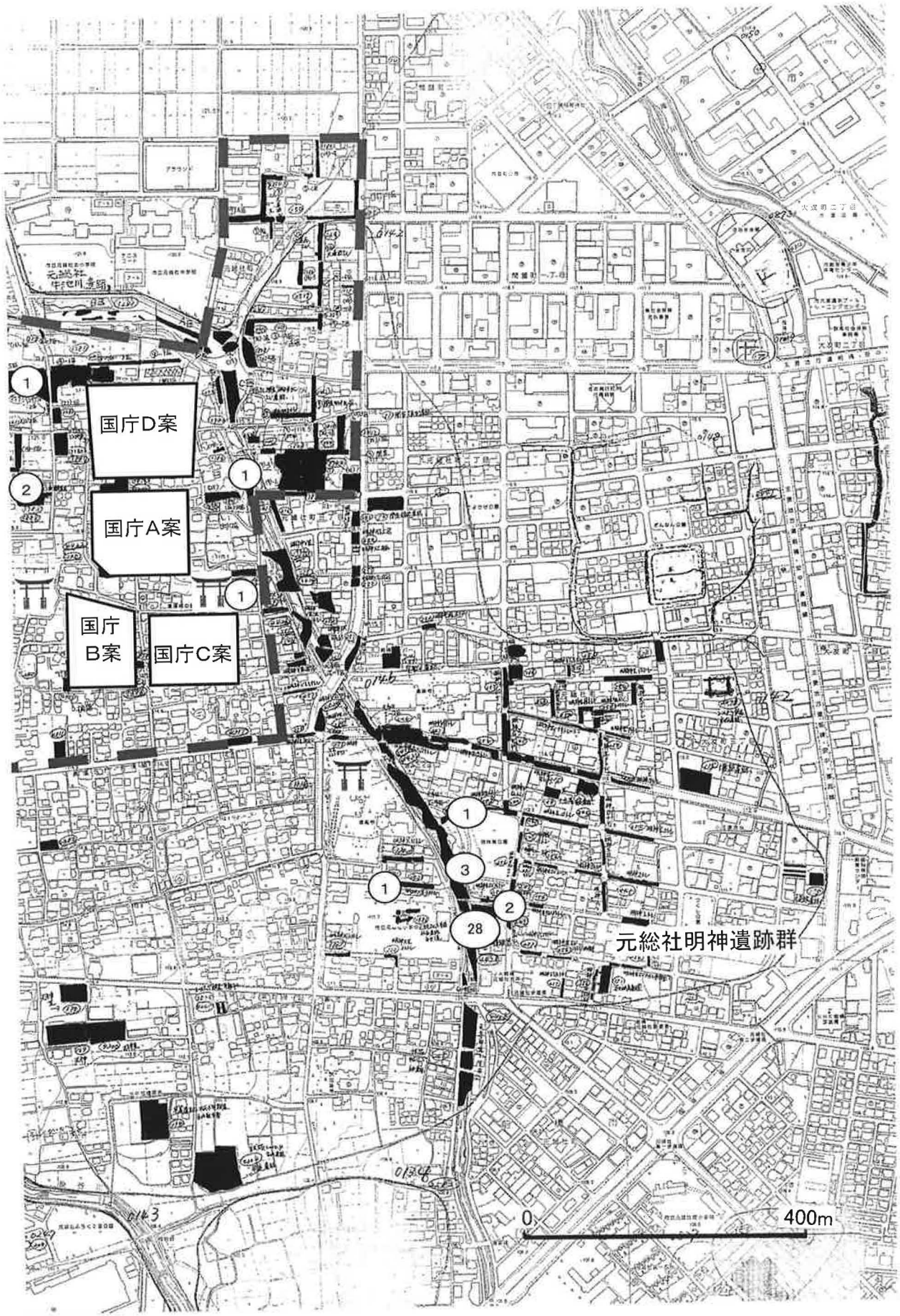
03 須恵器長頸瓶の分布図



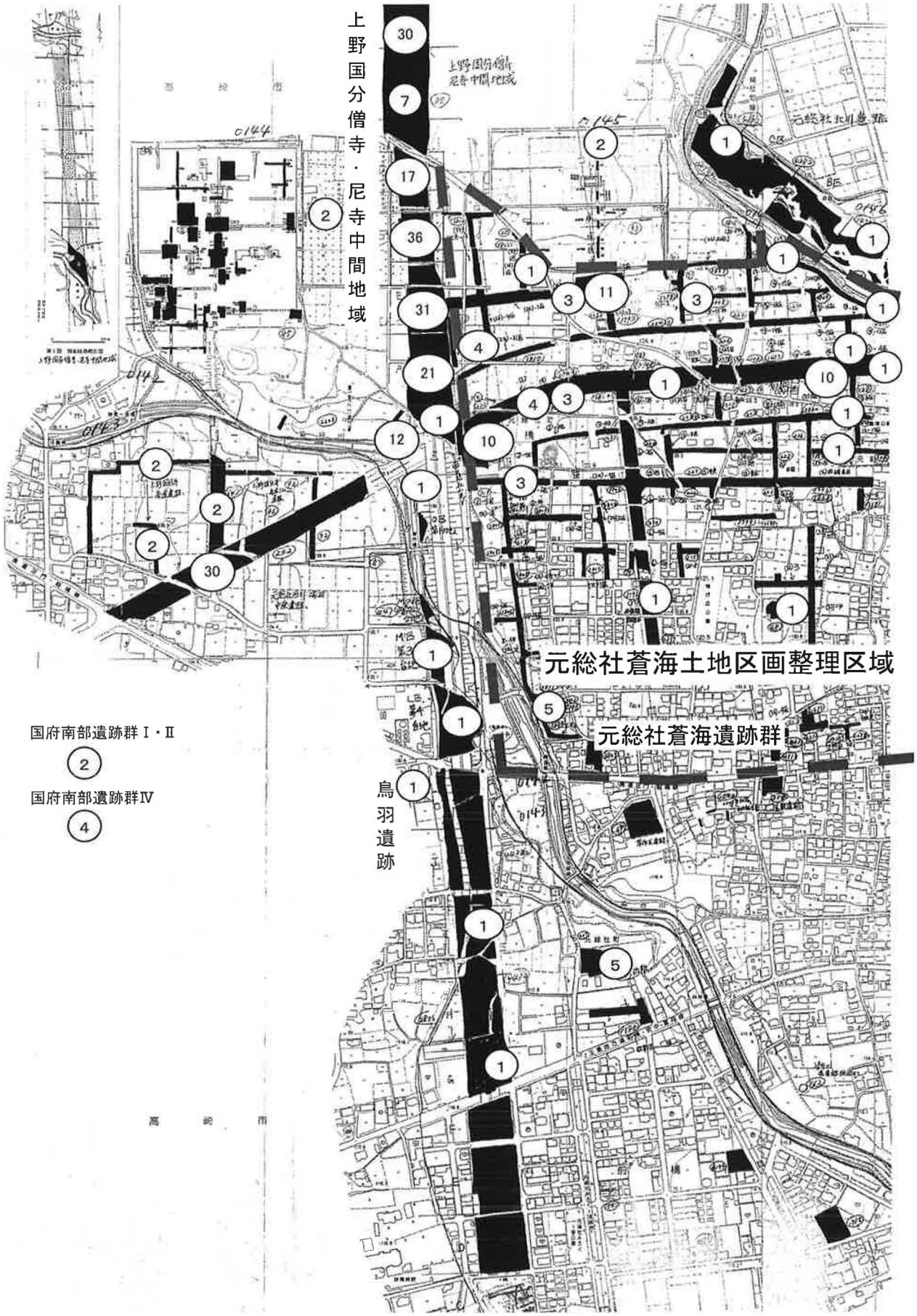

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

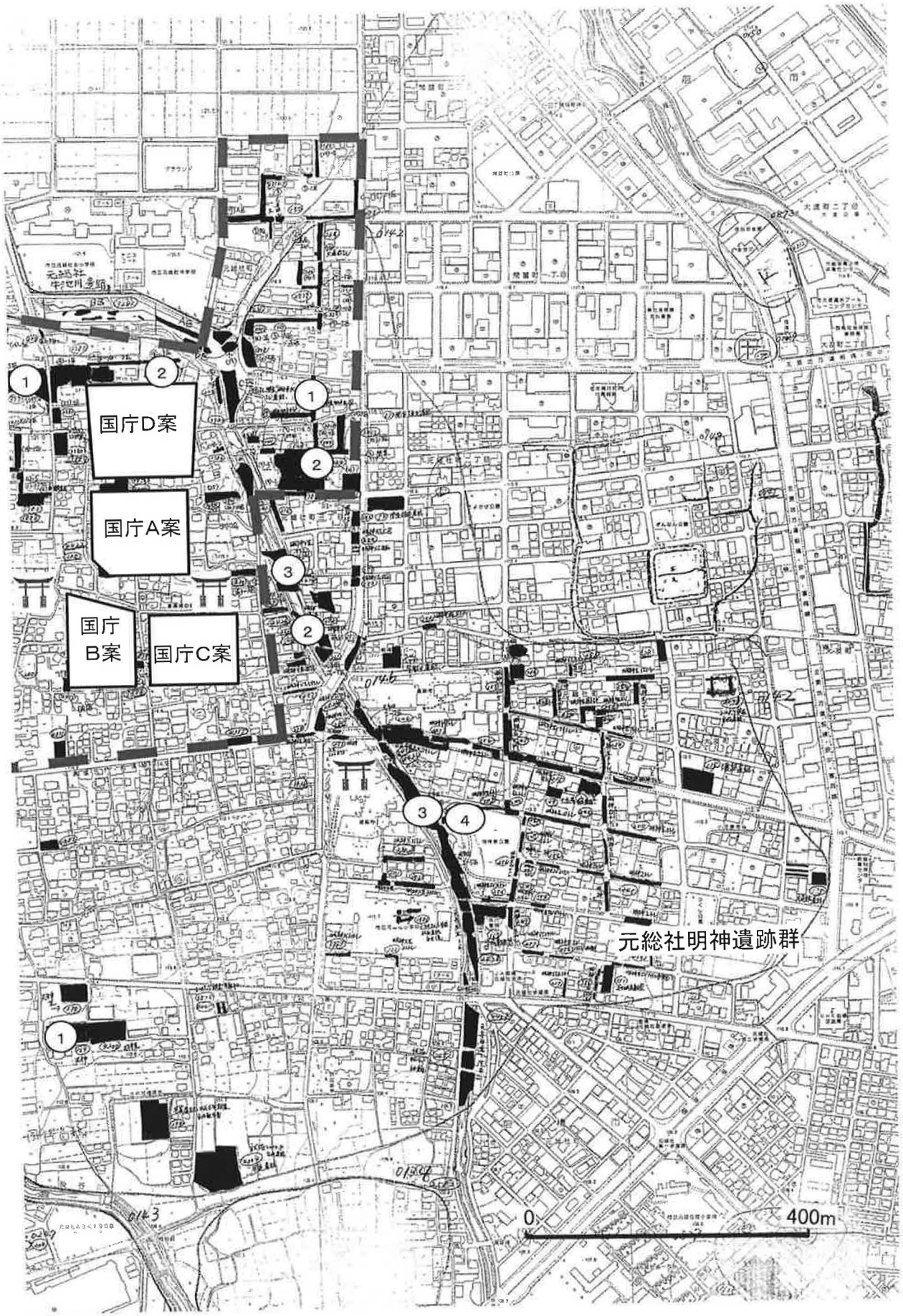
04 墨書土器の分布図

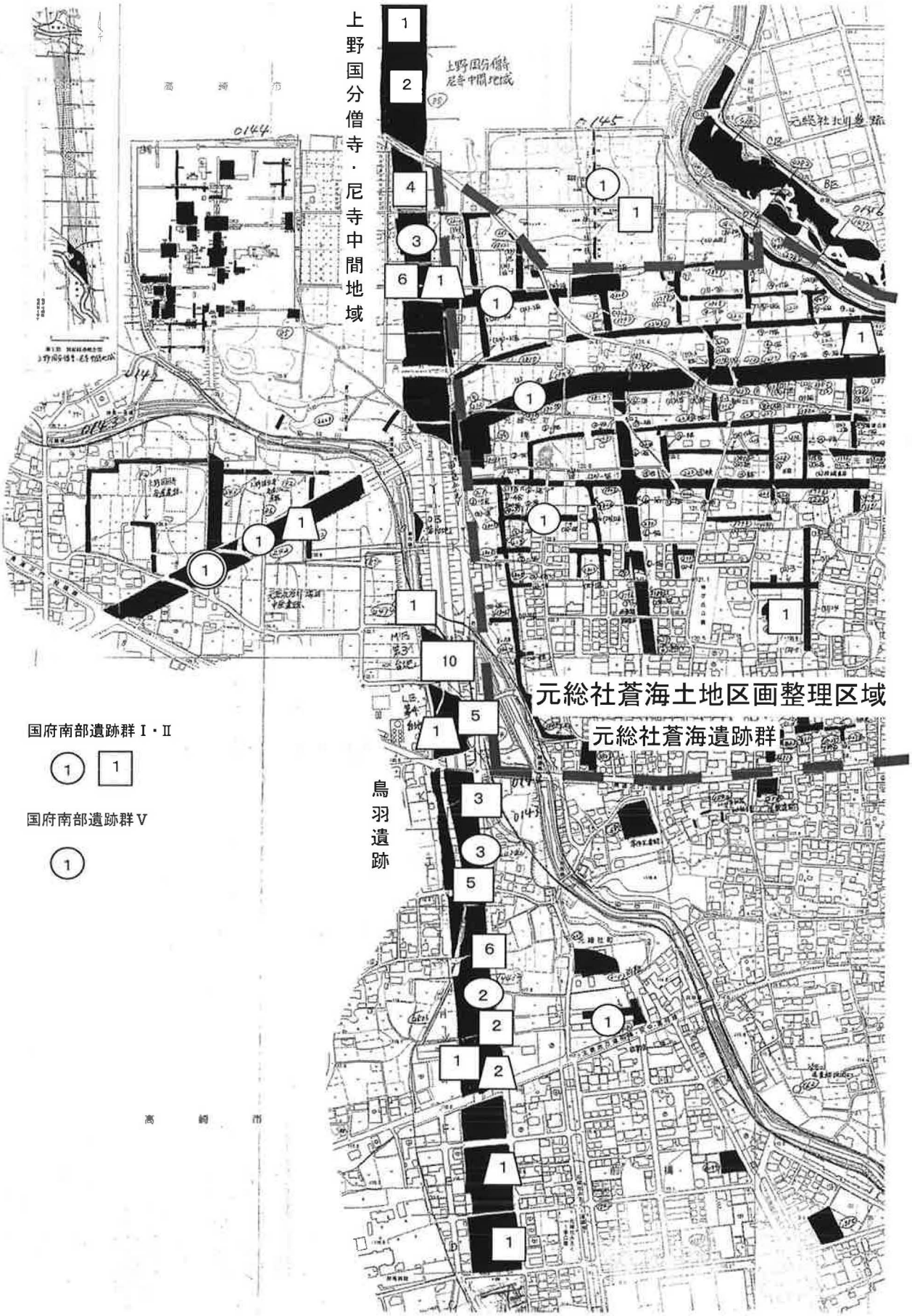
上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅳ
2
国府南部遺跡群Ⅴ
2

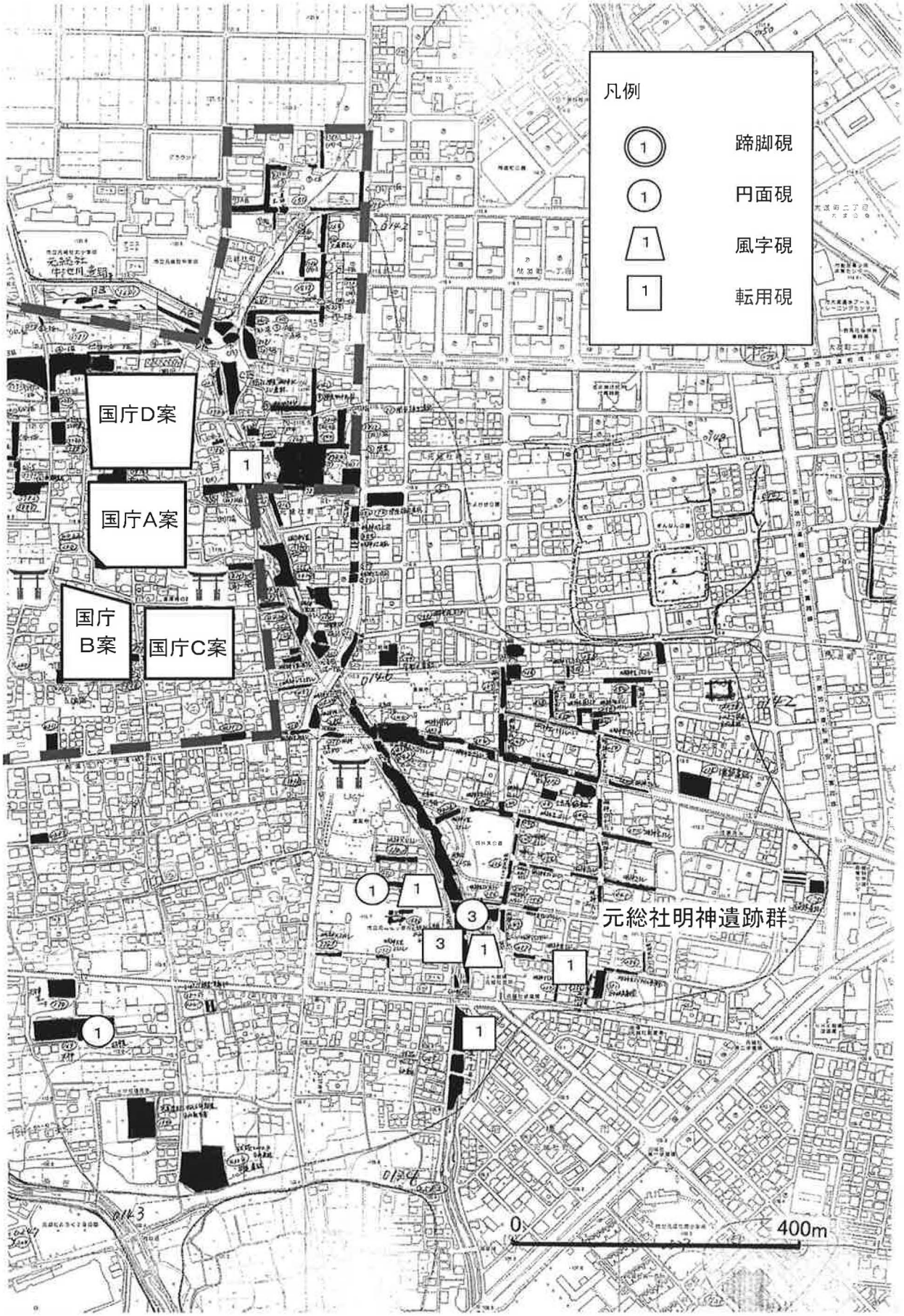

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

05 文字瓦の分布図


上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ
2
国府南部遺跡群Ⅳ
4

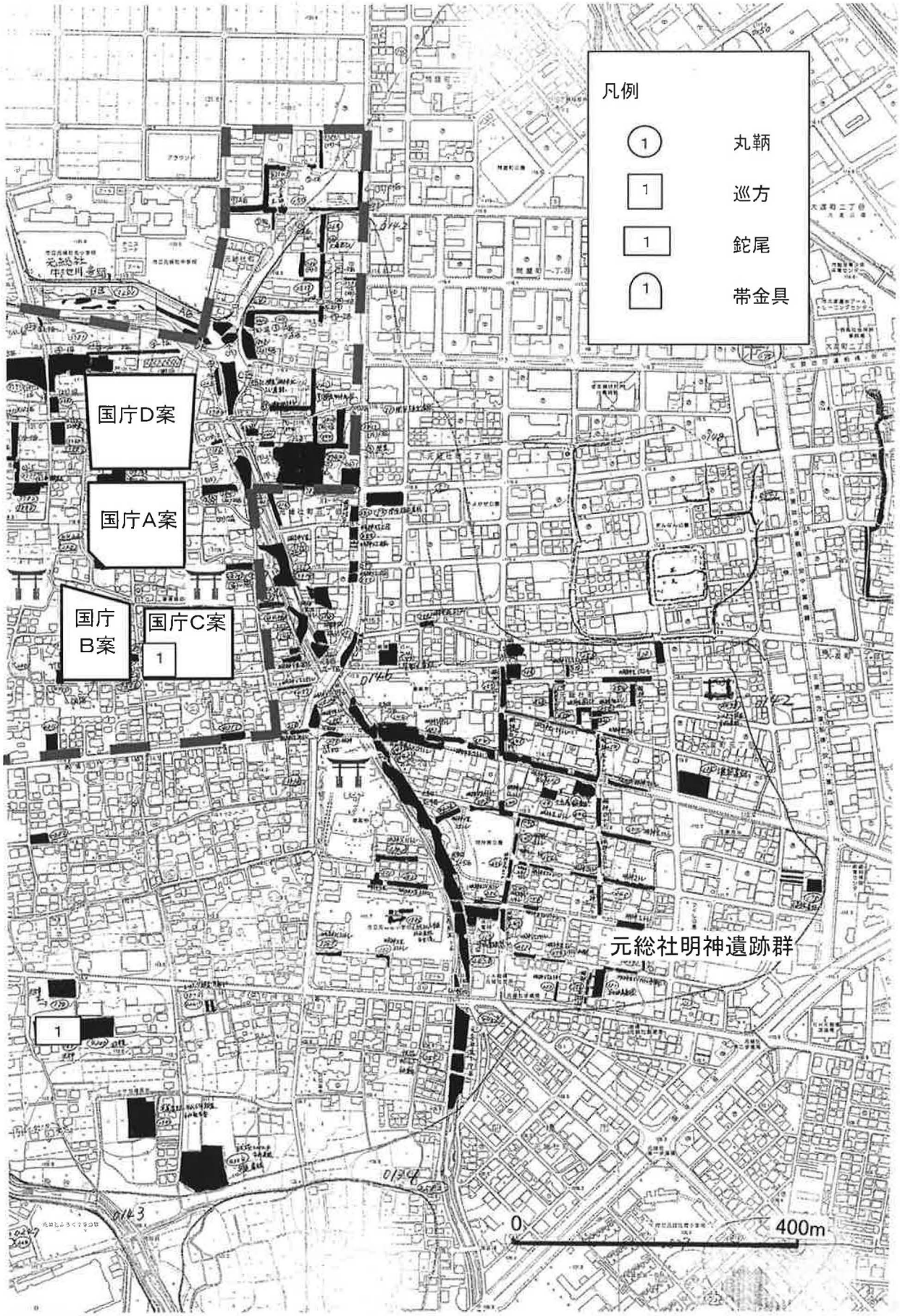

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m


上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ
国府南部遺跡群Ⅴ

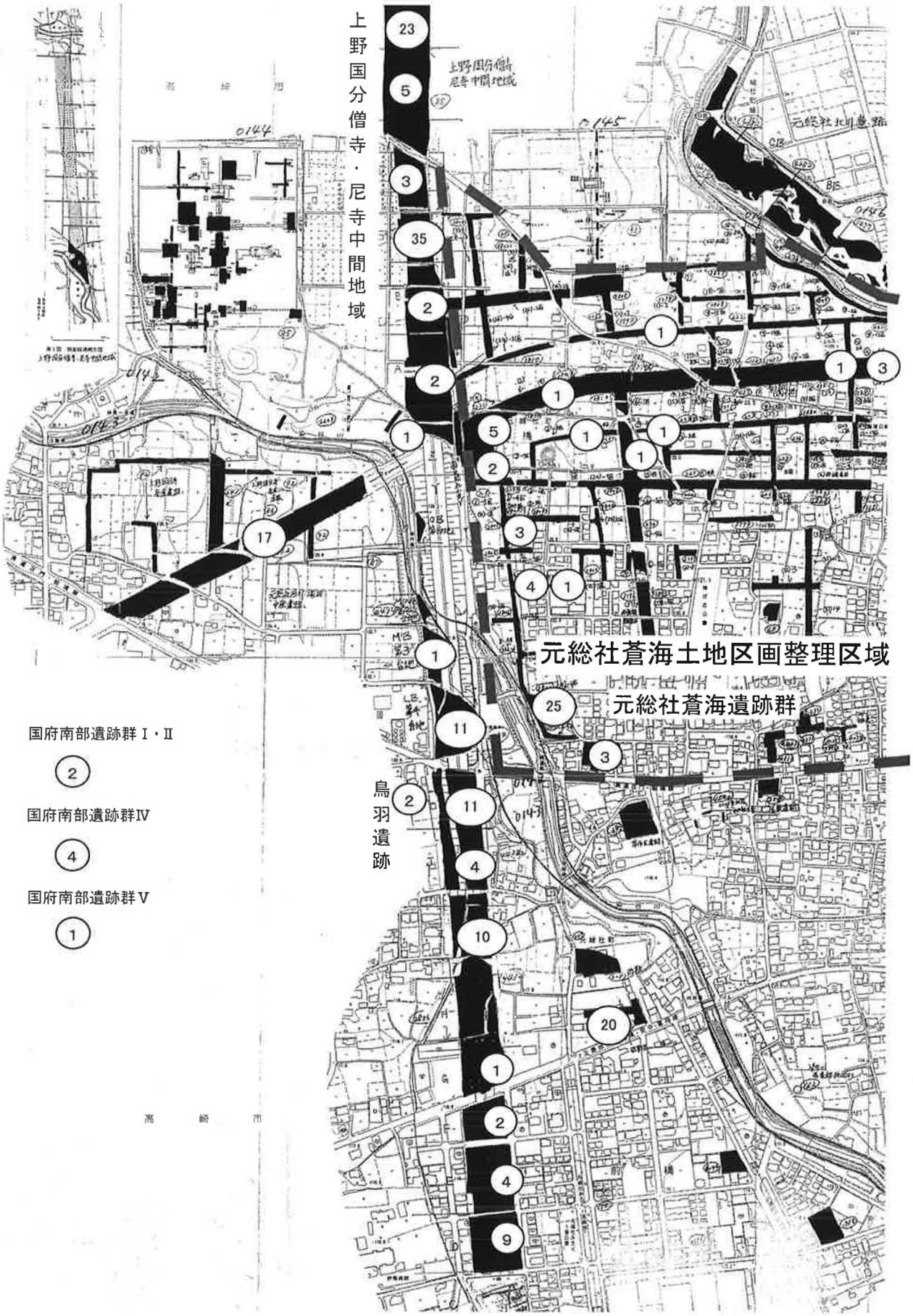

凡例
蹄脚硯
円面硯
風字硯
転用硯
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

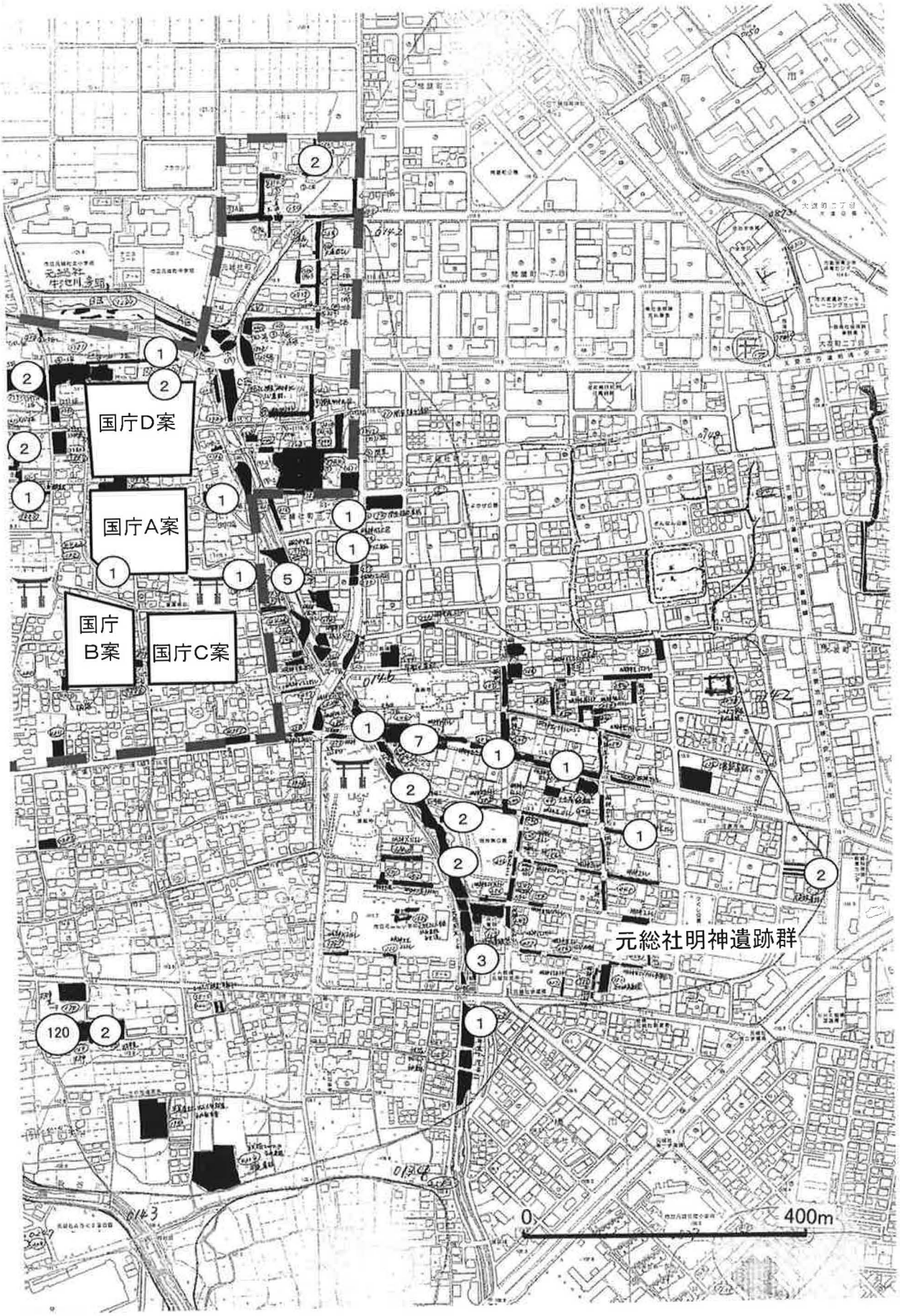
09, 10, 11, 12 腰帯具（丸鞆・巡方・鉈尾・帯金具）

の分布図

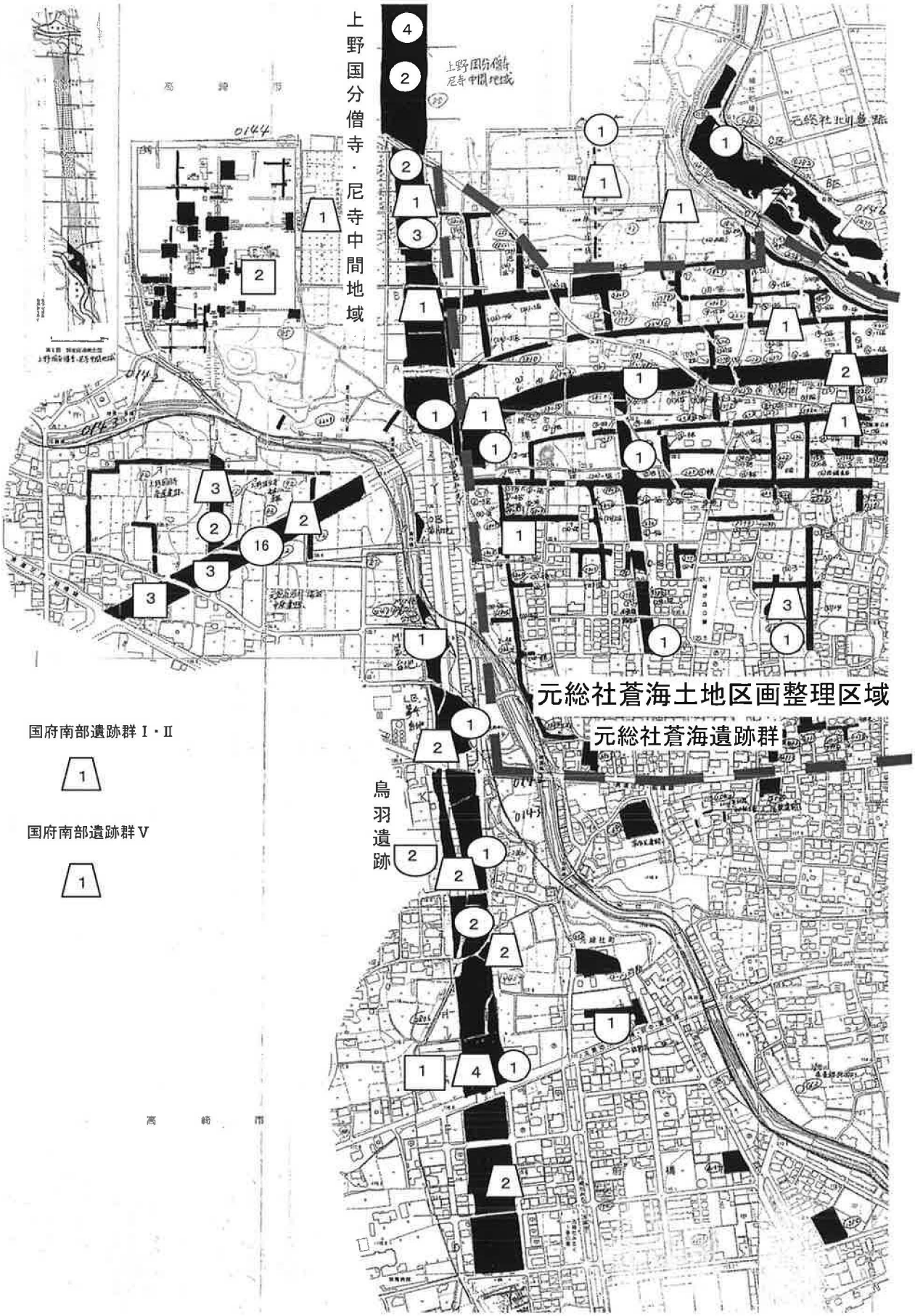


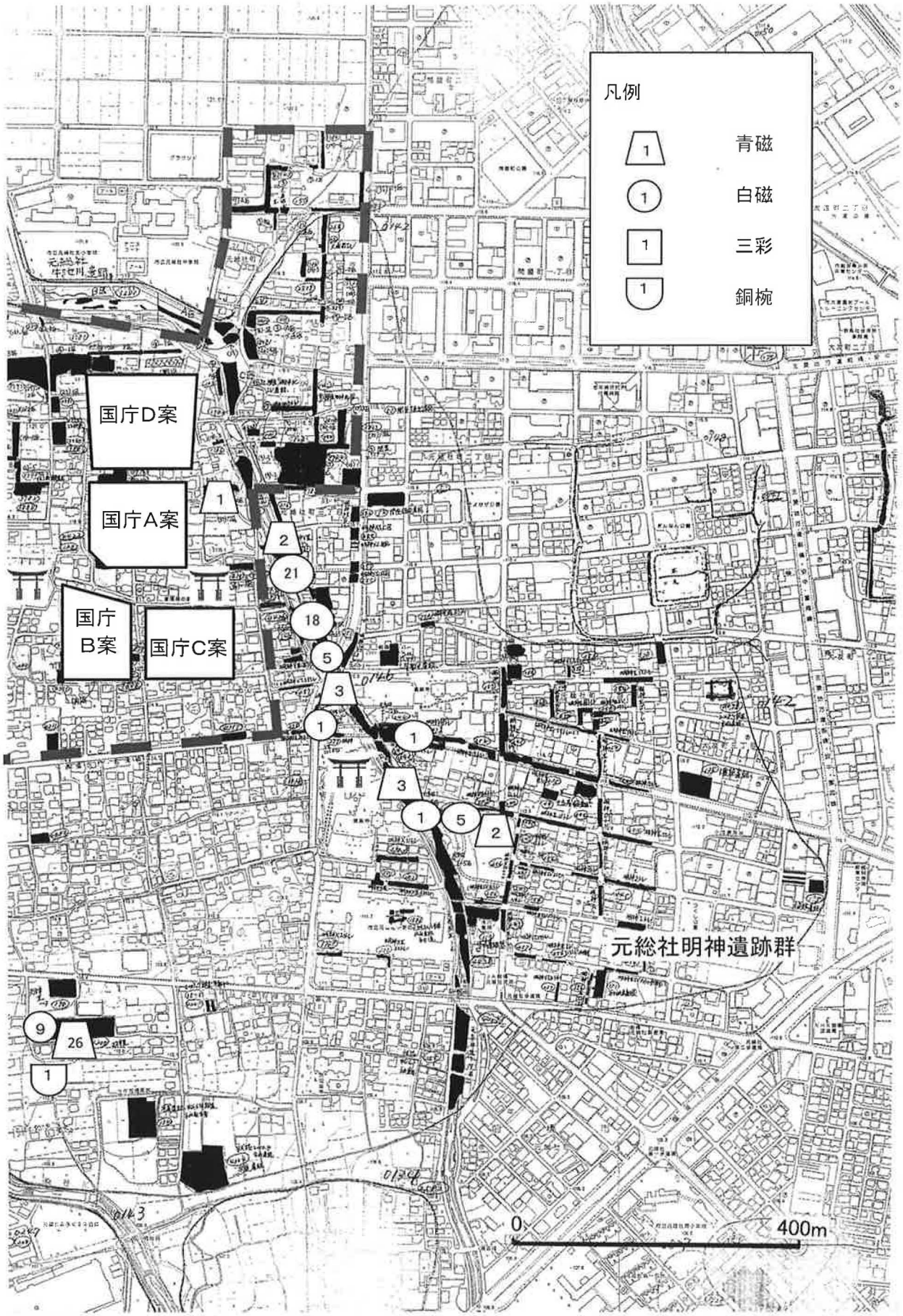
13 緑釉陶器の分布図


上野国分僧寺・尼寺中間地域
元総社蒼海土地区画整理区域
元総社蒼海遺跡群
鳥羽遺跡
国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ
2
国府南部遺跡群Ⅳ
4
国府南部遺跡群Ⅴ
1

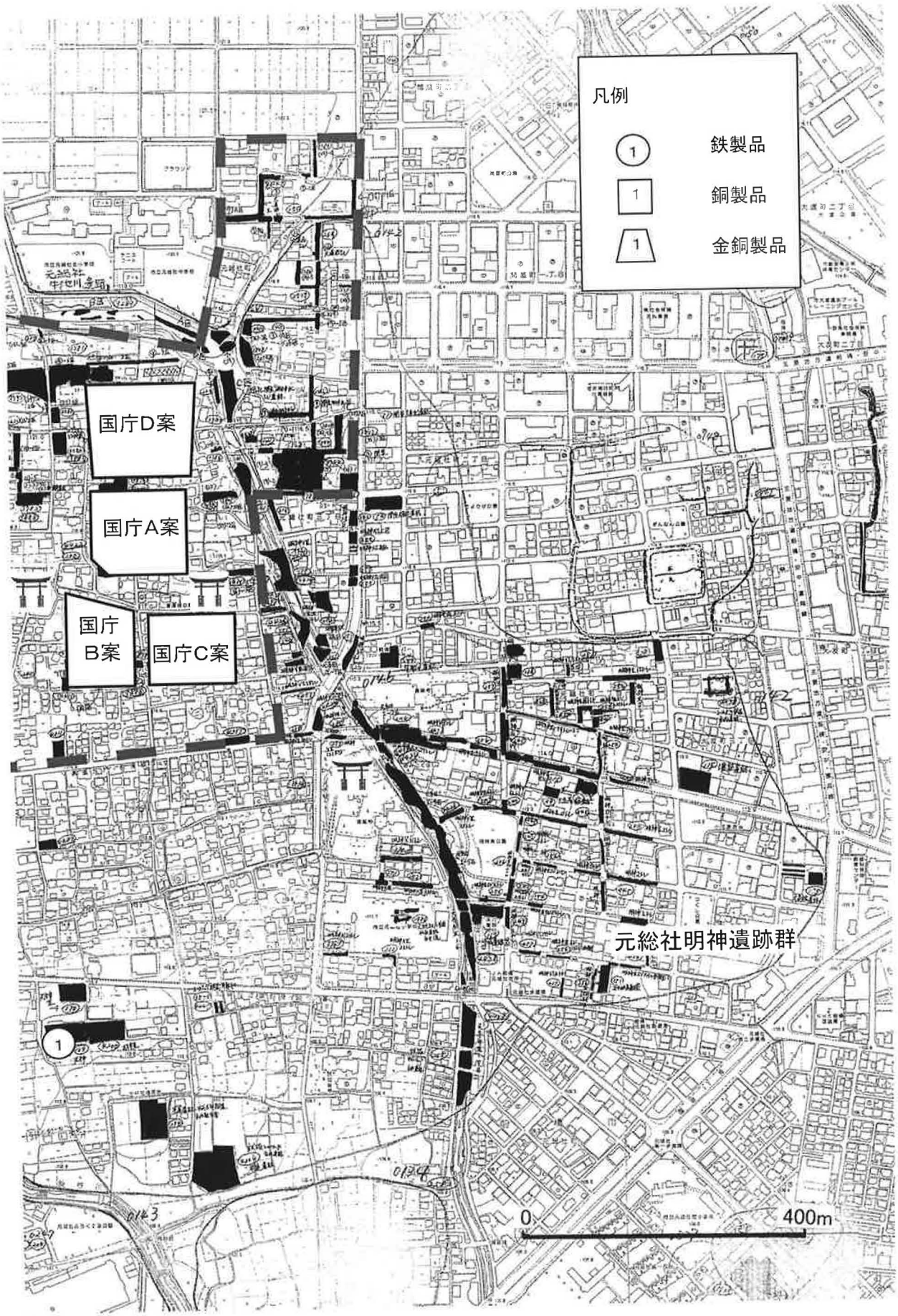

国庁D案
国庁A案
国庁
B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

14, 15, 16, 17 青磁、白磁、三彩、銅椀の分布図

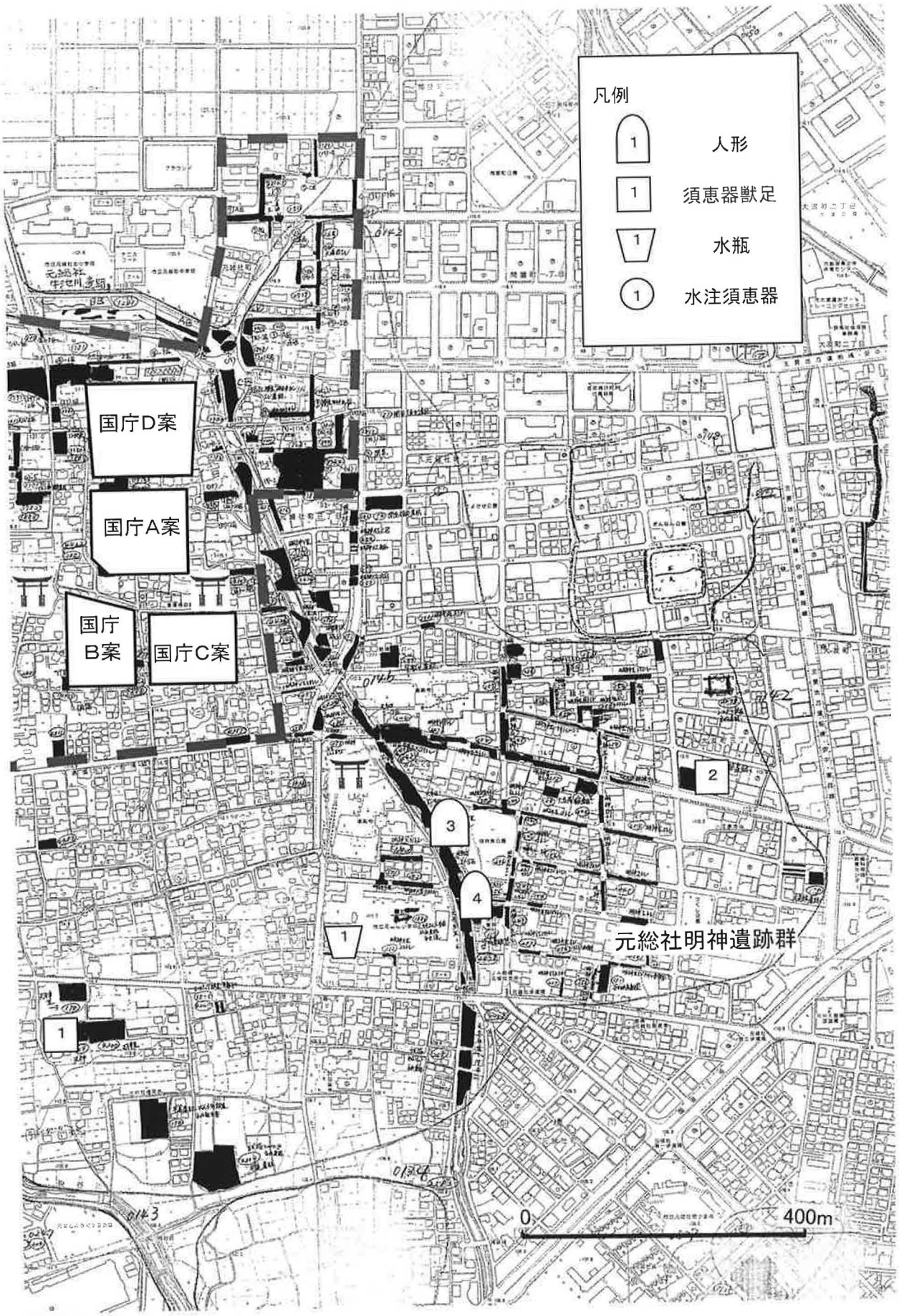



凡例
青磁
白磁
三彩
銅椀
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

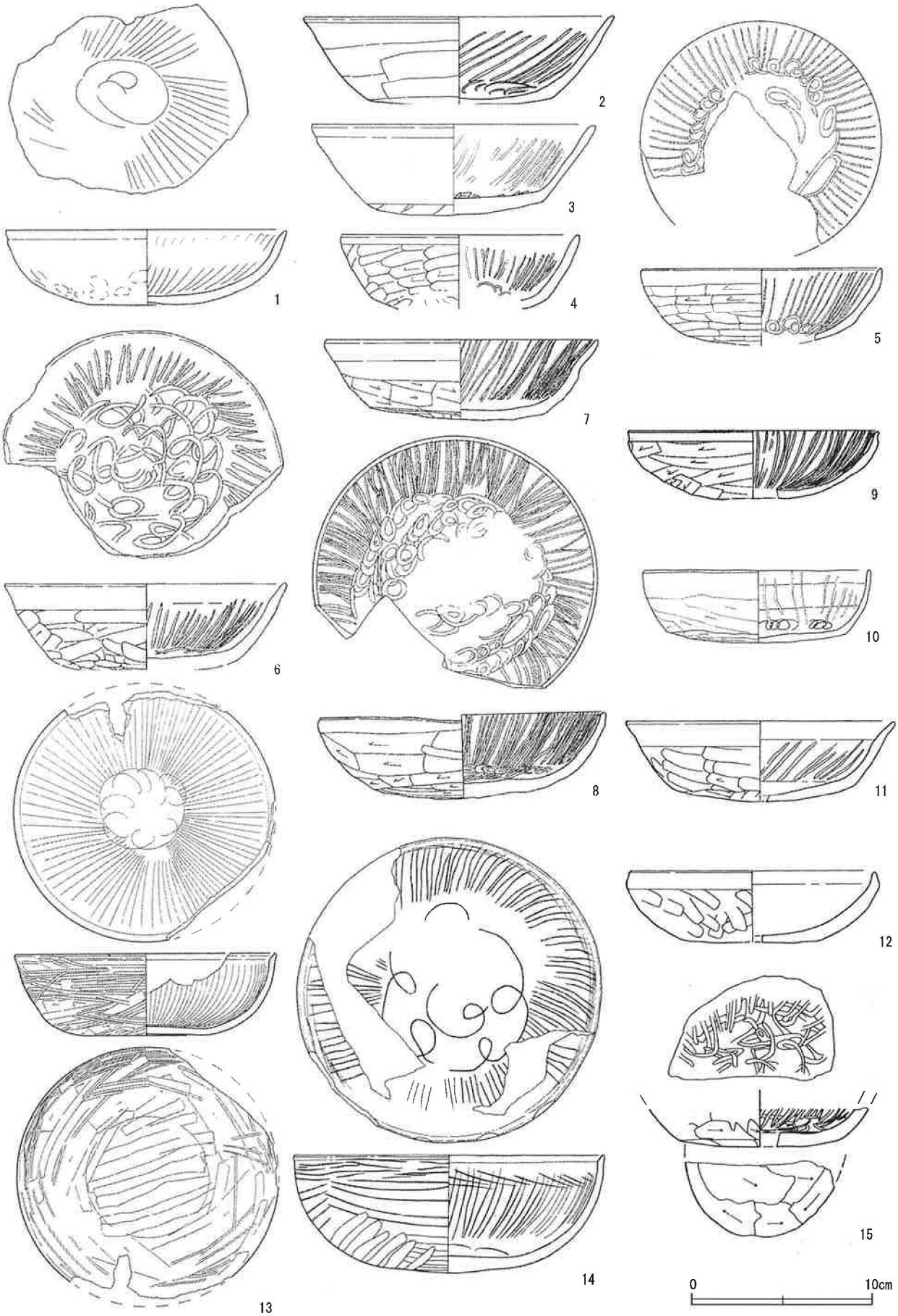
18, 19, 20 特殊金属製品の分布図


凡例
1 鉄製品
1 銅製品
1 金銅製品
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

21, 22, 23, 24 その他貴重遺物の分布図

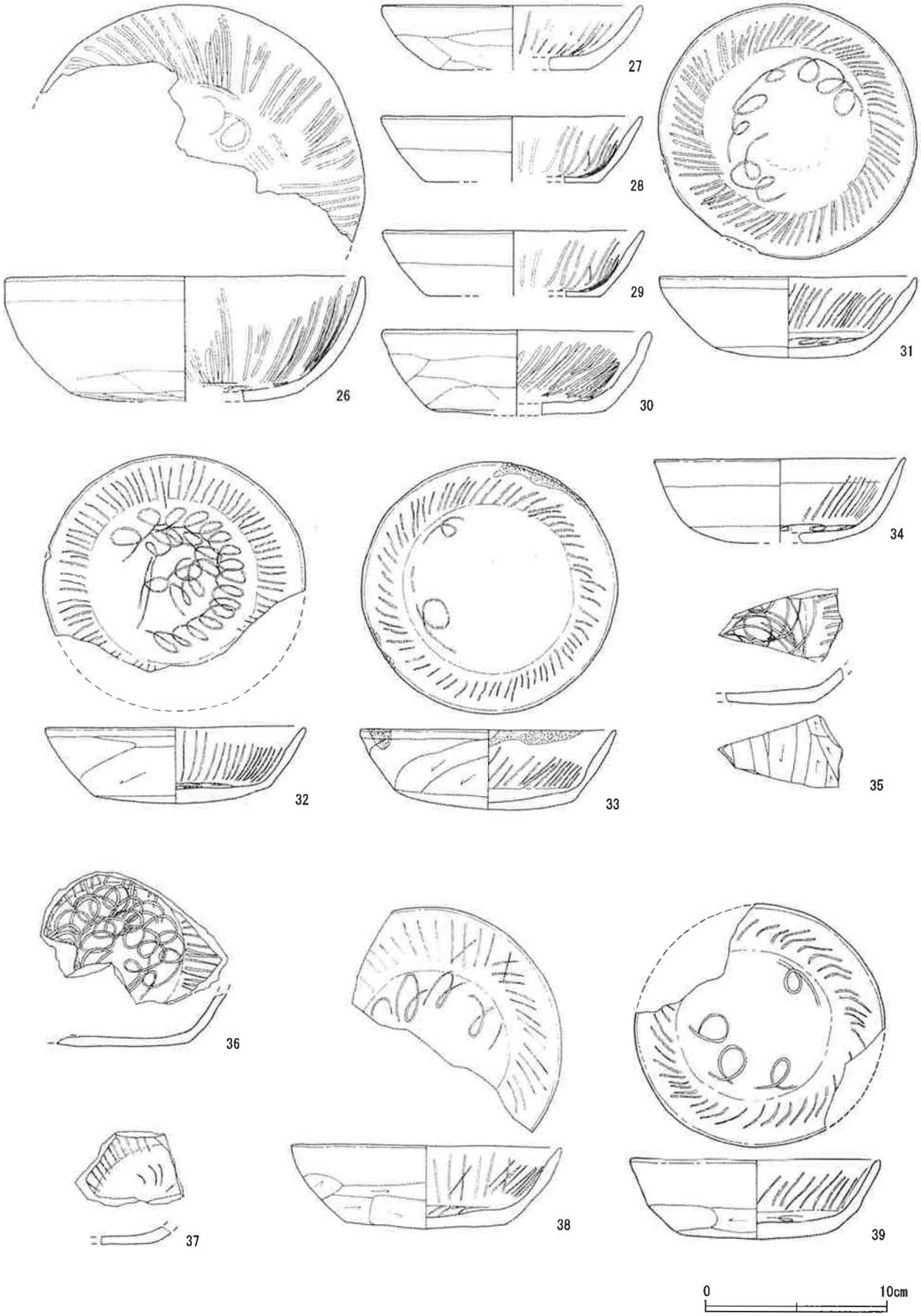

凡例
1 人形
1 須恵器獣足
1 水瓶
1 水注須恵器
国庁D案
国庁A案
国庁B案
国庁C案
元総社明神遺跡群
0
400m

螺旋状暗紋を有する坏形土器

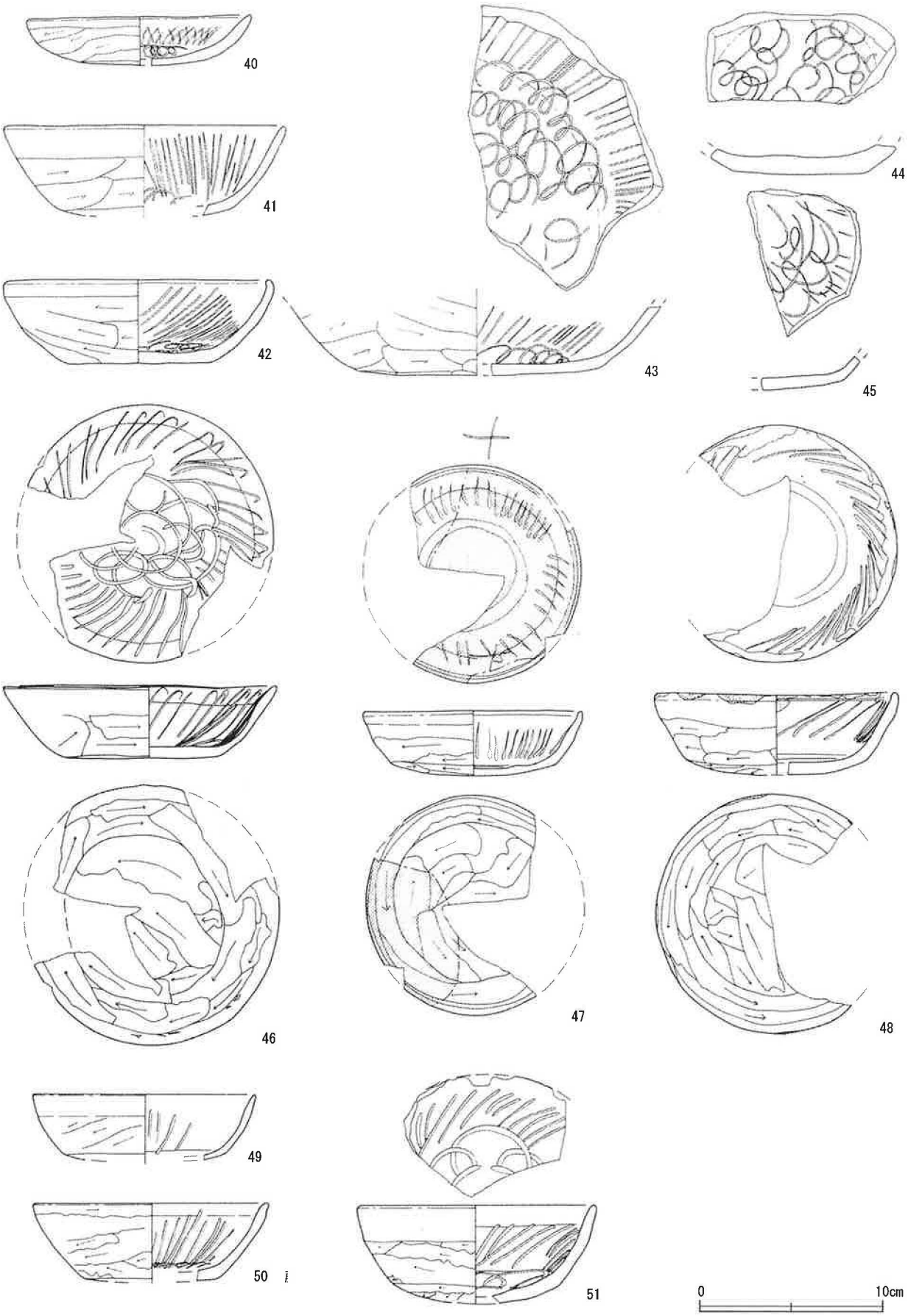


螺旋状暗紋を有する坏形土器

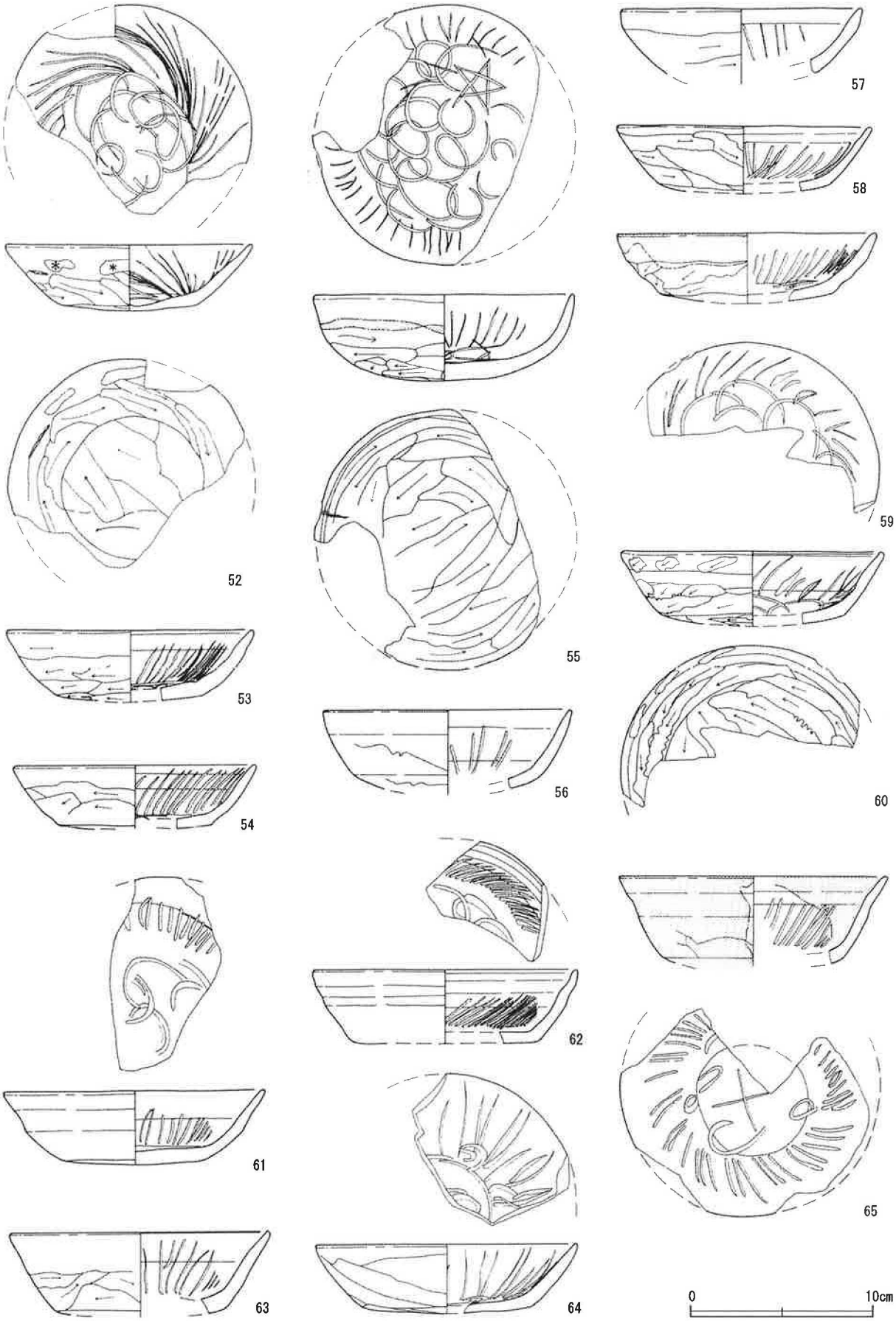
螺旋状暗紋を有する坏形土器



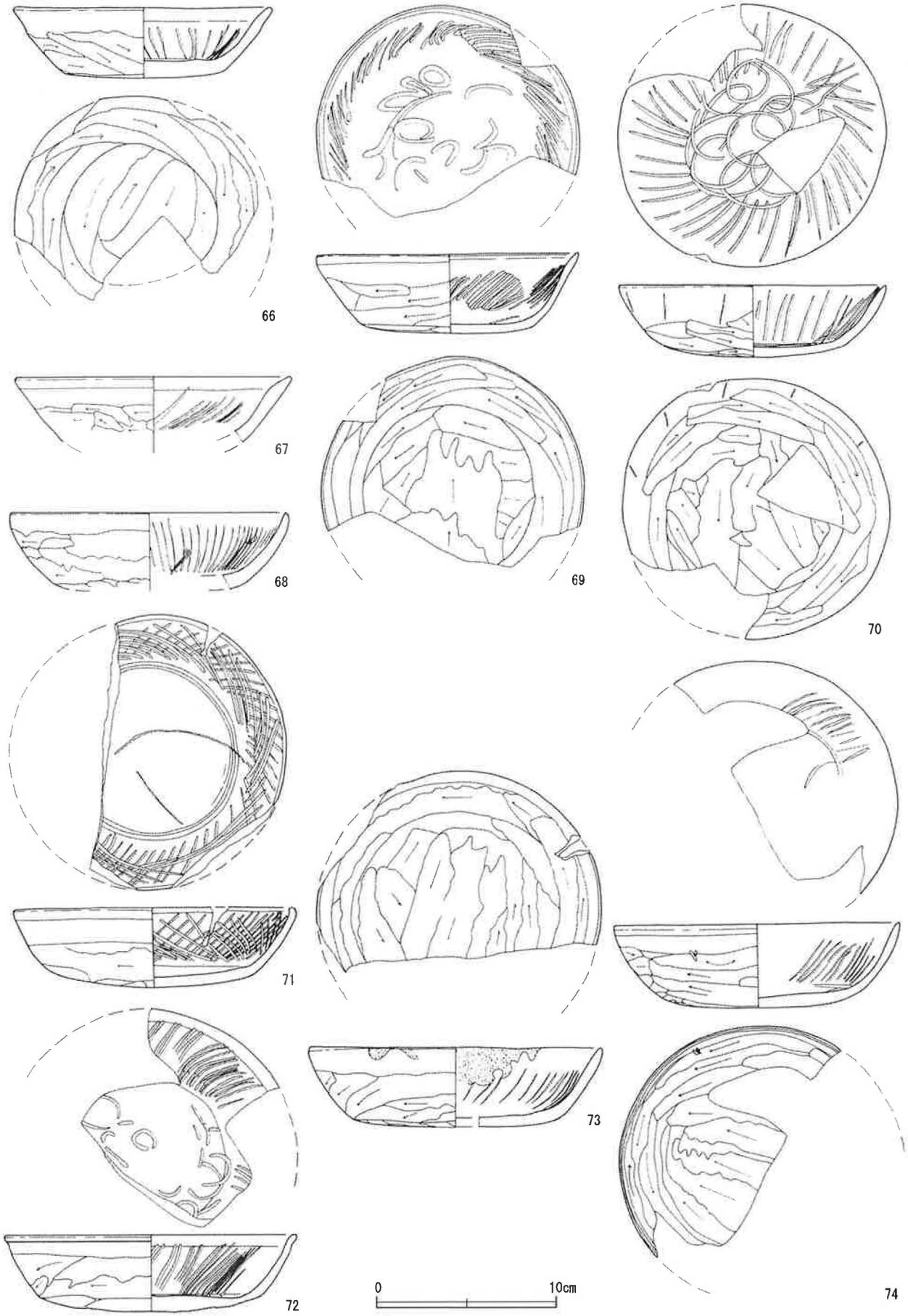
螺旋状暗紋を有する坏形土器



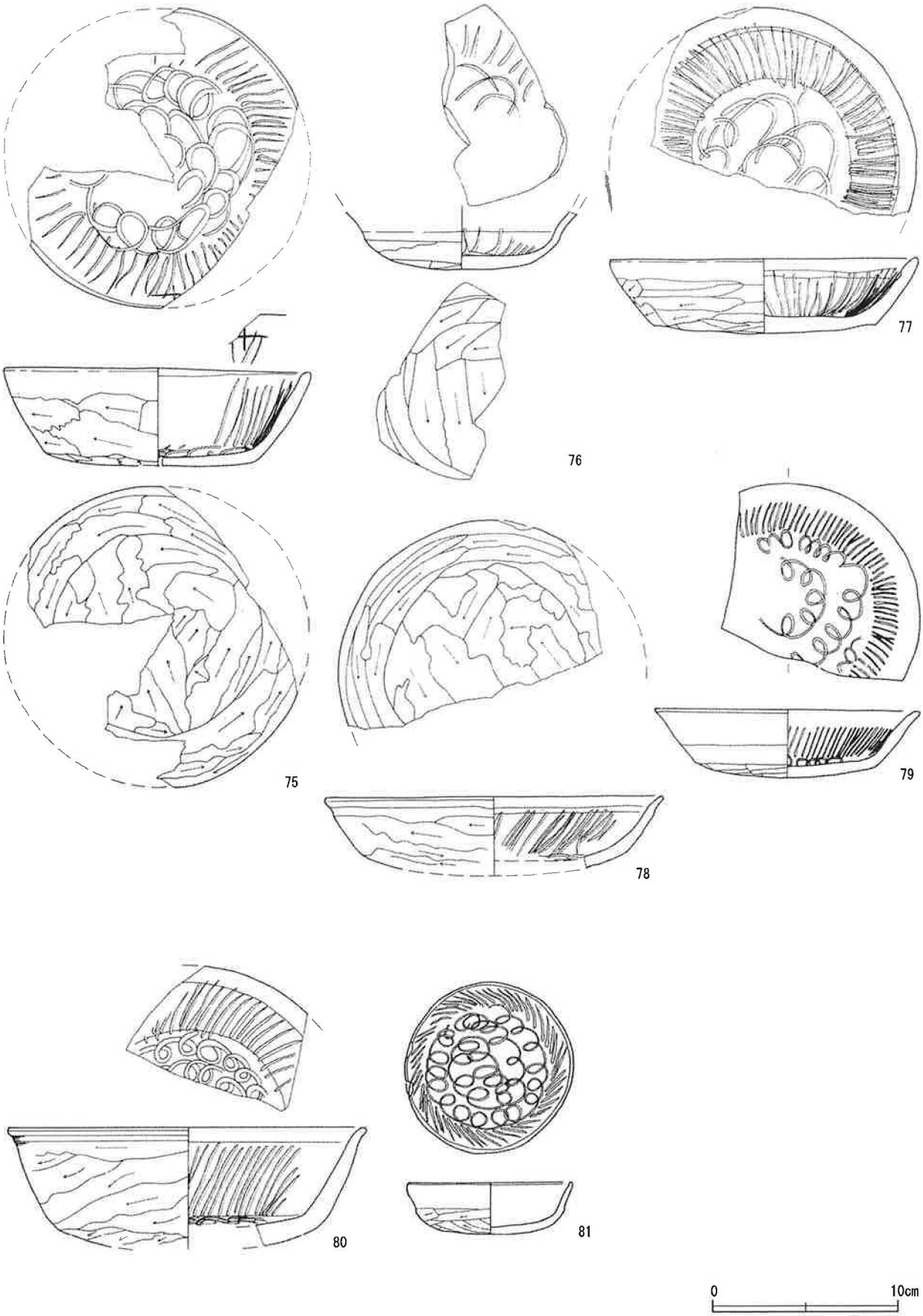
螺旋状暗紋を有する坏形土器



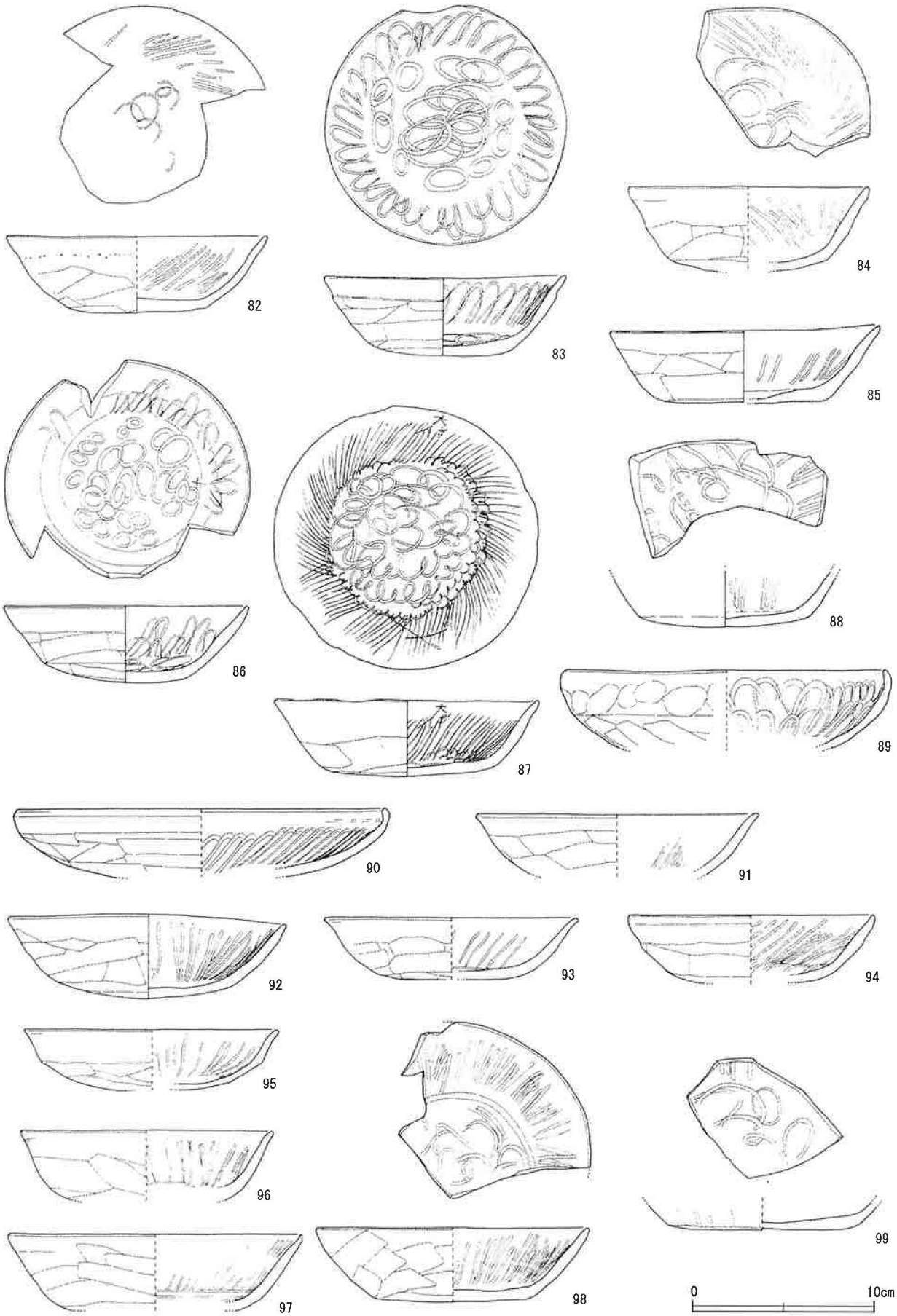
螺旋状暗紋を有する坏形土器



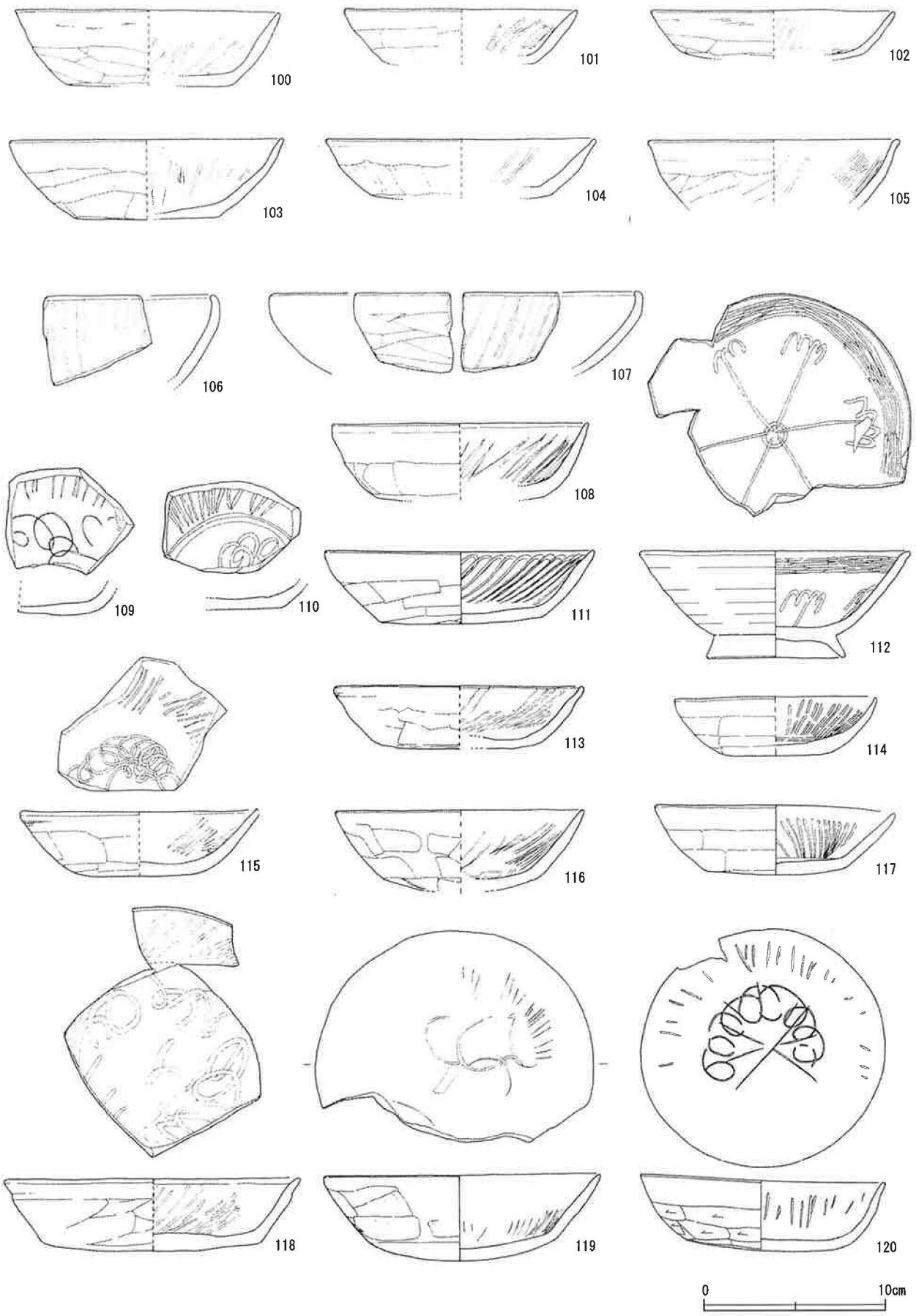
螺旋状暗紋を有する坏形土器



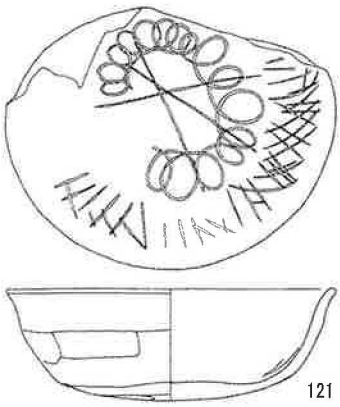
螺旋状暗紋を有する坏形土器

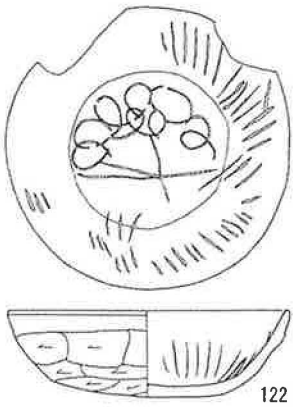


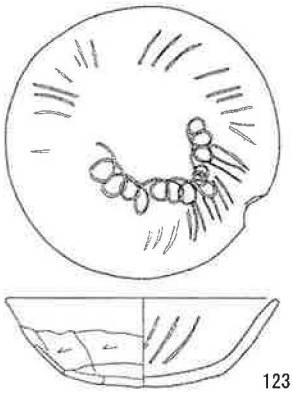
螺旋状暗紋を有する坏形土器

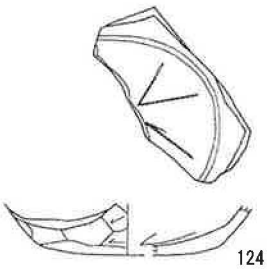


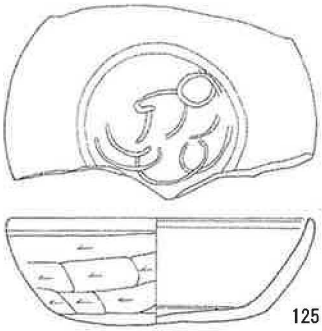
螺旋状暗紋を有する坏形土器

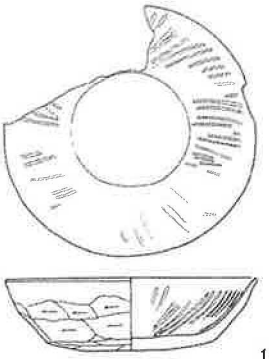

121

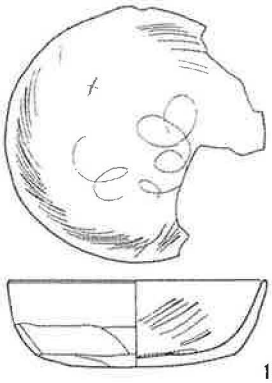

122

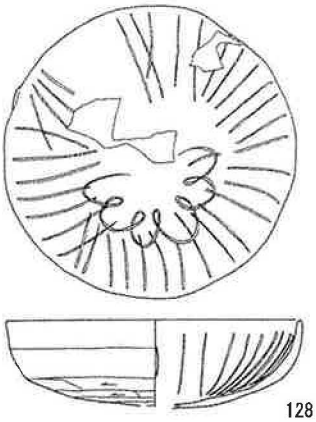

123

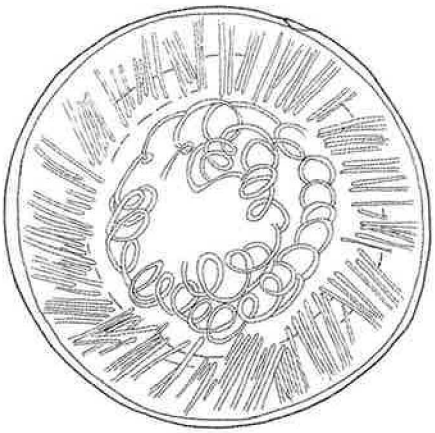

124

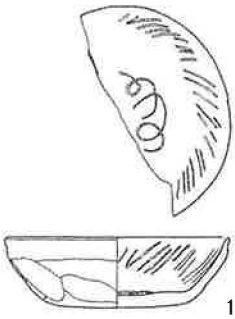

125

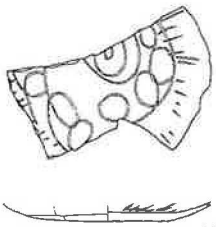

126


127

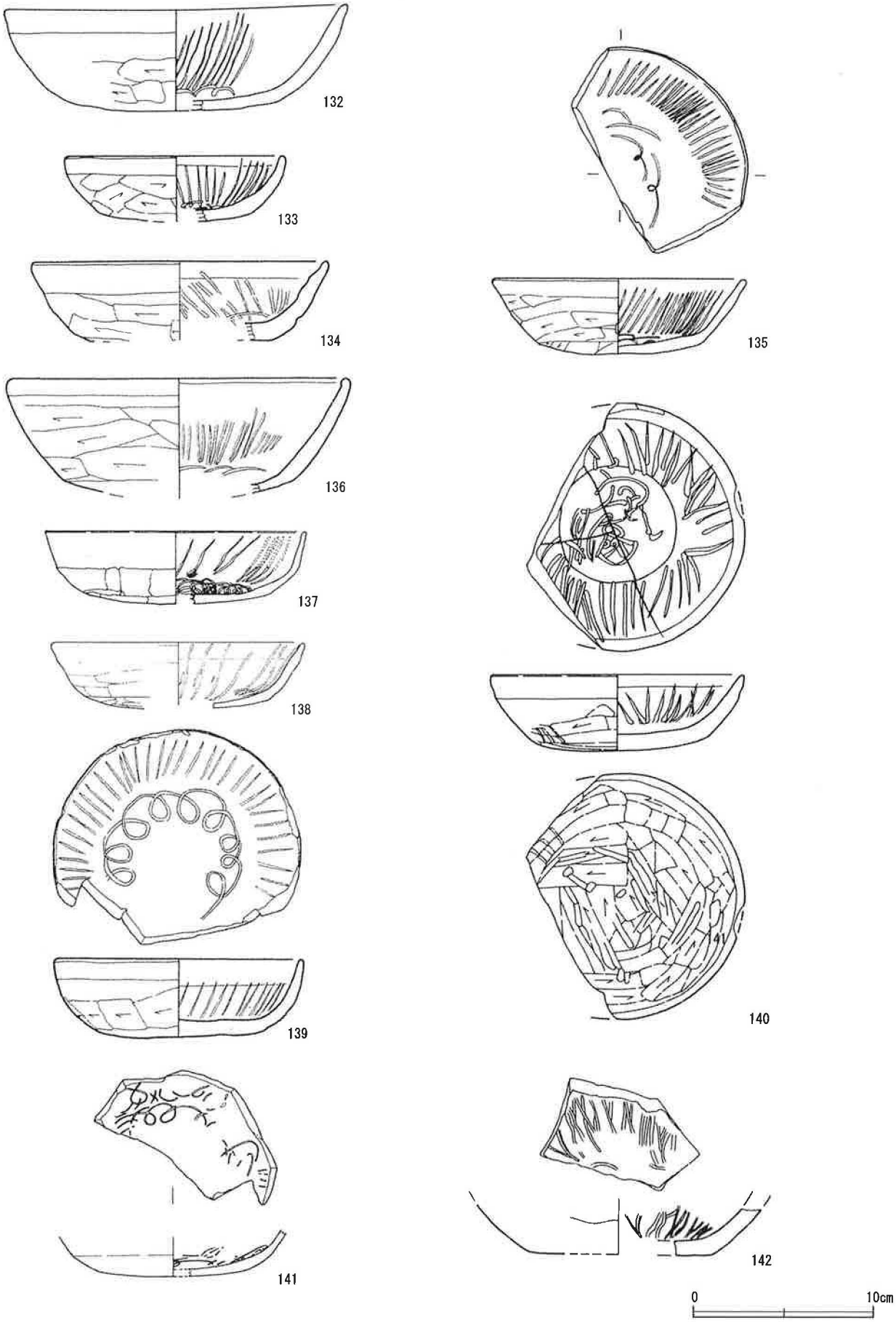

128


131


129

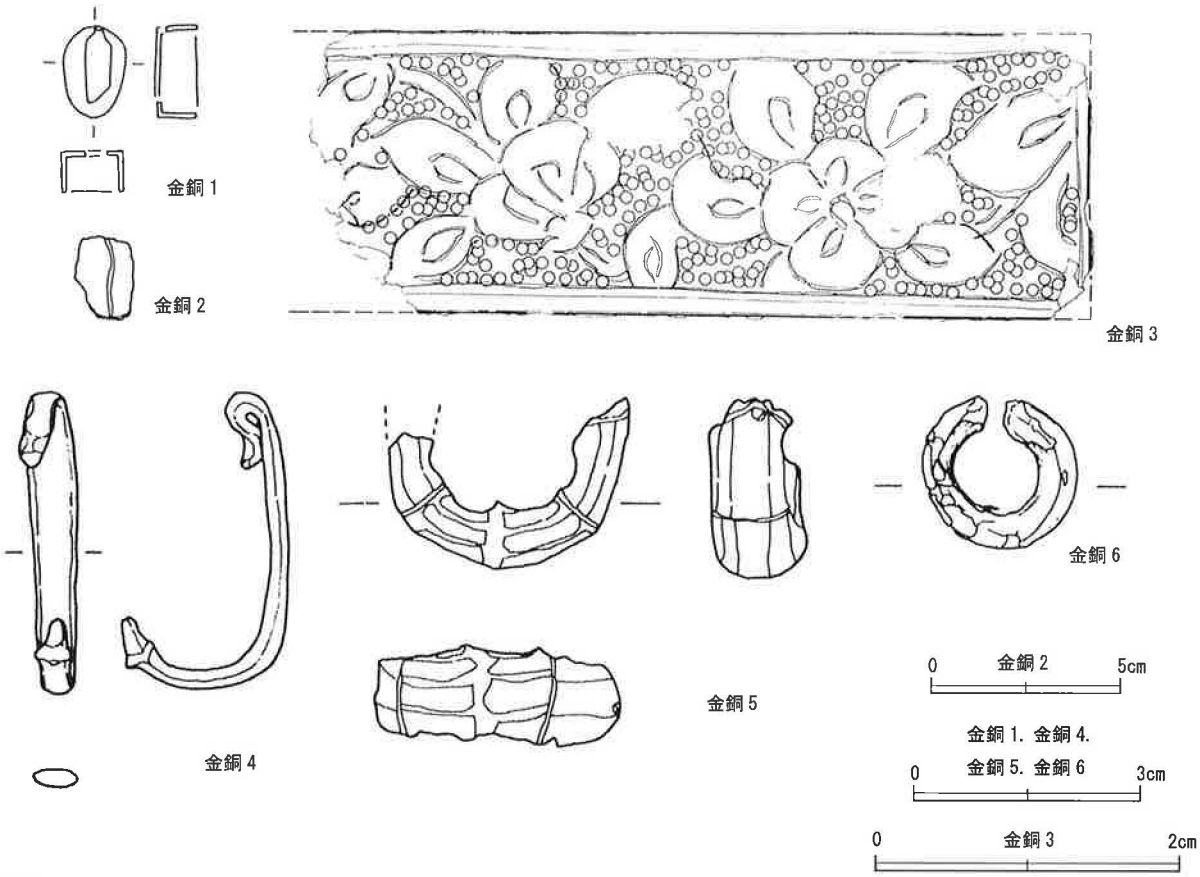

130

螺旋状暗紋を有する坏形土器

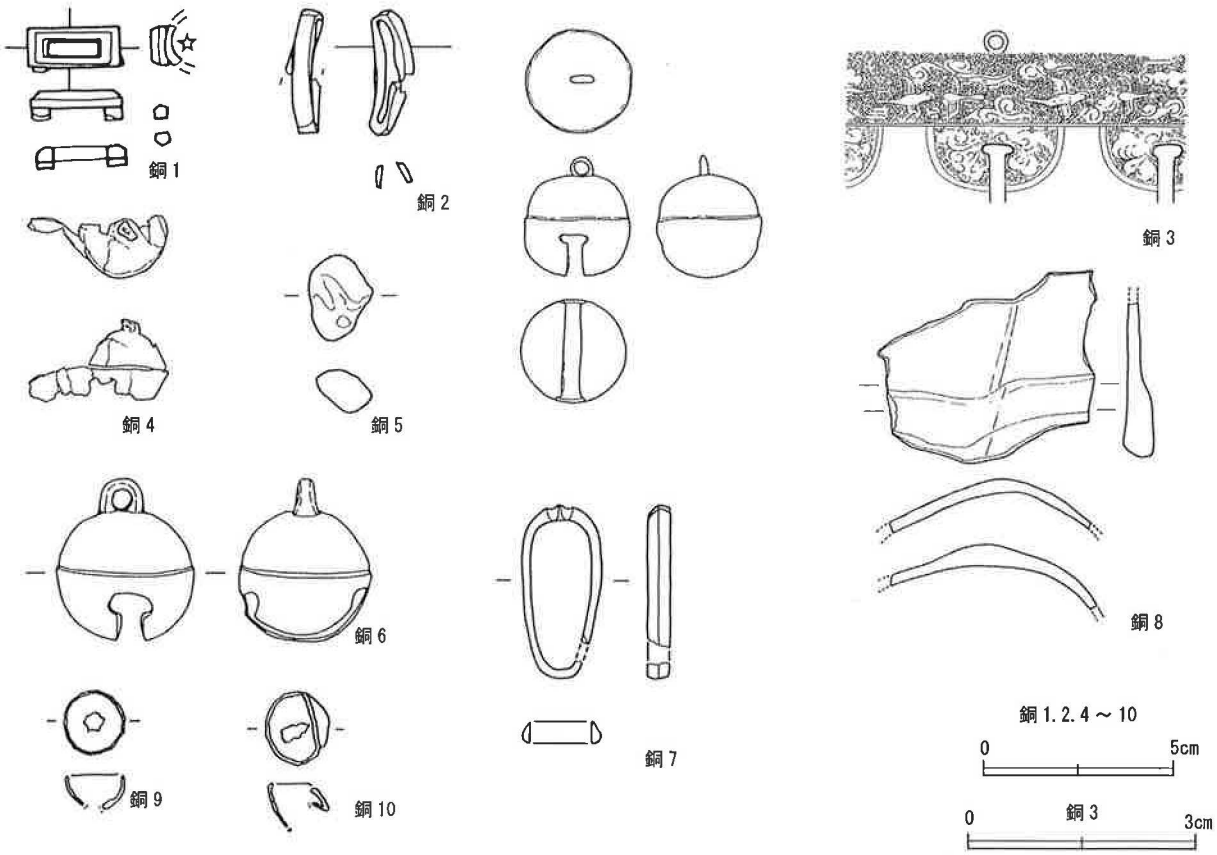


金属製品

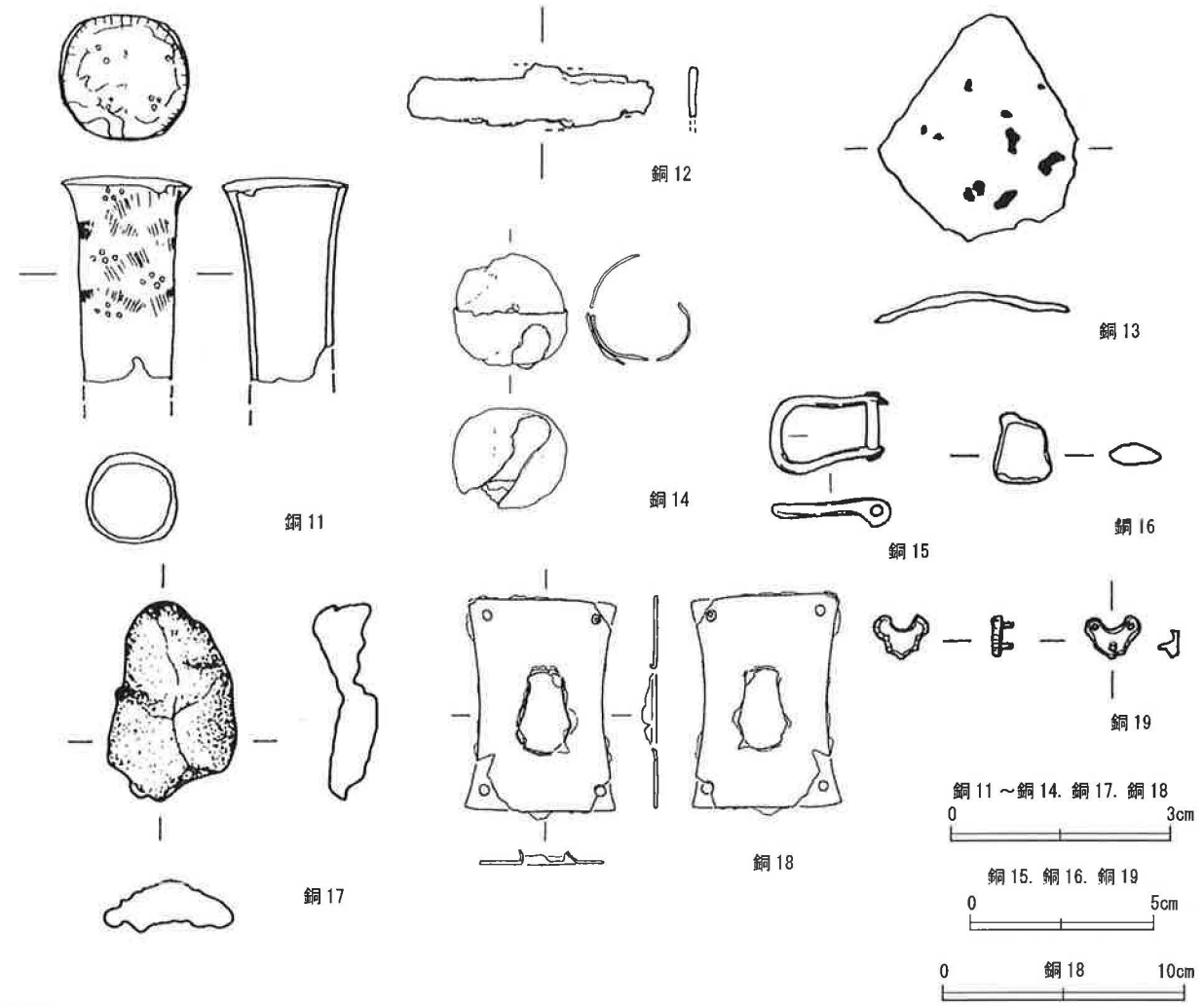
金銅製品



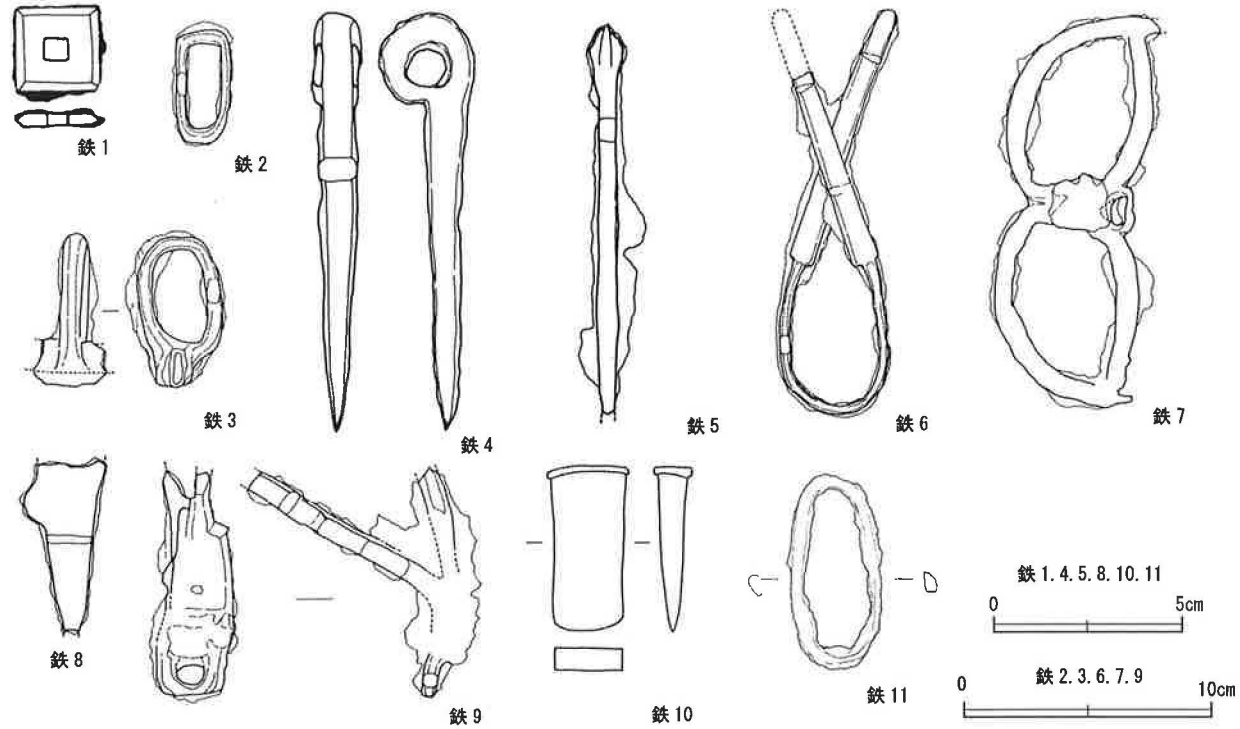
銅製品



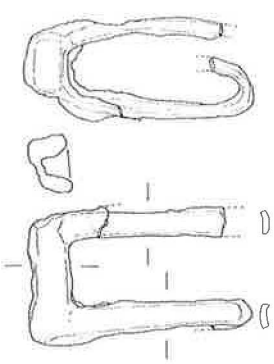
金属製品


銅 11
銅 12
銅 13
銅 14
銅 15
銅 16
銅 17
銅 18
銅 19
銅 11 ～銅 14. 銅 17. 銅 18
0
3cm
銅 15. 銅 16. 銅 19
0
5cm
0
銅 18
10cm

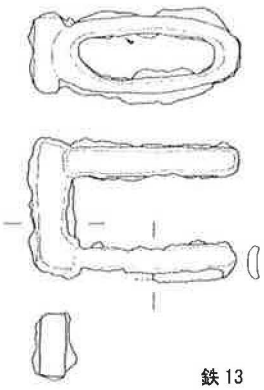
鉄製品


鉄 1
鉄 2
鉄 3
鉄 4
鉄 5
鉄 6
鉄 7
鉄 8
鉄 9
鉄 10
鉄 11
鉄 1. 4. 5. 8. 10. 11
0
5cm
鉄 2. 3. 6. 7. 9
0
10cm

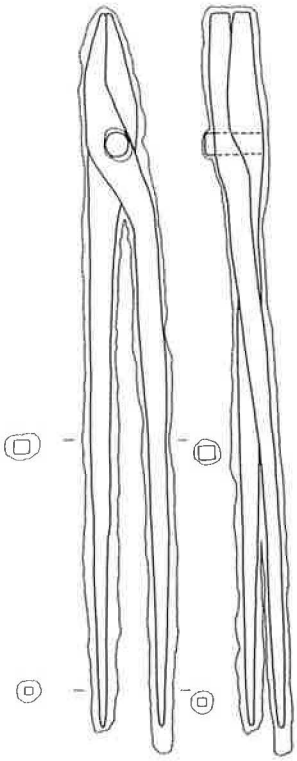
金属製品



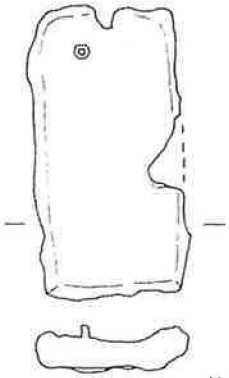
鉄 12



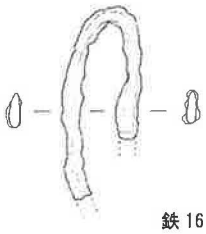
鉄 13



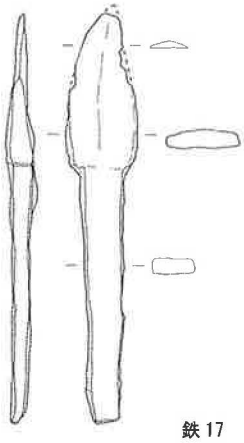
鉄 14



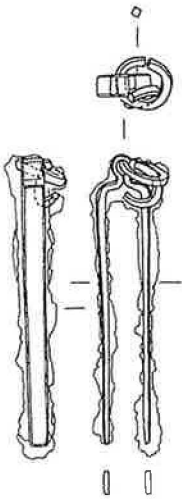
鉄 15



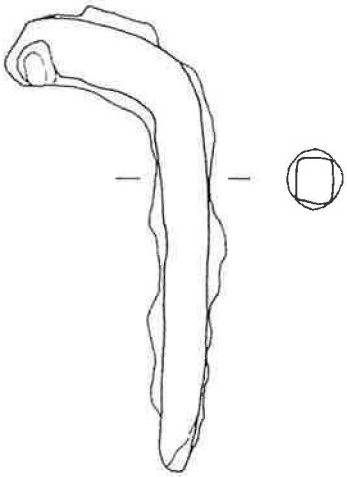
鉄 16



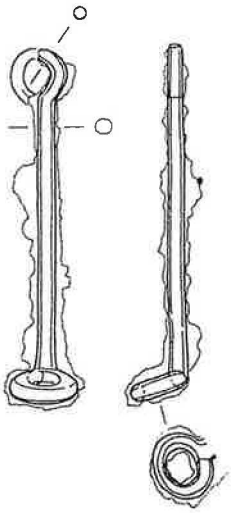
鉄 17



鉄 18

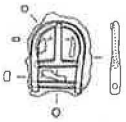


鉄 19

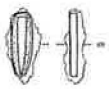


鉄 20

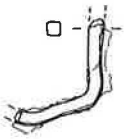
鉄 21



鉄 22

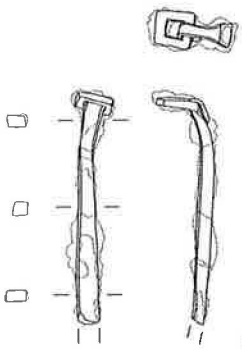


鉄 23

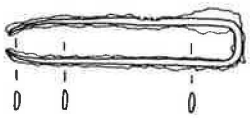


鉄 24

鉄 25



鉄 26



鉄 27

鉄 28

鉄 15

0 3cm

鉄 12. 13. 16. 17

0 5cm

鉄 14. 18. 20. 25. 27. 28

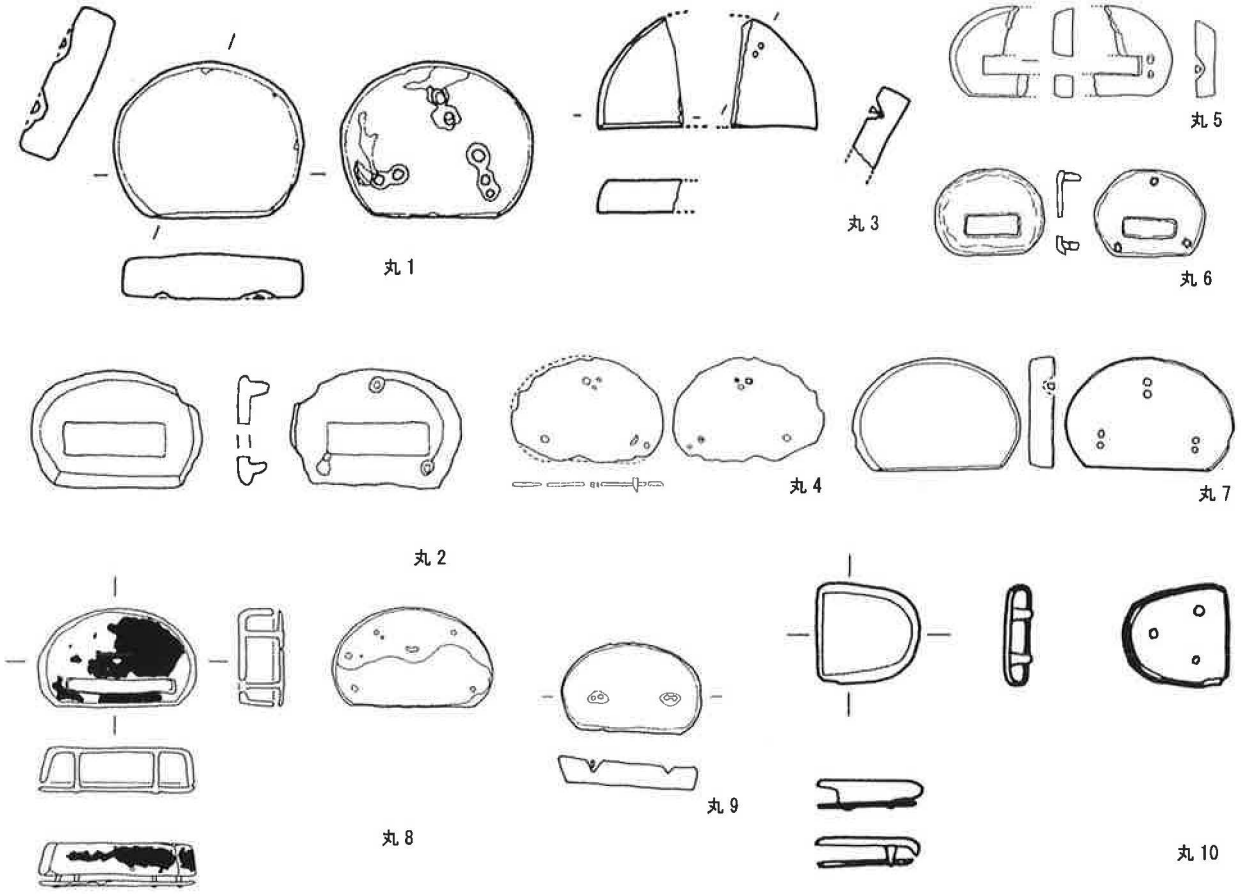
0 10cm

鉄 22. 23. 24

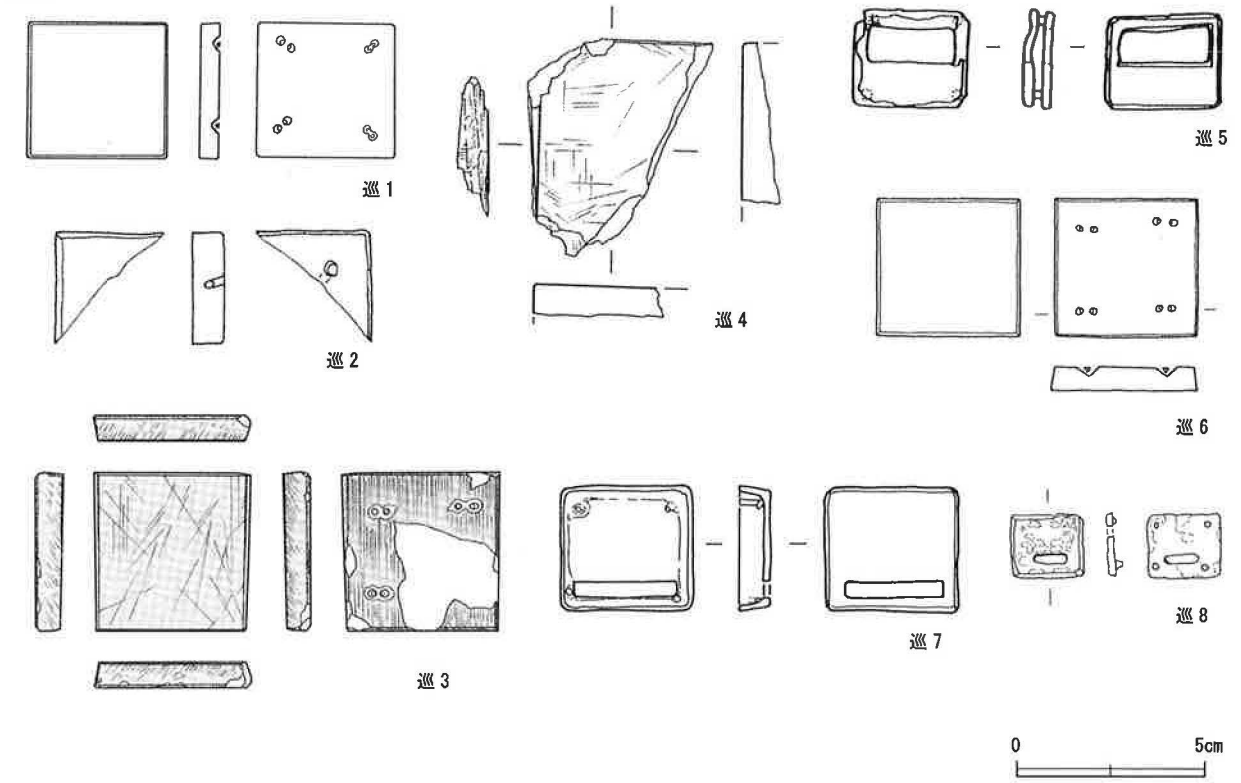
0 10cm

腰帯具（石・金属）

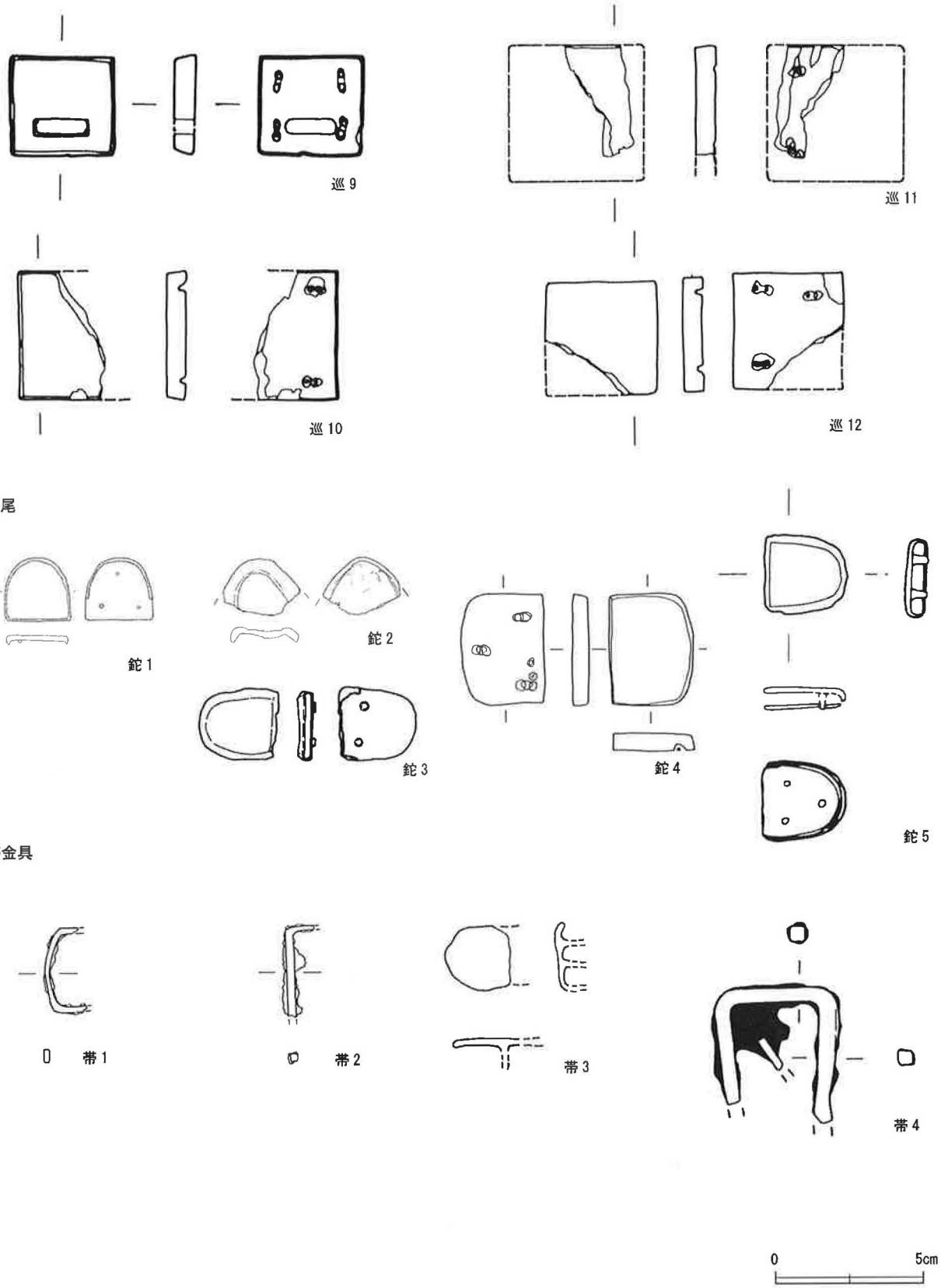
丸鞆



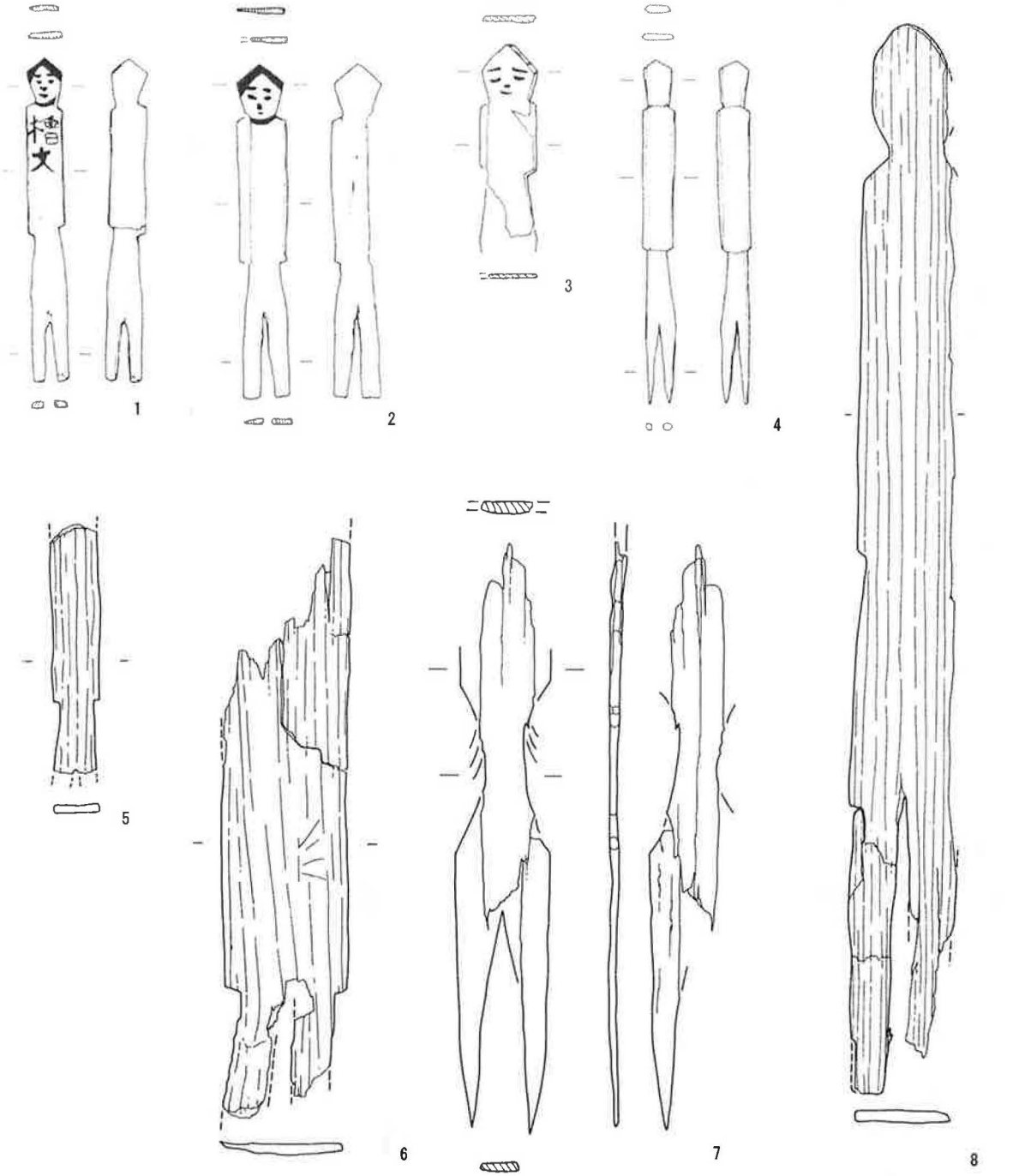
巡方

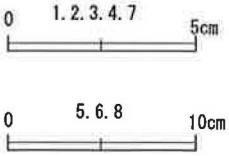


腰帯具（石・金属）

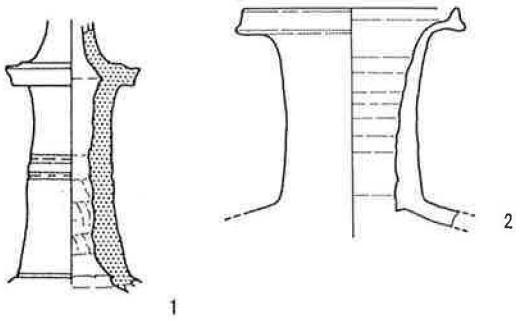


人形

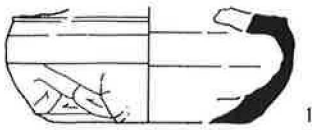




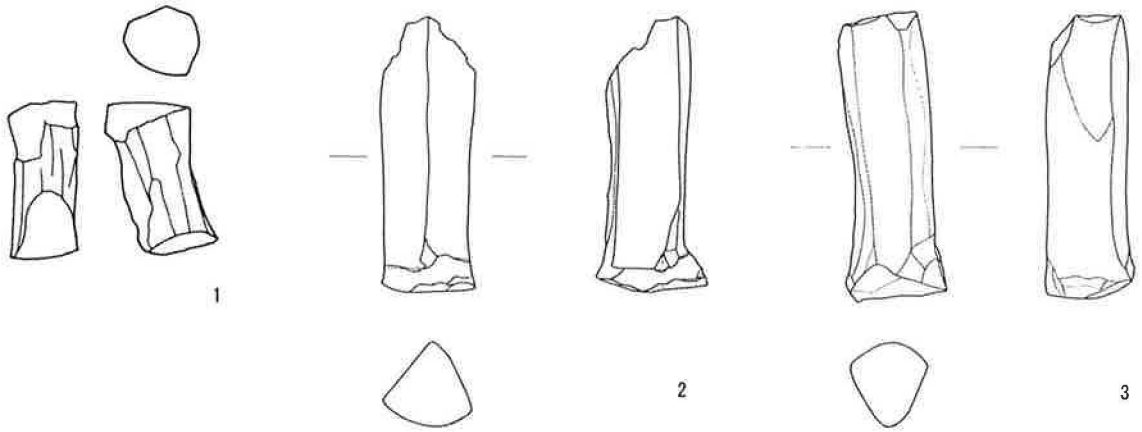
水瓶



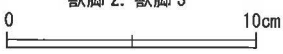
水注



獣脚

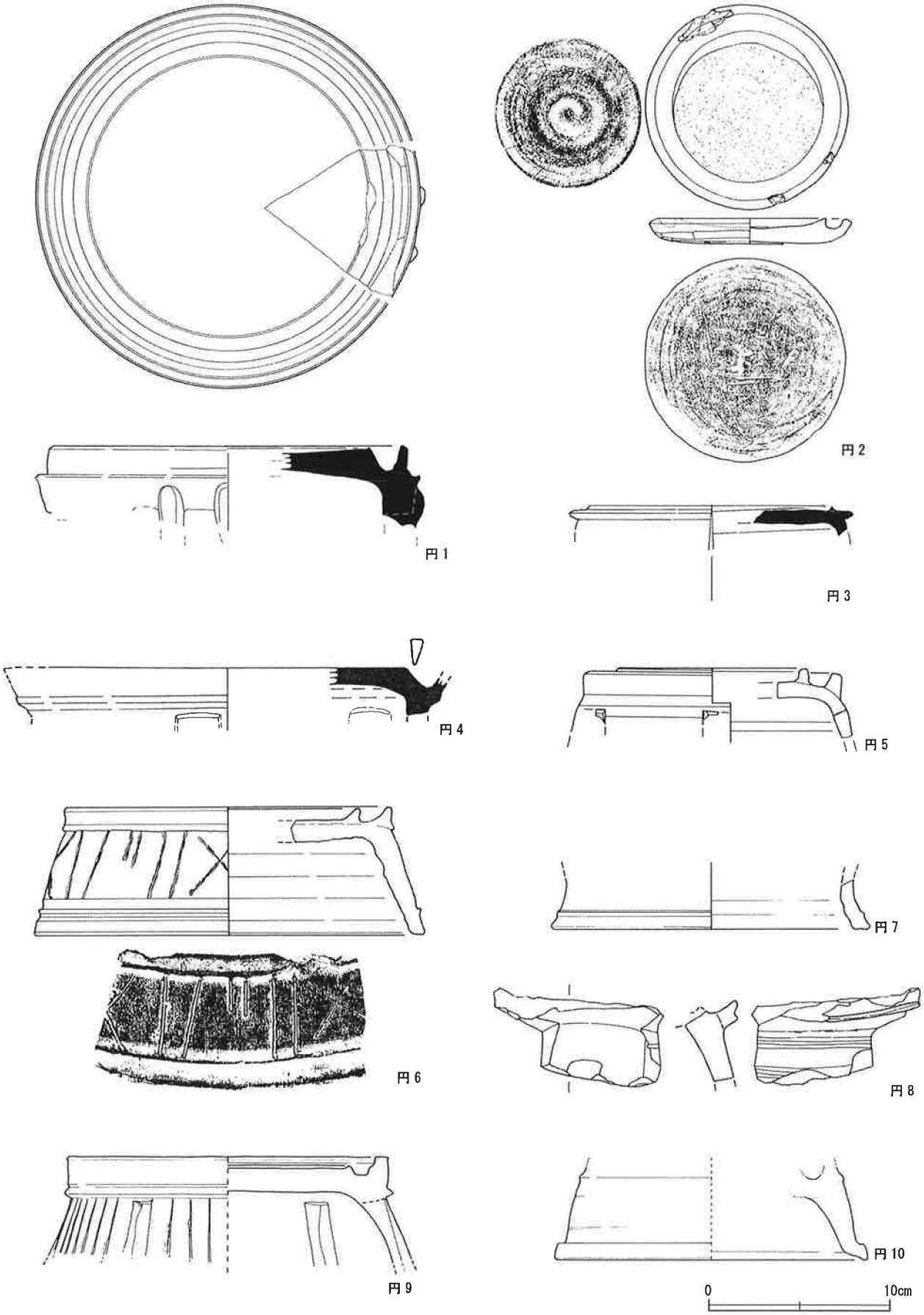


水瓶 1. 水瓶 2. 水注 1
獣脚 2. 獣脚 3

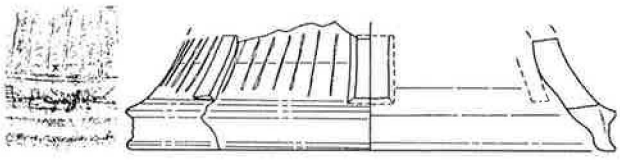


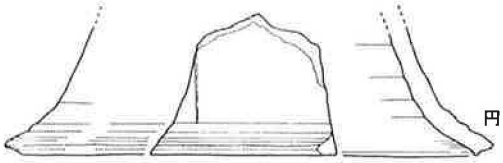
硯

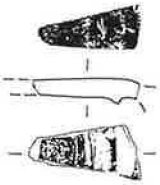
円面硯

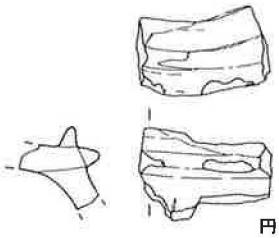


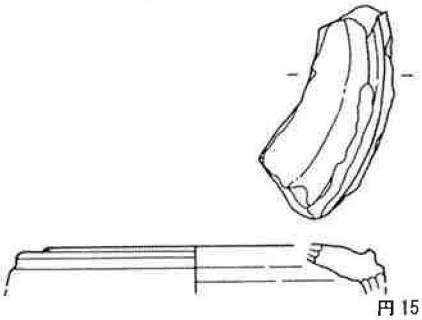
硯

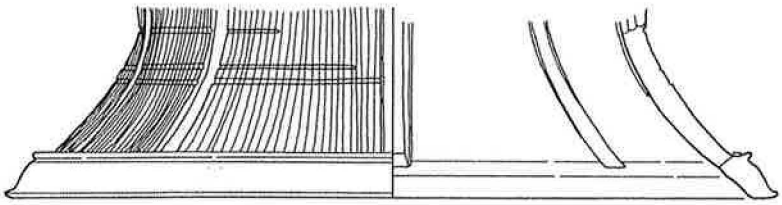

円 11

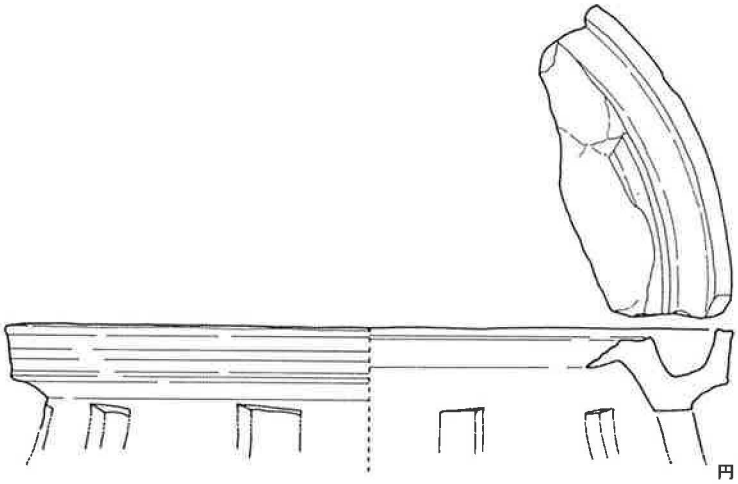

円 12

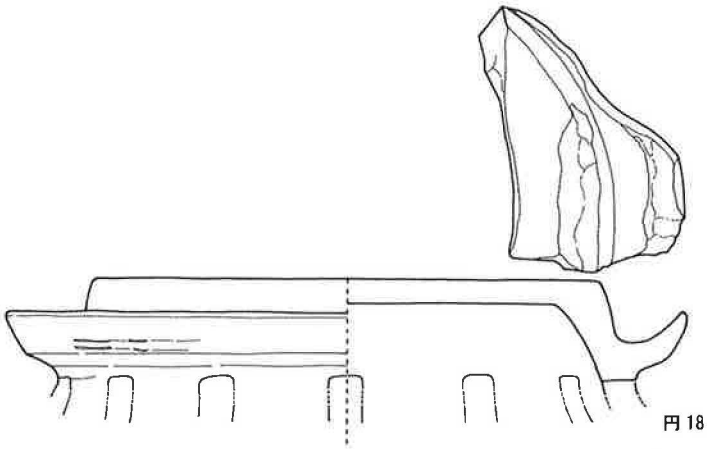

円 13


円 14


円 15

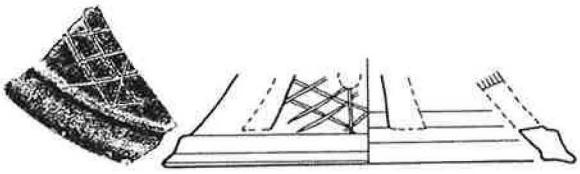

円 16


円 17

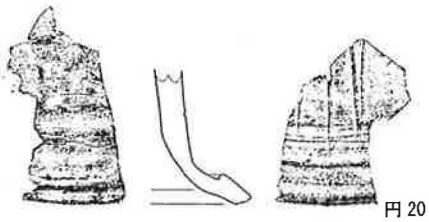

円 18

0 10cm

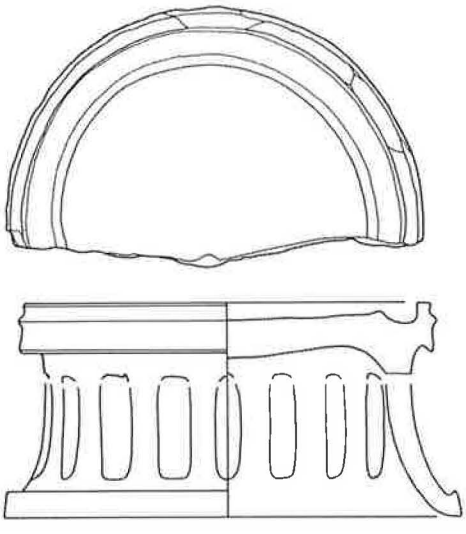
硯



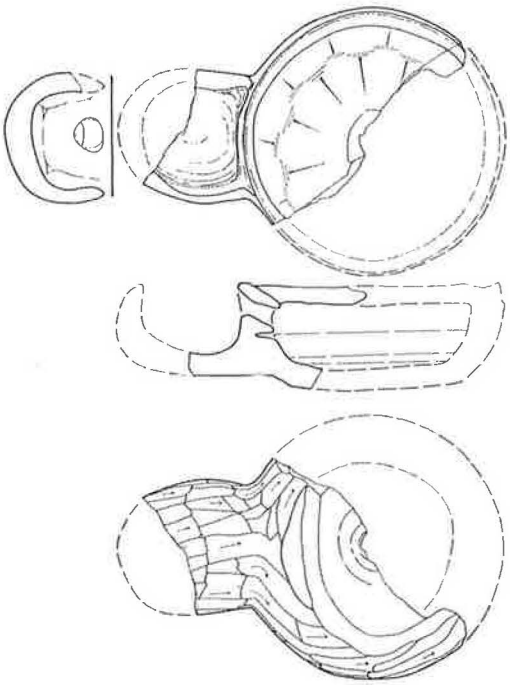
円19



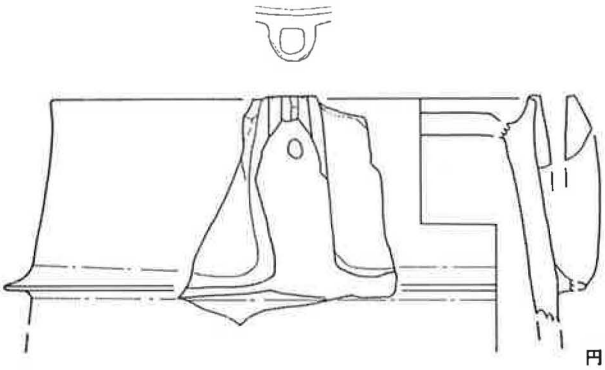
円20



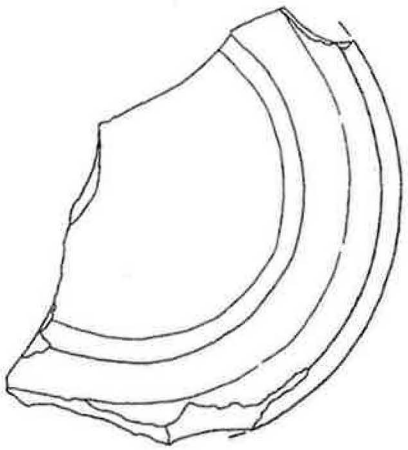
円21

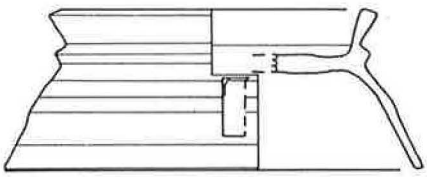


円25



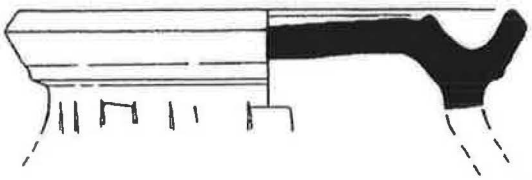
円22





円23

円24

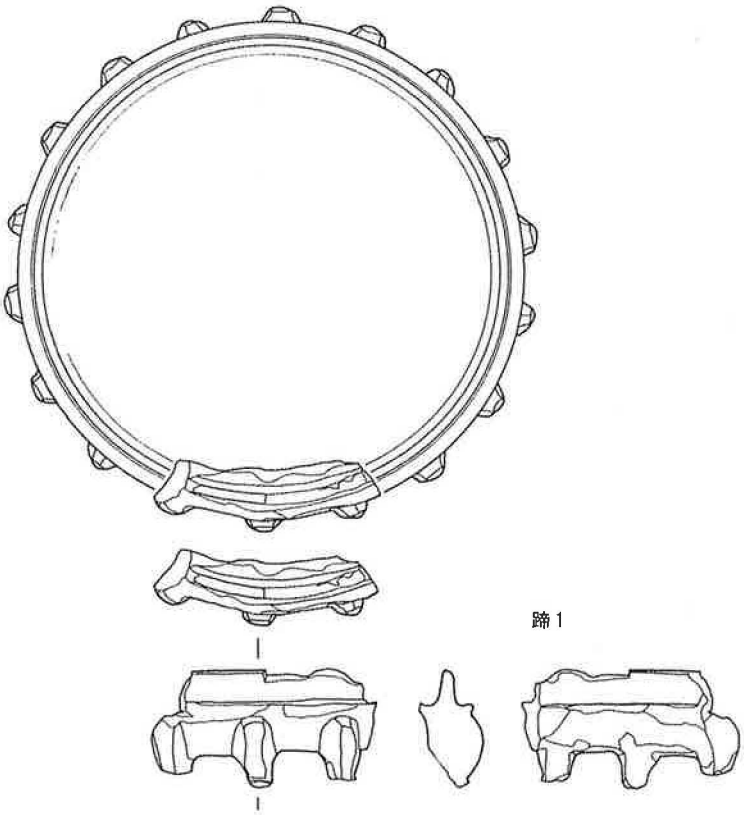


円26

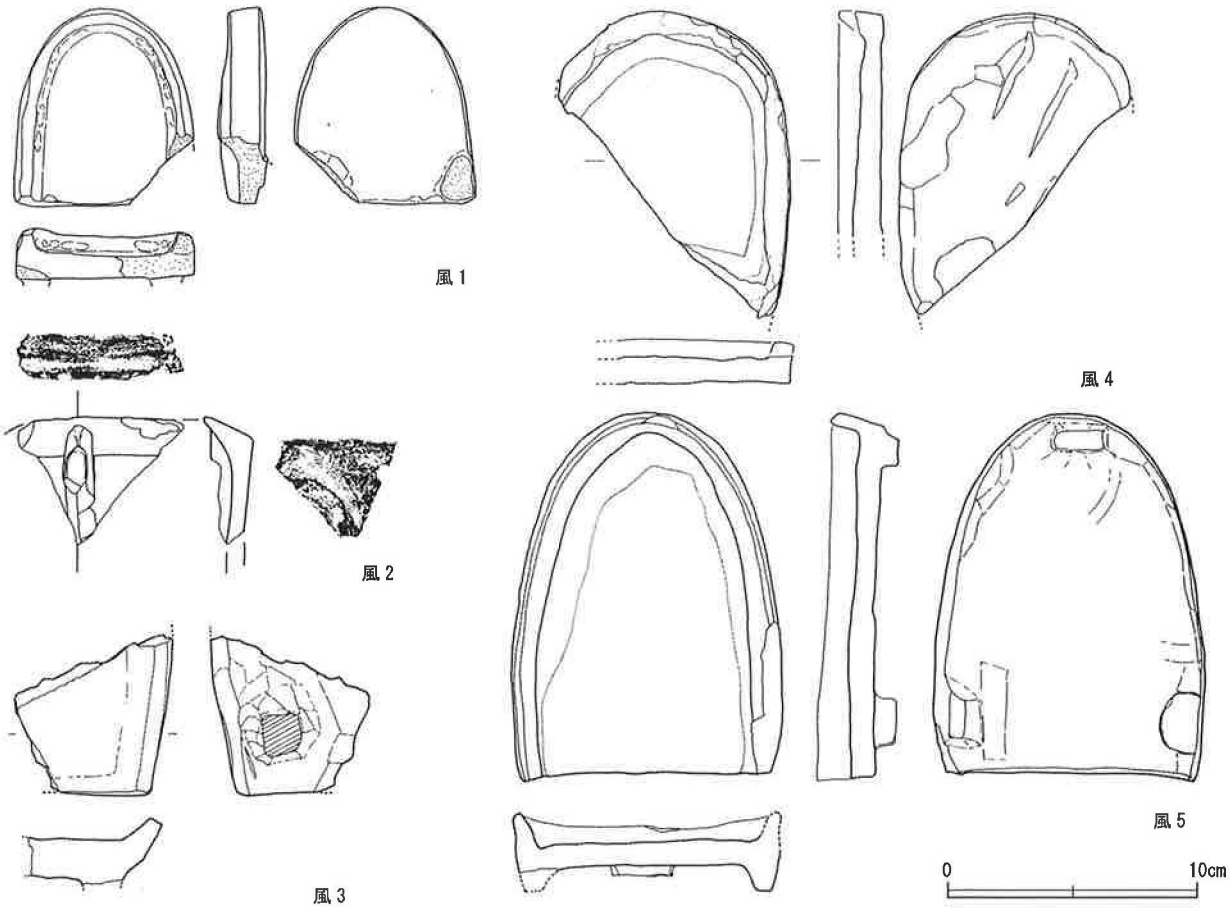
0 10cm

硯

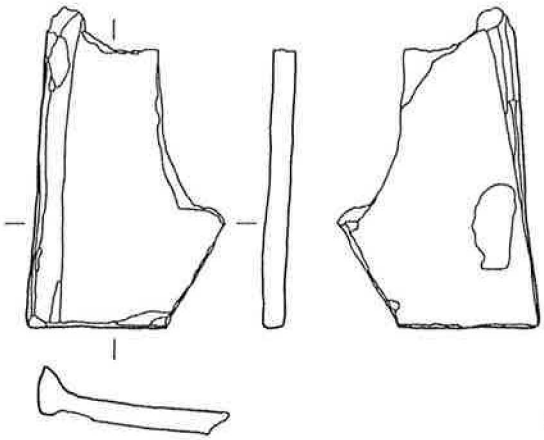
蹄脚硯



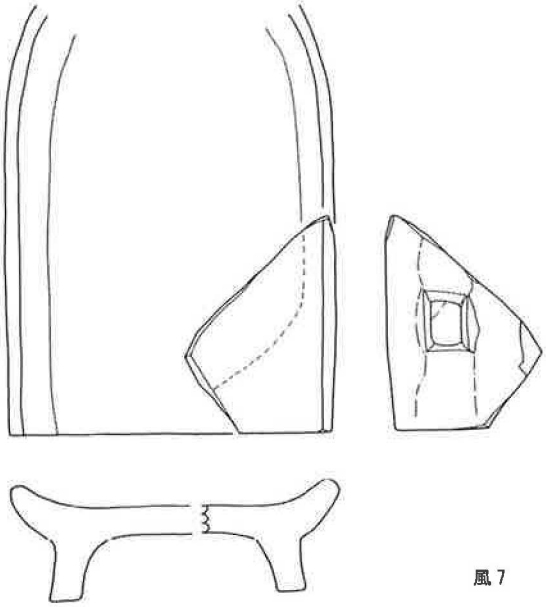
風字硯



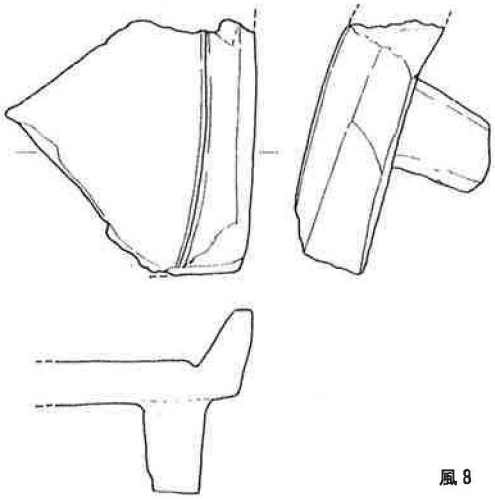
硯



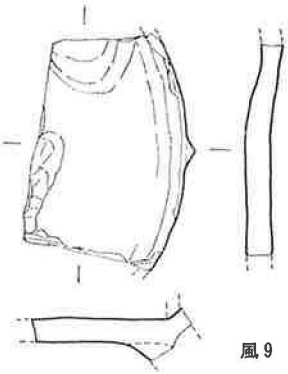
風 6



風 7

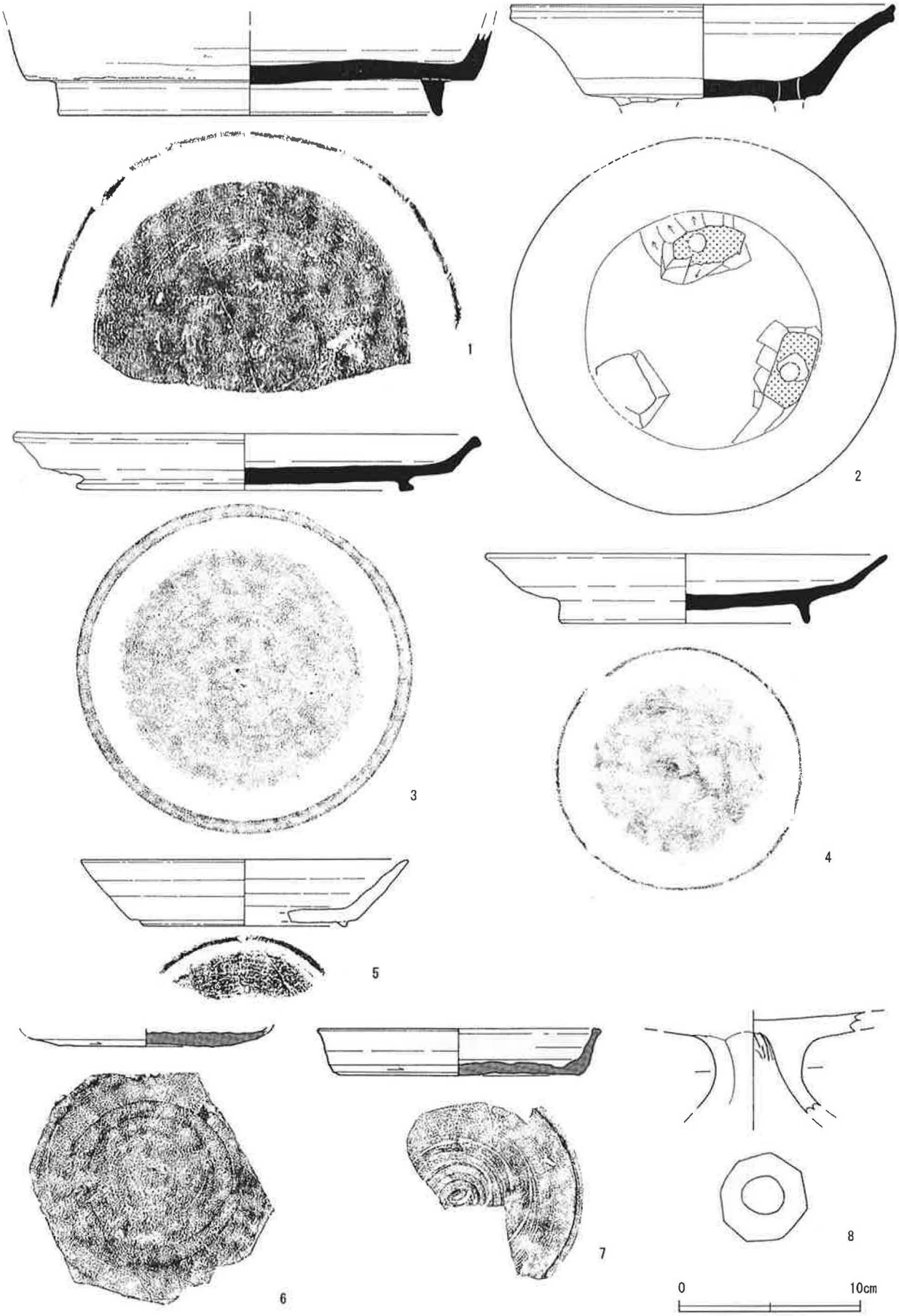


風 8

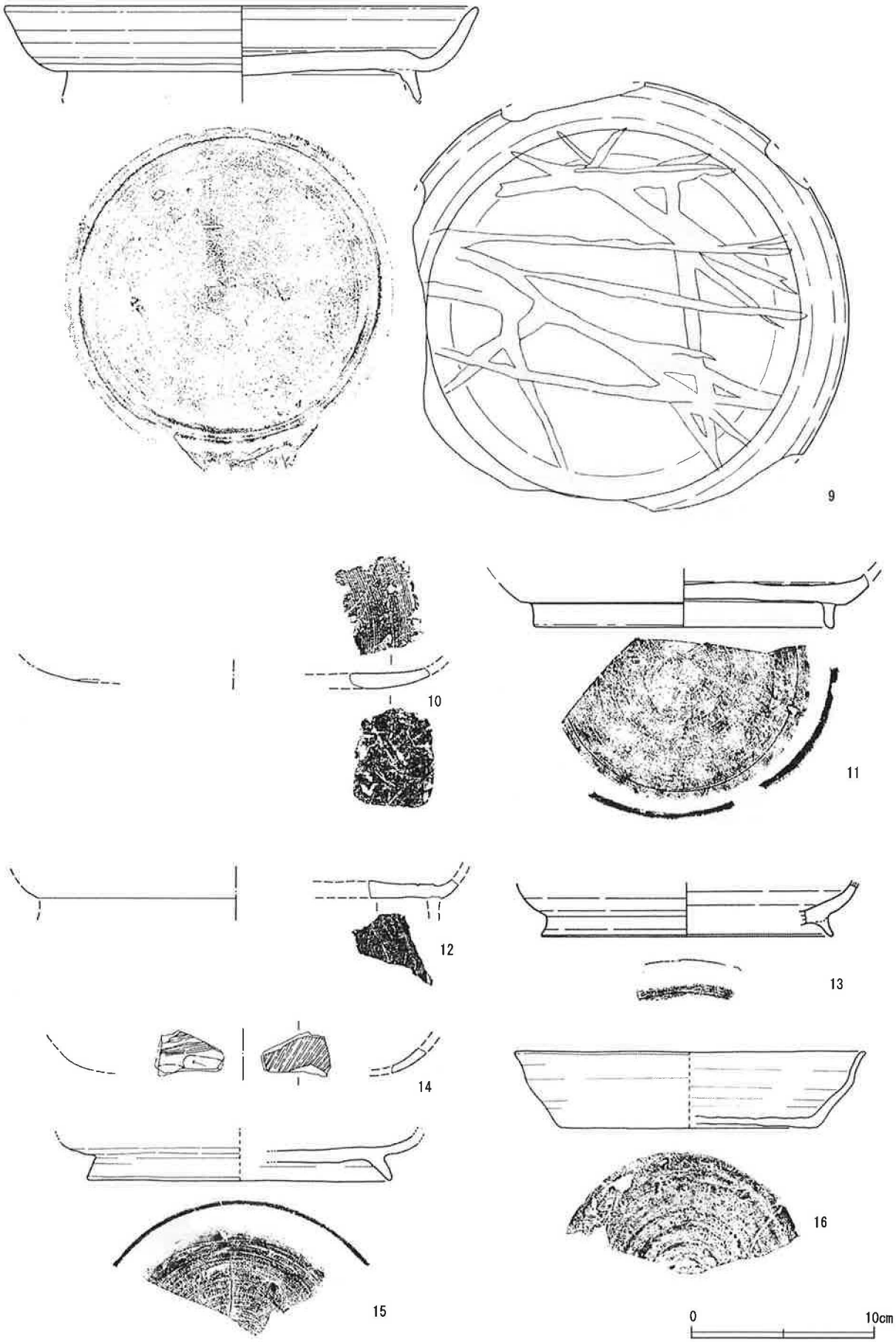


風 9

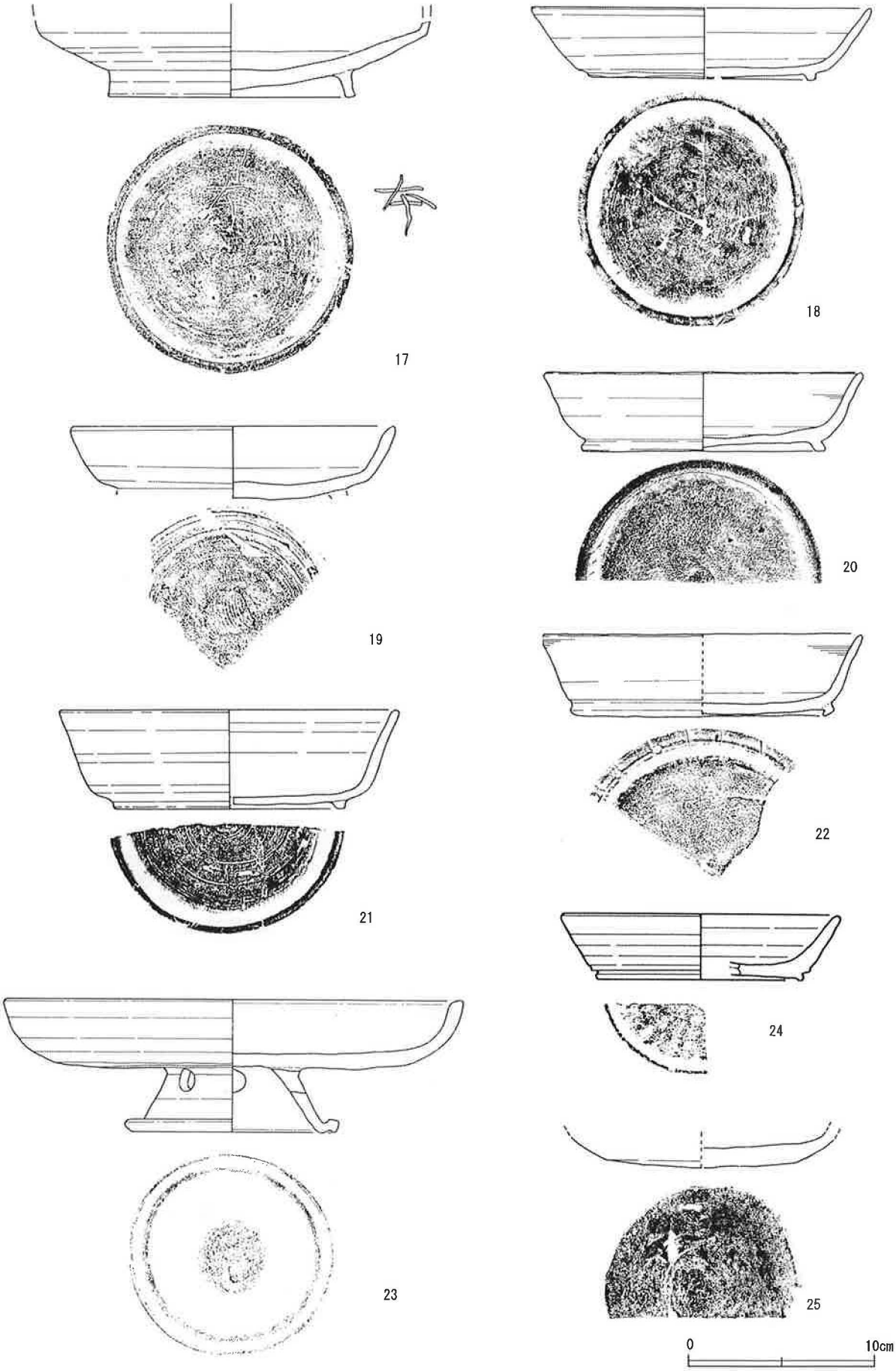
盤・高盤形土器



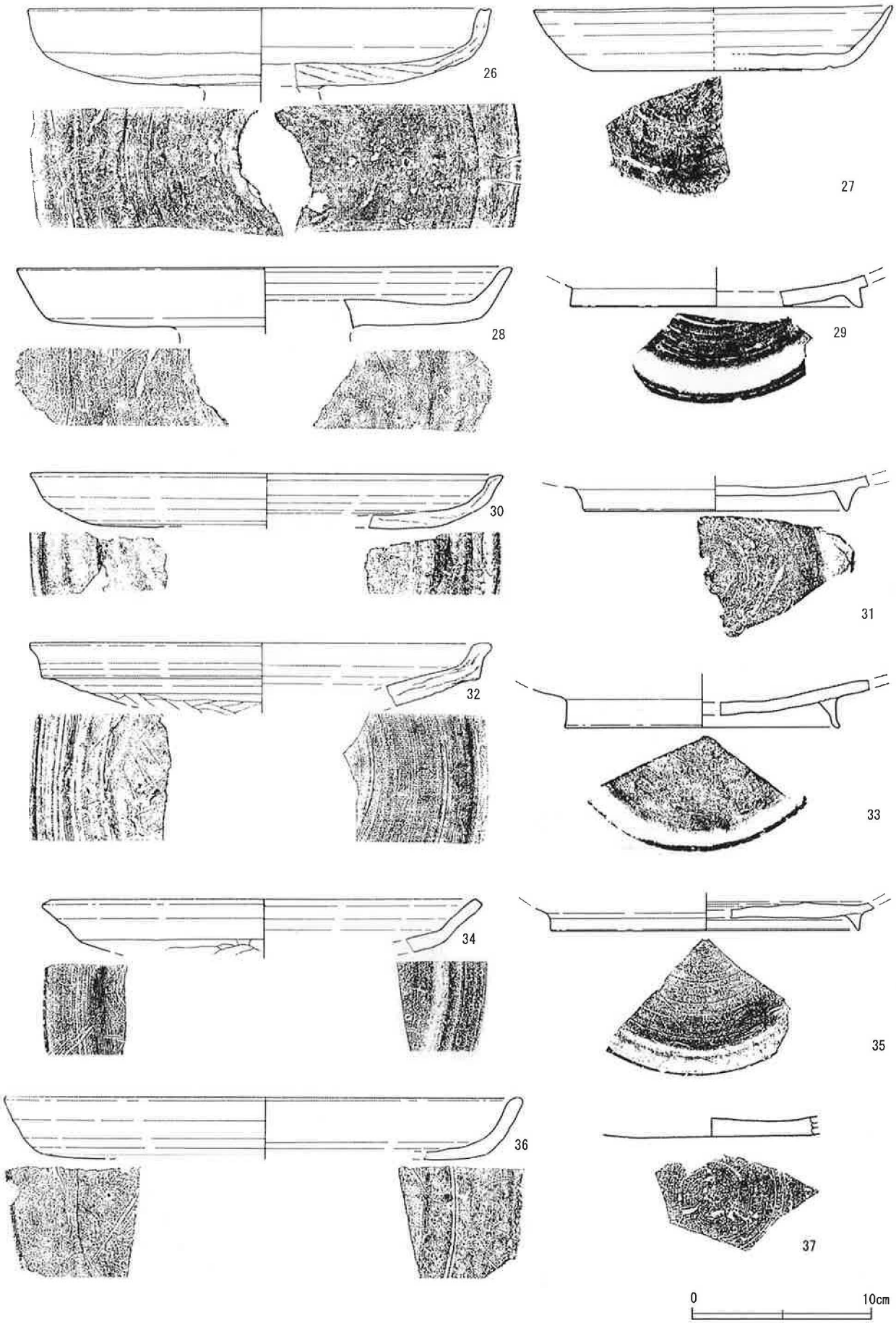
盤・高盤形土器



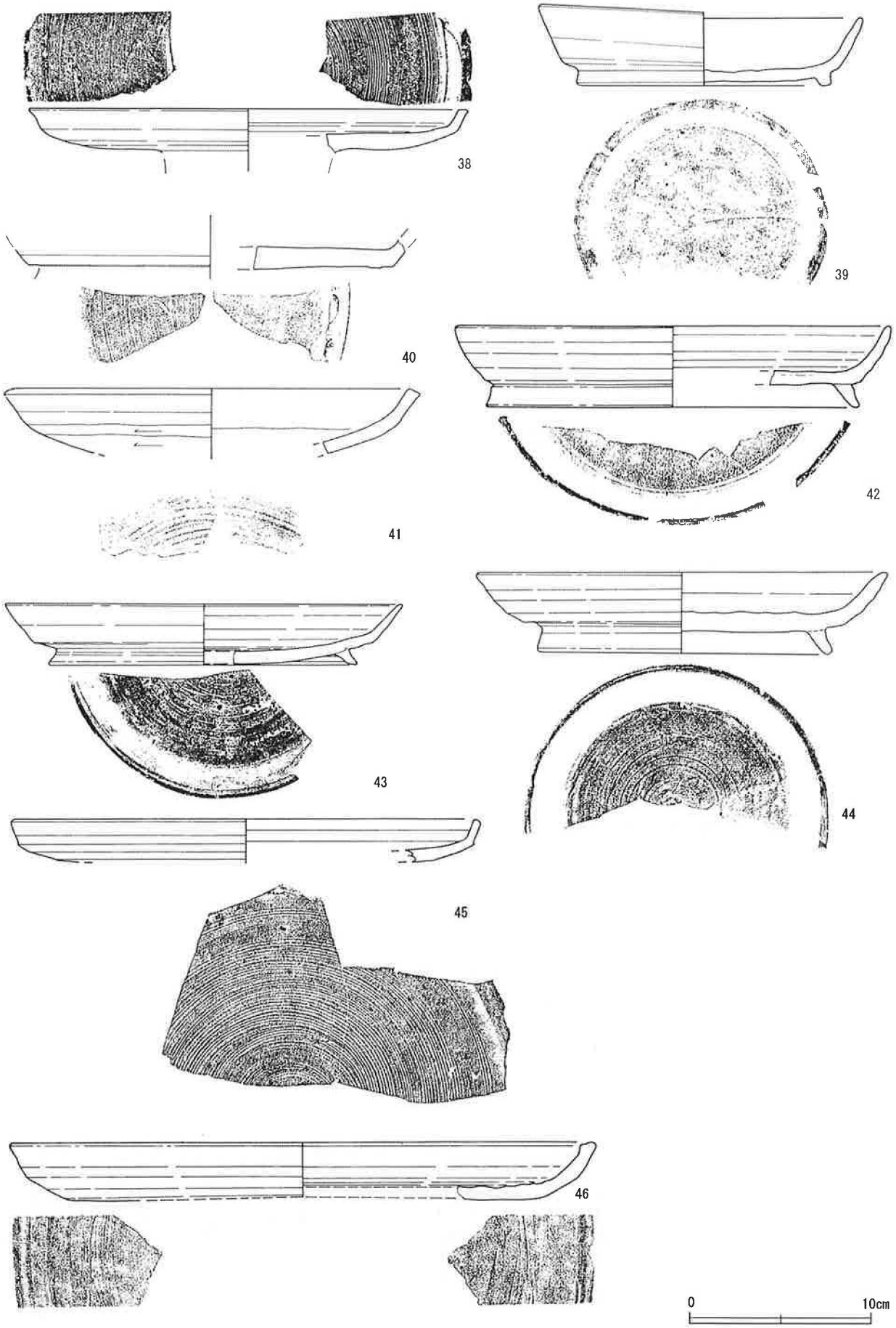
盤・高盤形土器



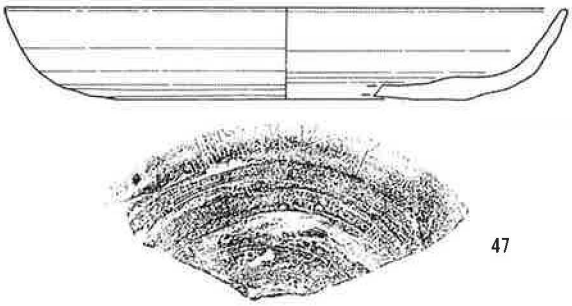
盤・高盤形土器

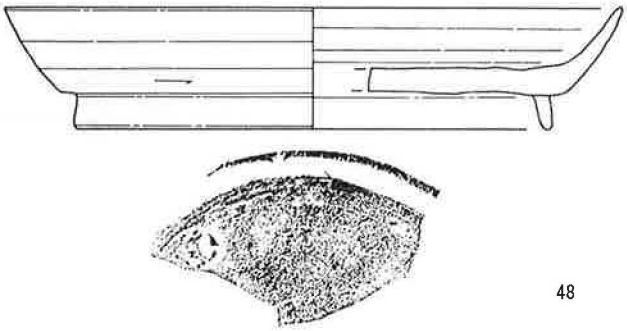


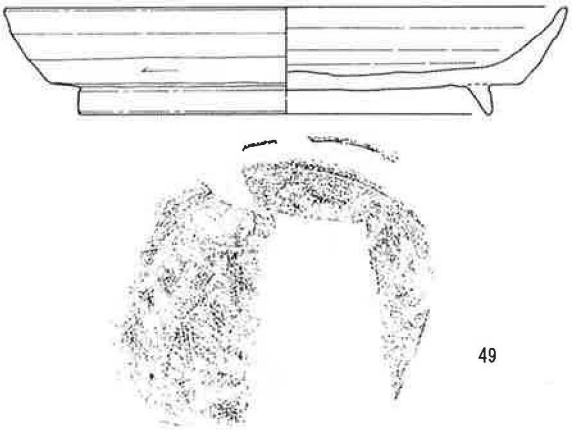
盤・高盤形土器

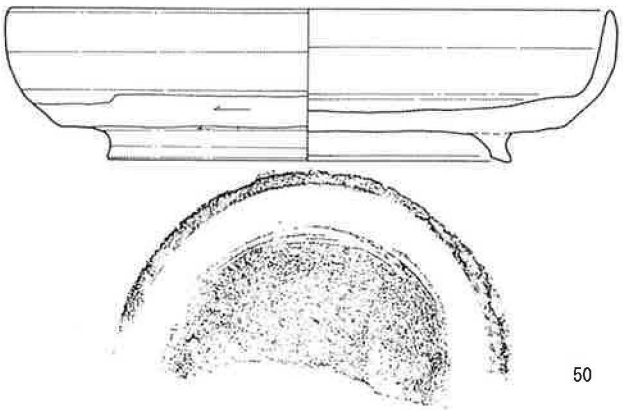


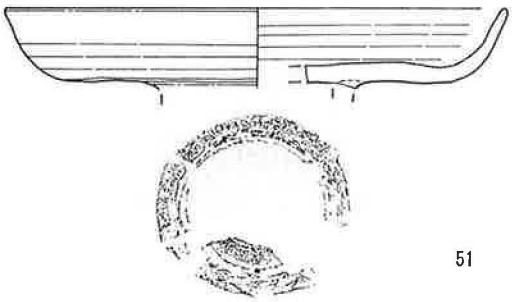
盤・高盤形土器

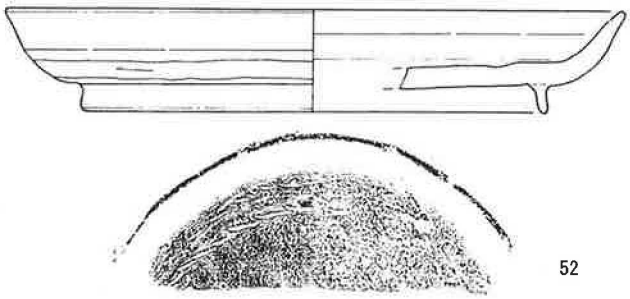

47

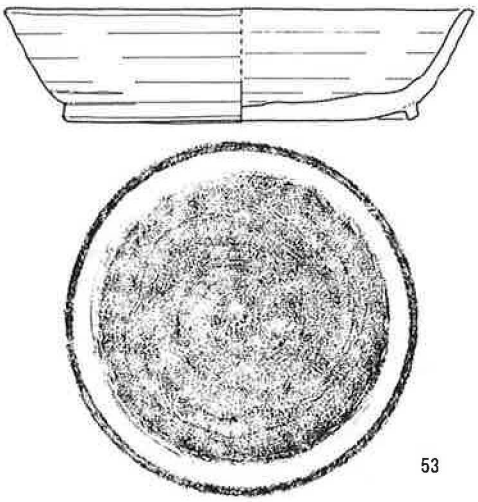

48

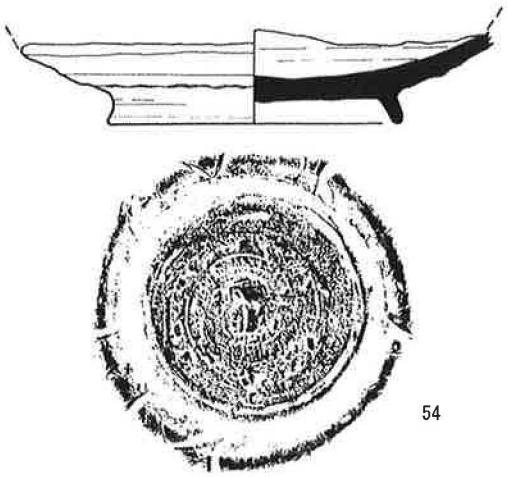

49


50


51

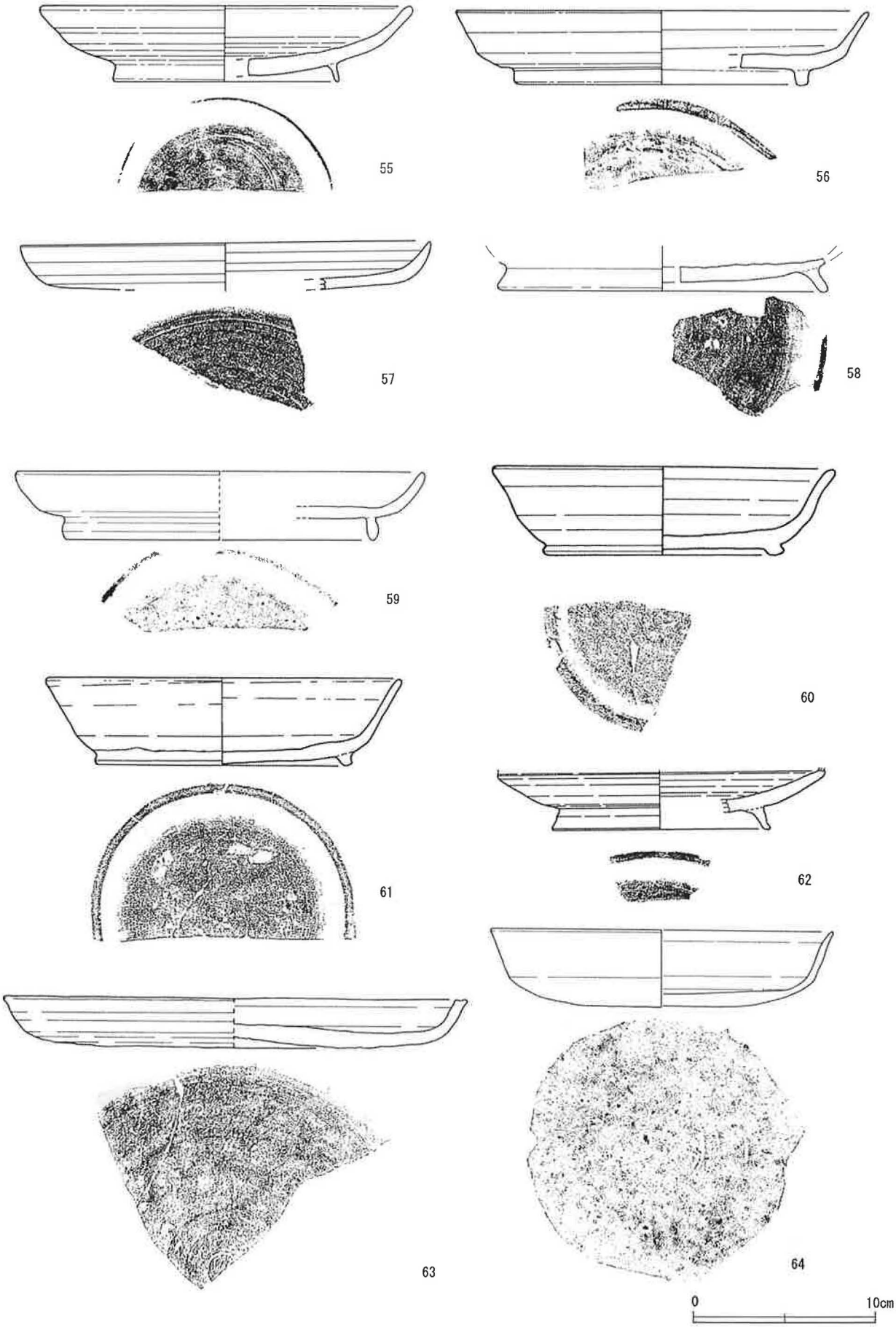

52


53

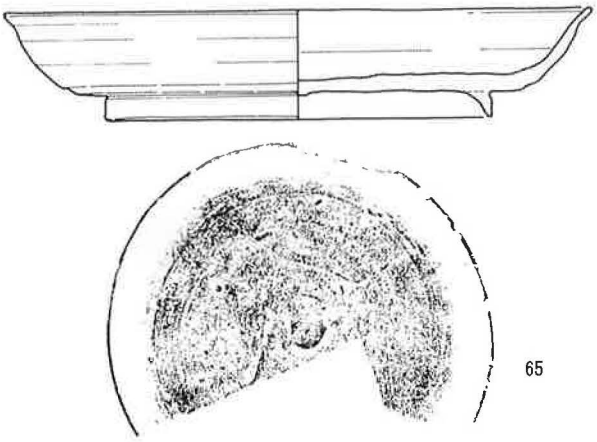

54

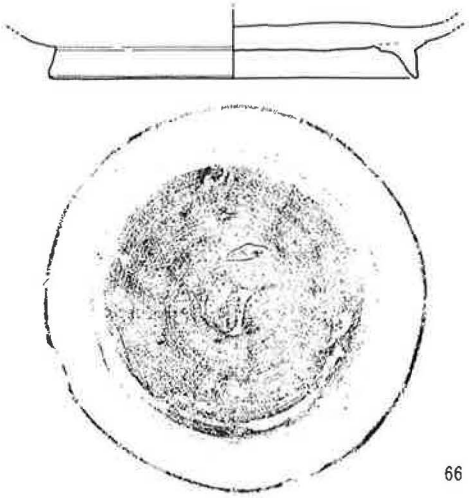
0 10cm

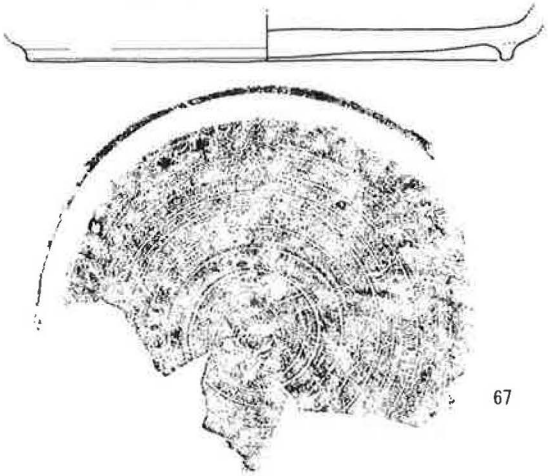
盤・高盤形土器

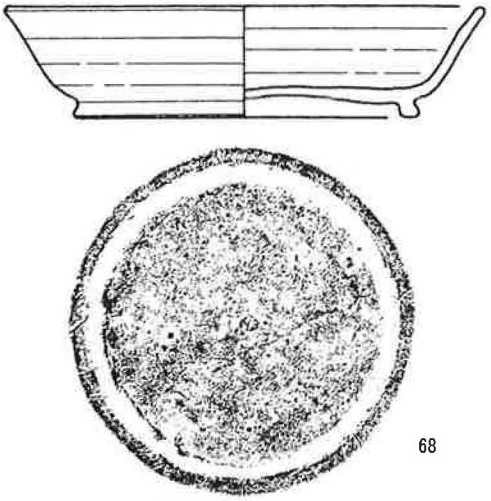


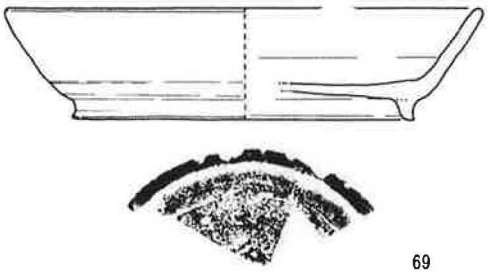
盤・高盤形土器

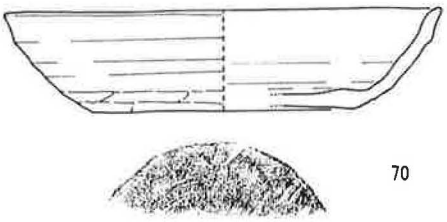


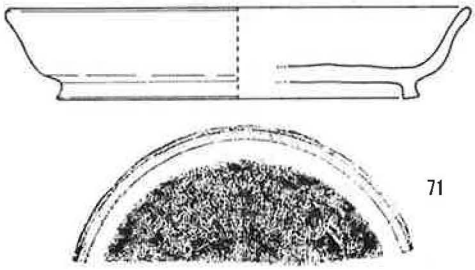


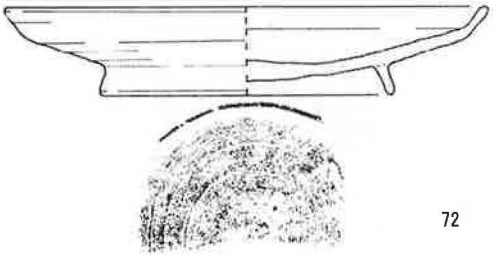


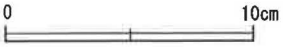




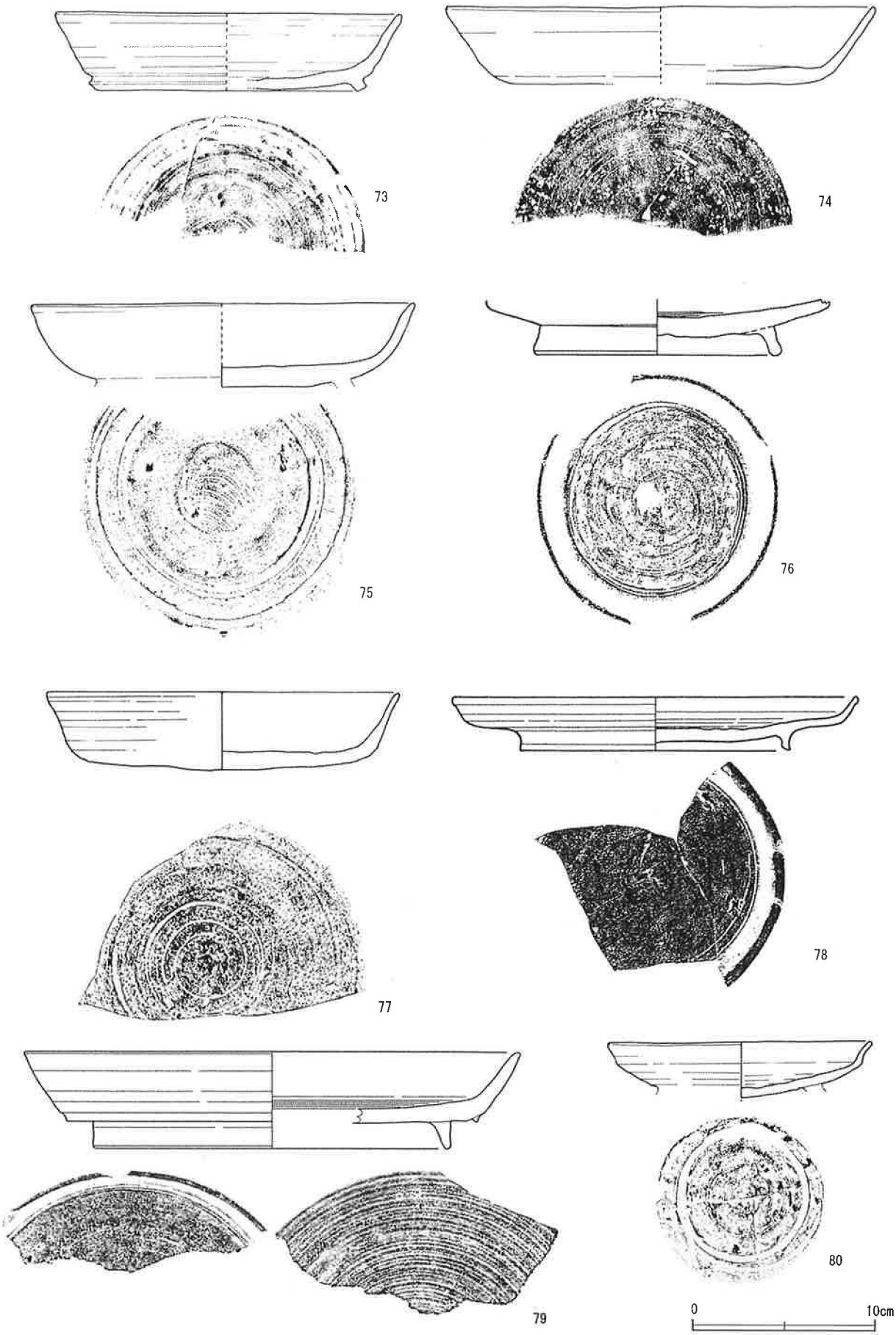




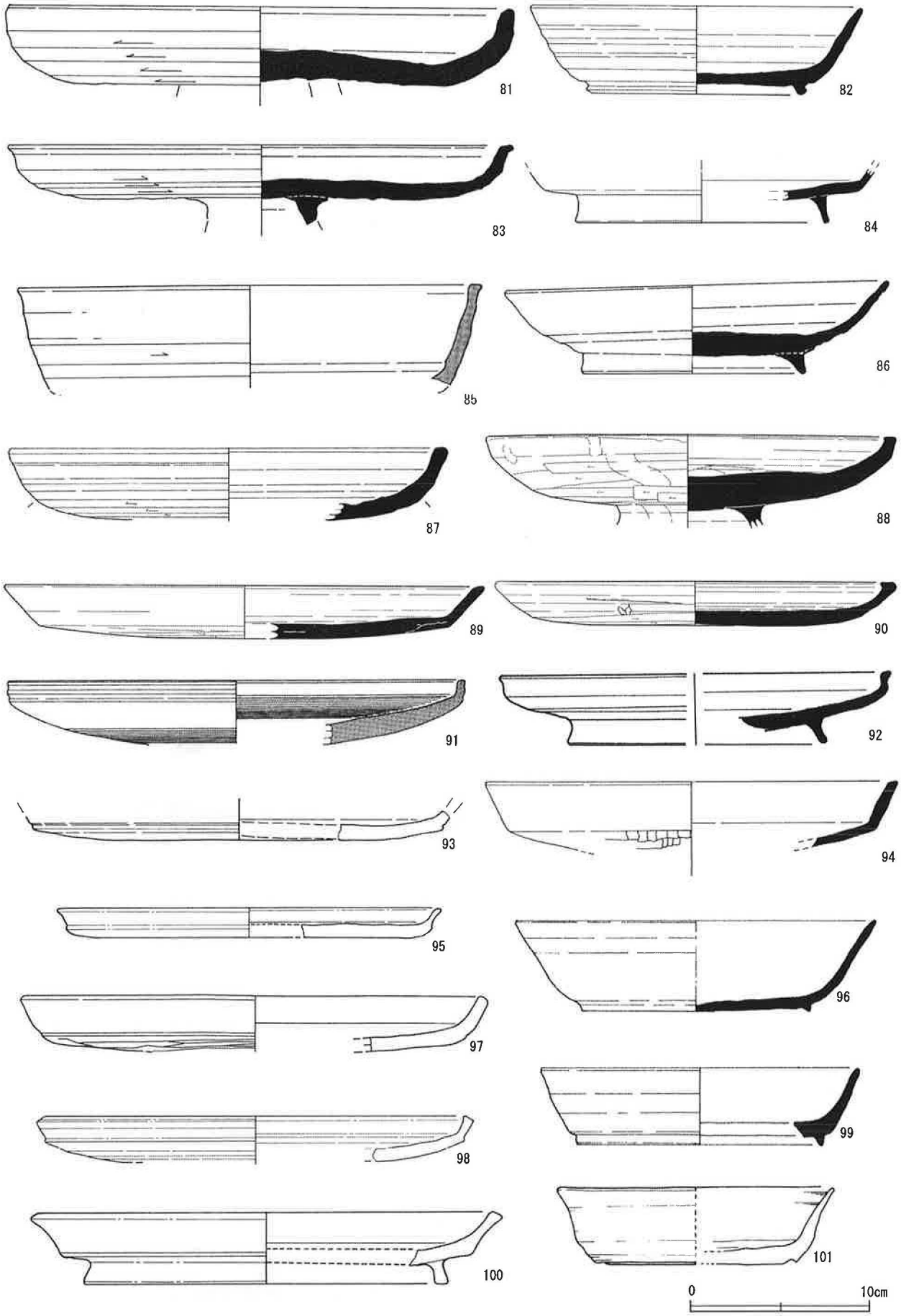




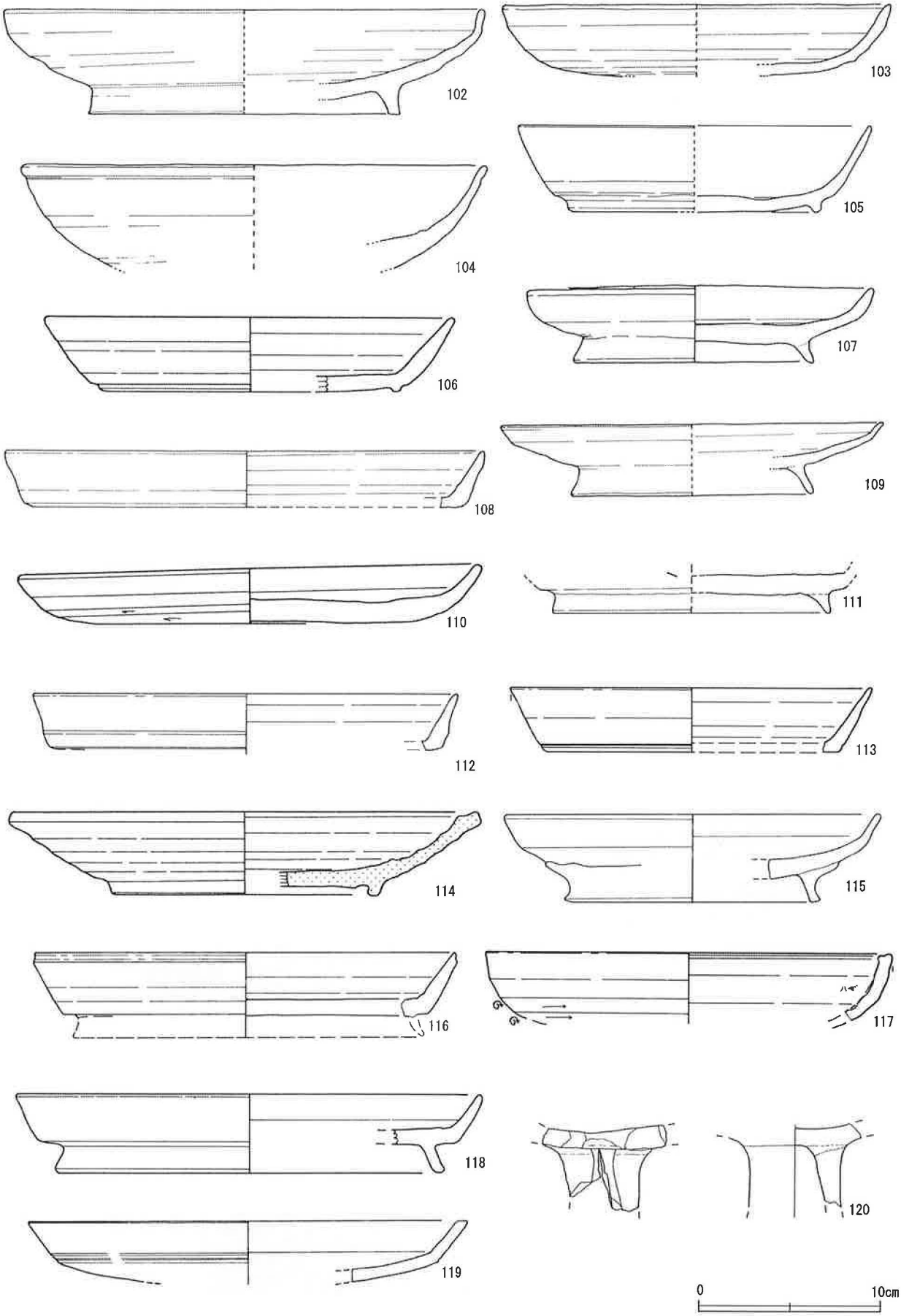
盤・高盤形土器



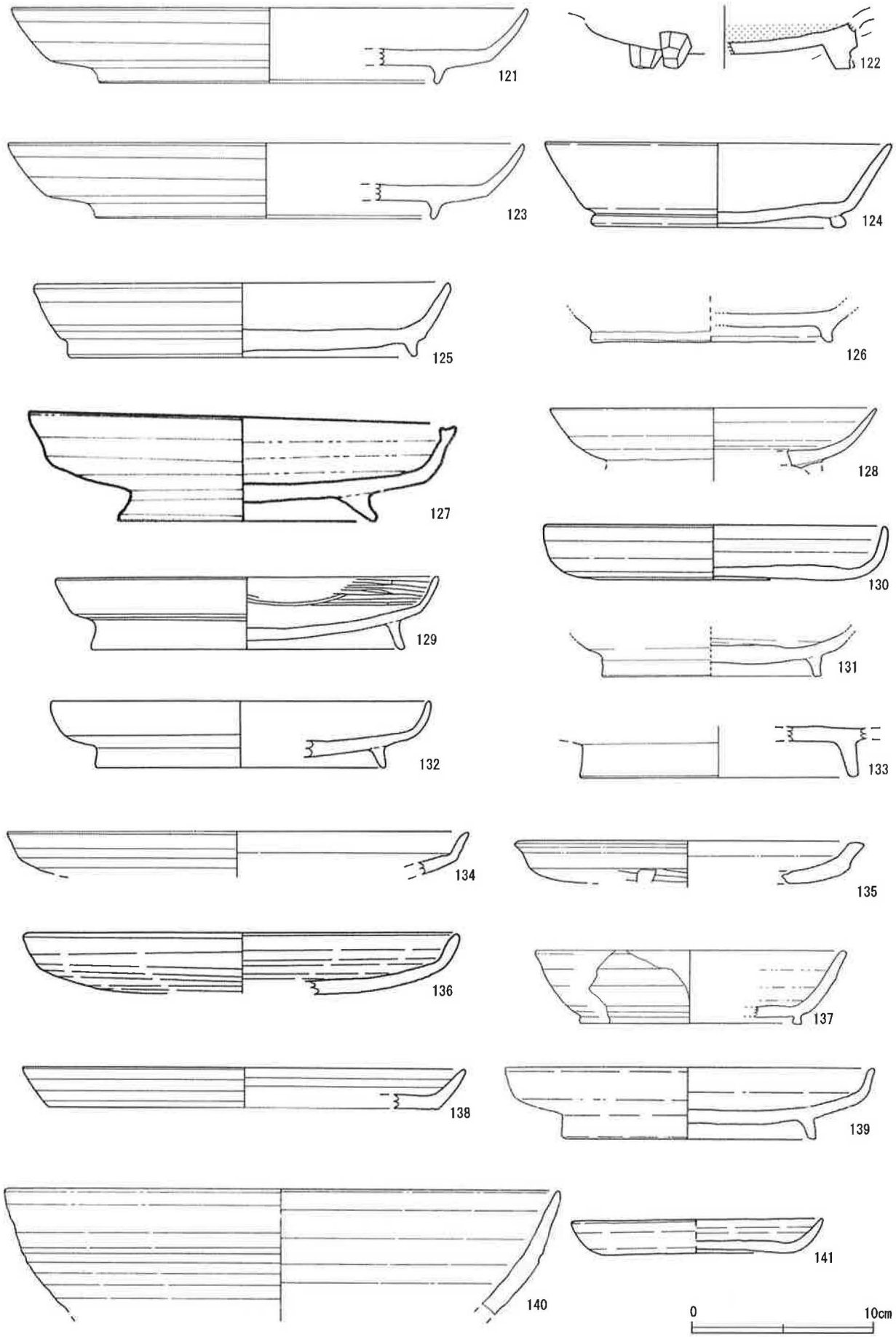
盤・高盤形土器



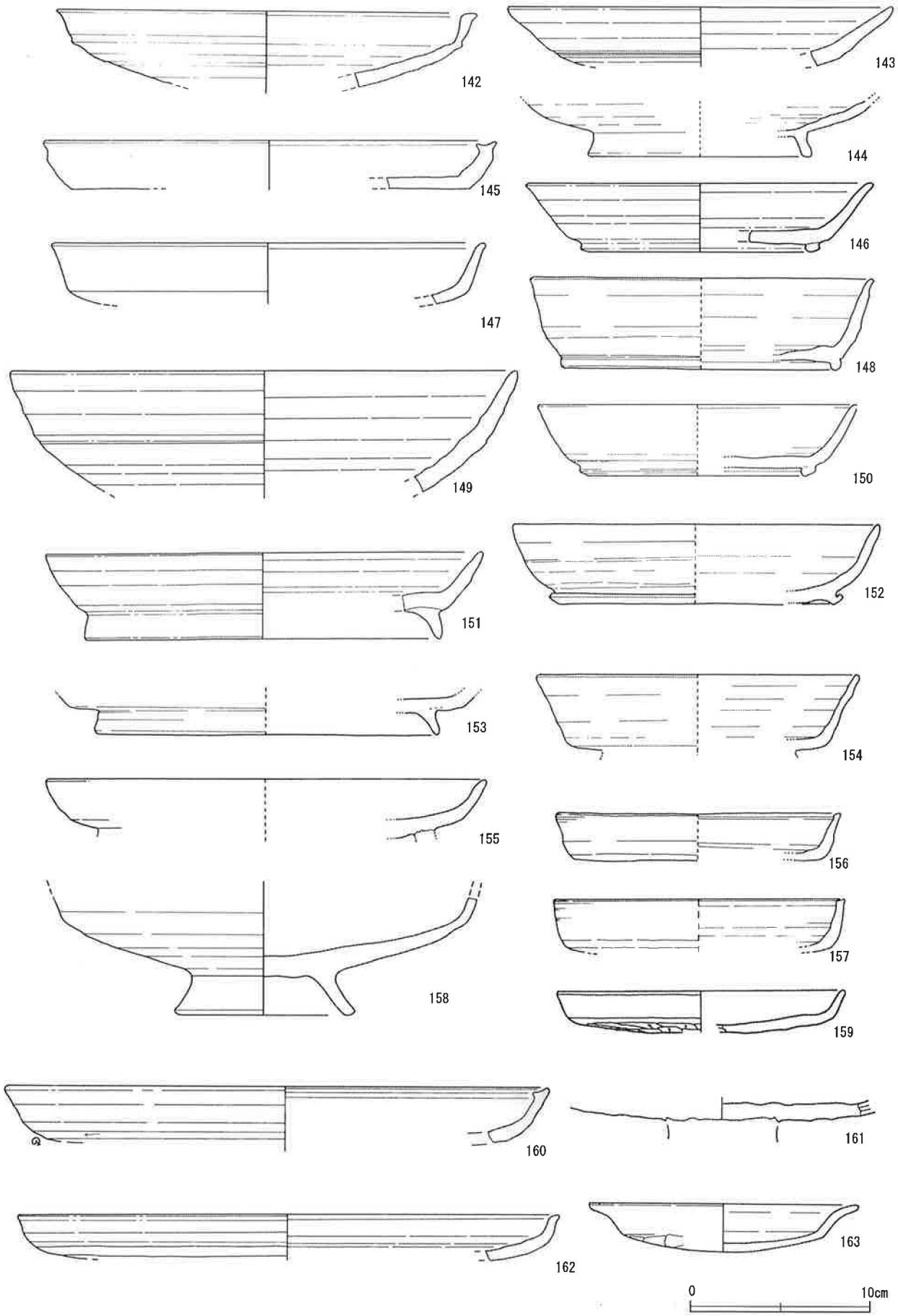
盤・高盤形土器


102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
0
10cm

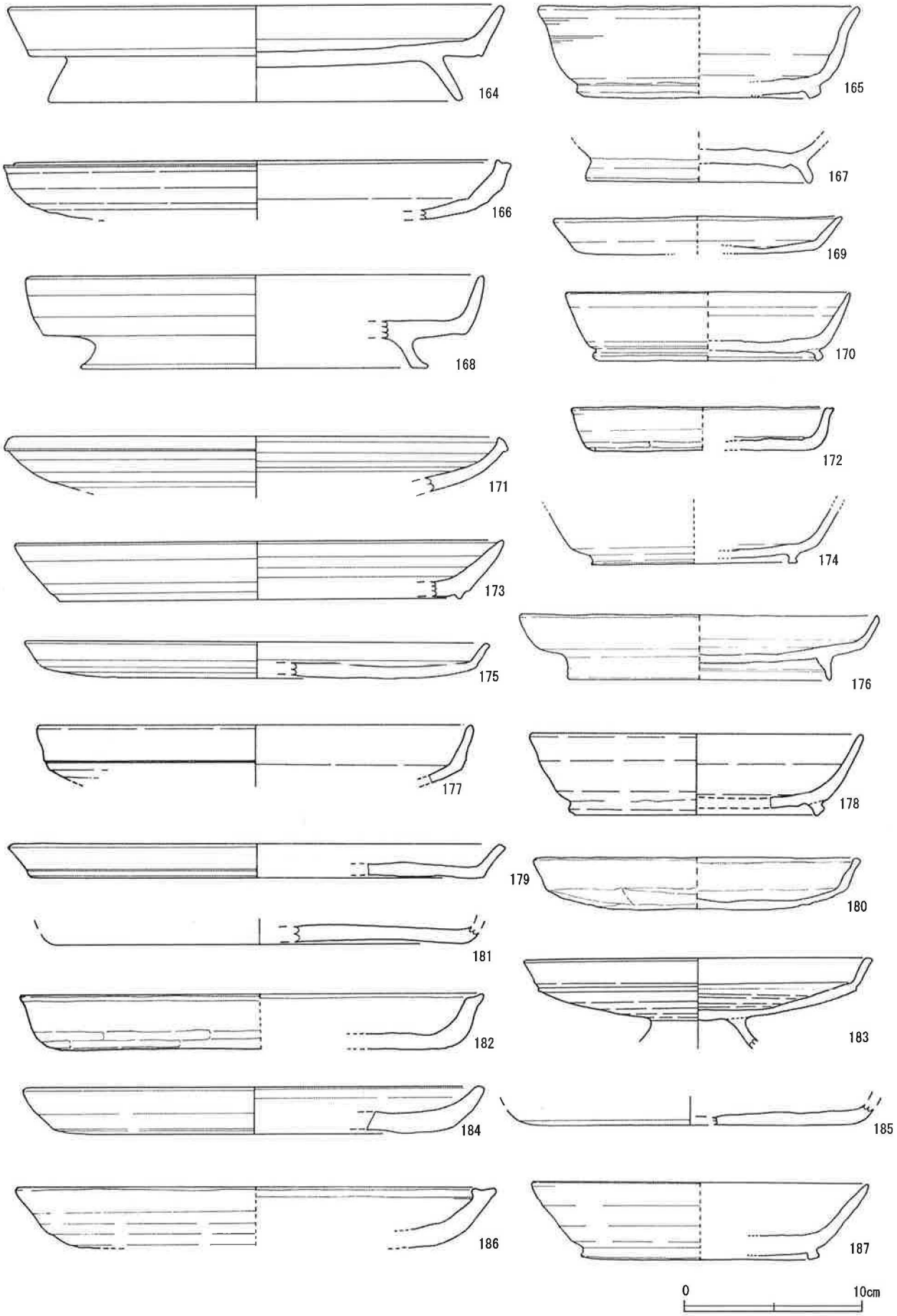
盤・高盤形土器


121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
0
10cm

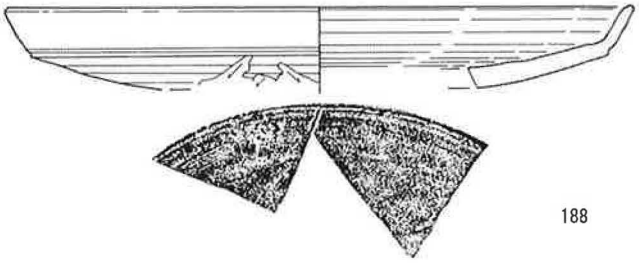
盤・高盤形土器


142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
0
10cm

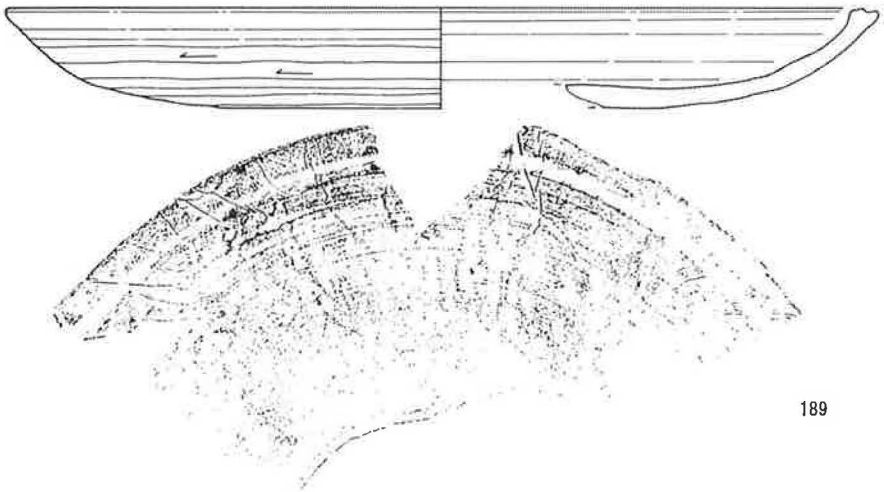
盤・高盤形土器


164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
0
10cm

盤・高盤形土器

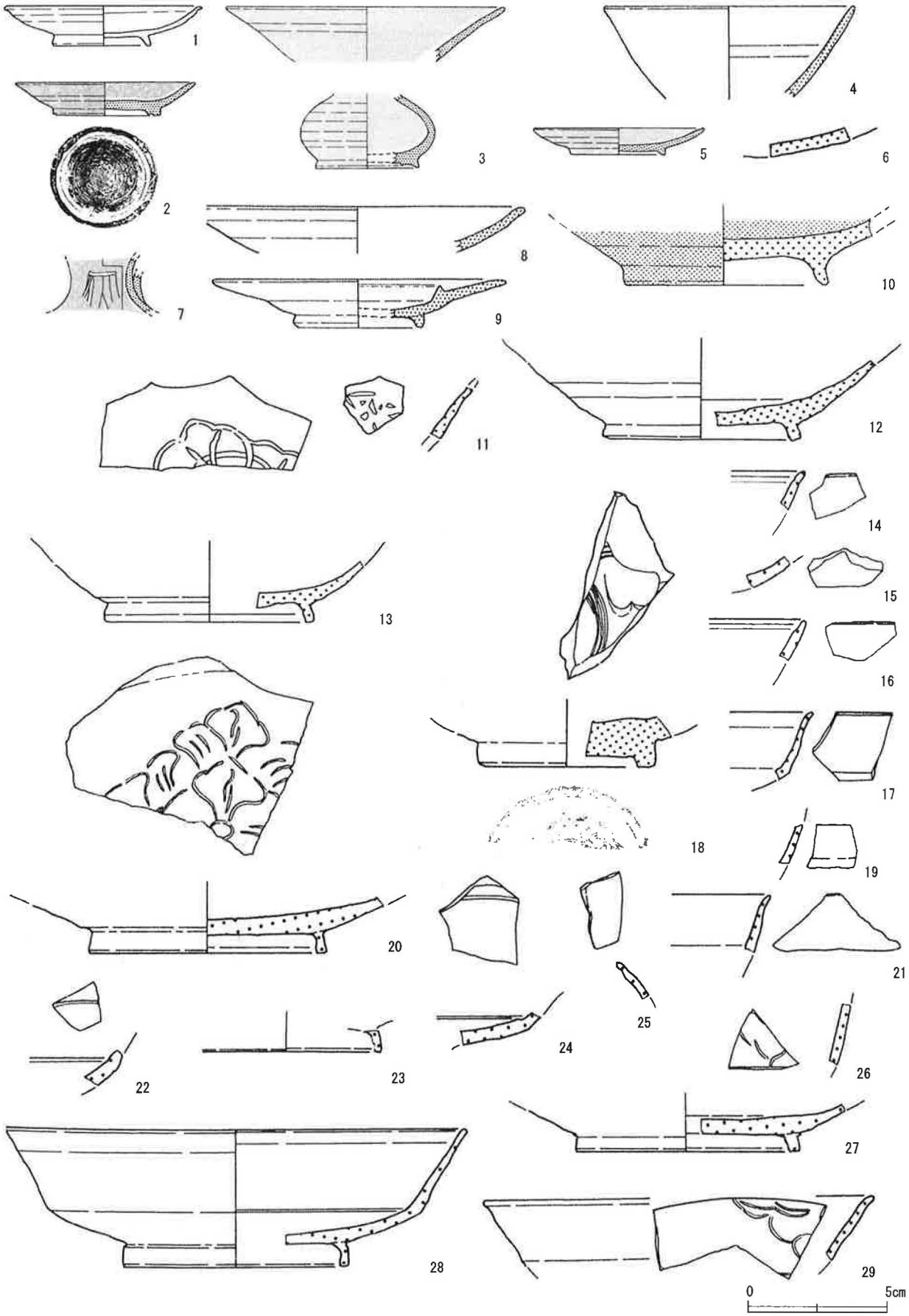


188

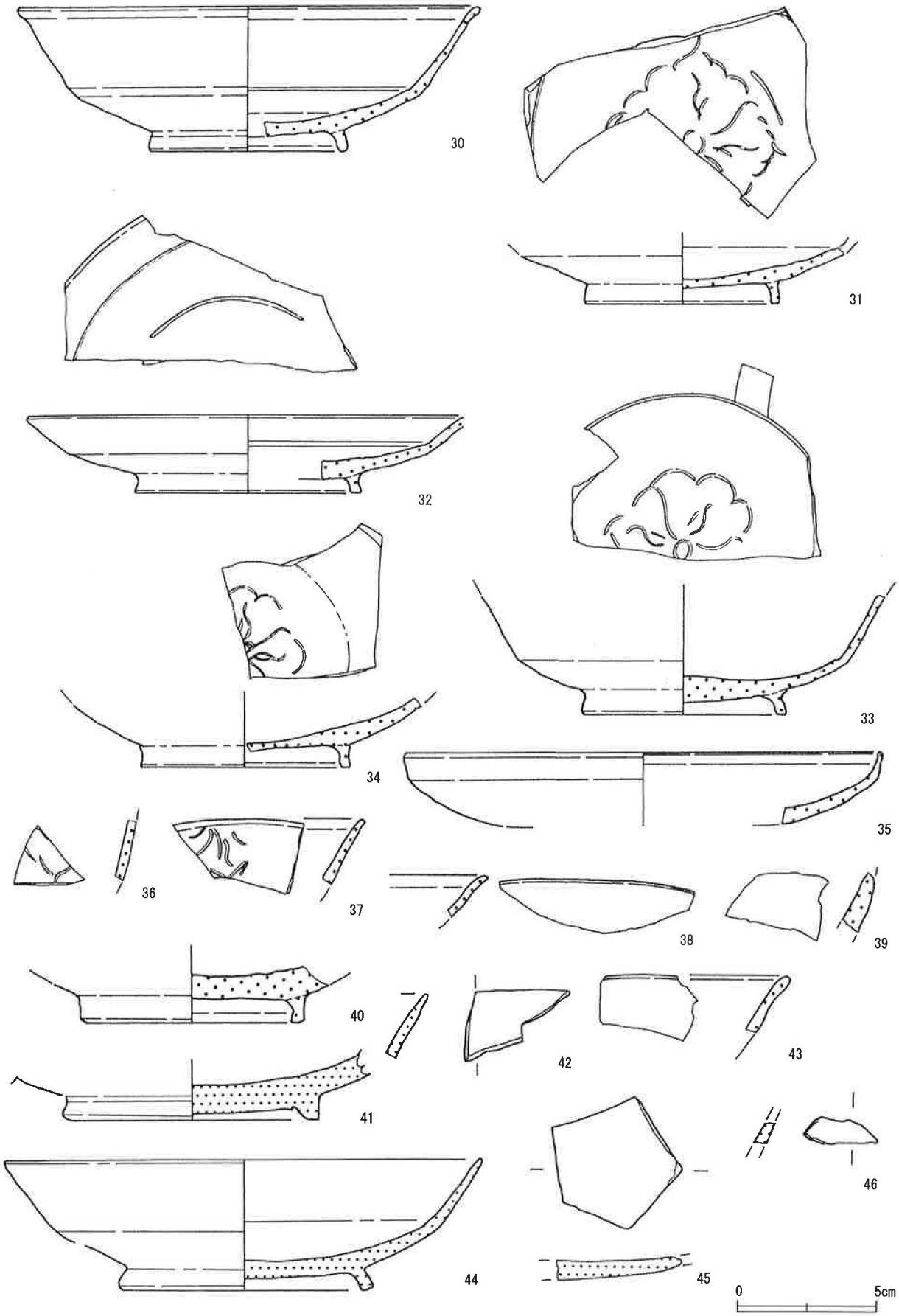


189

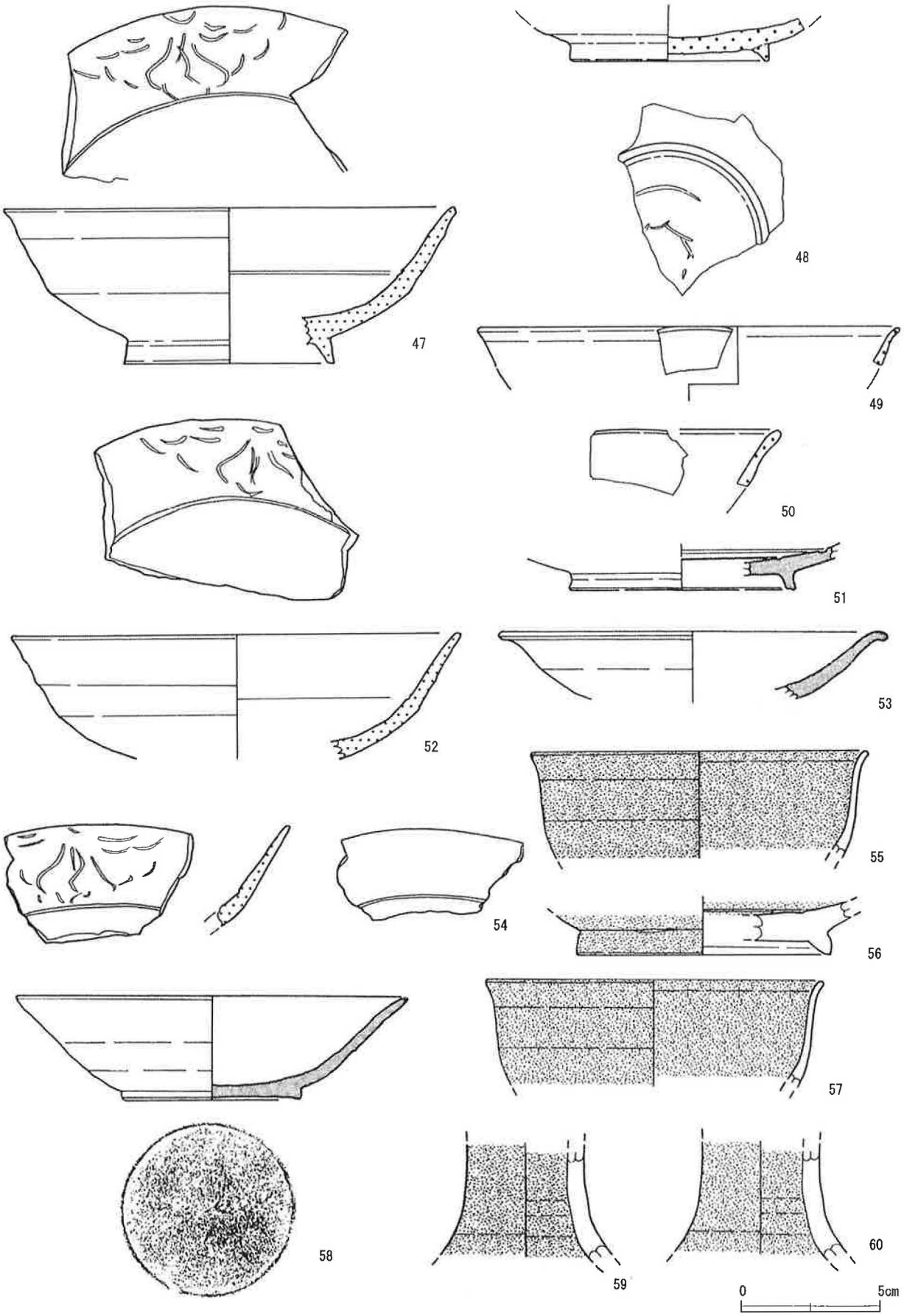
緑釉


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
5cm

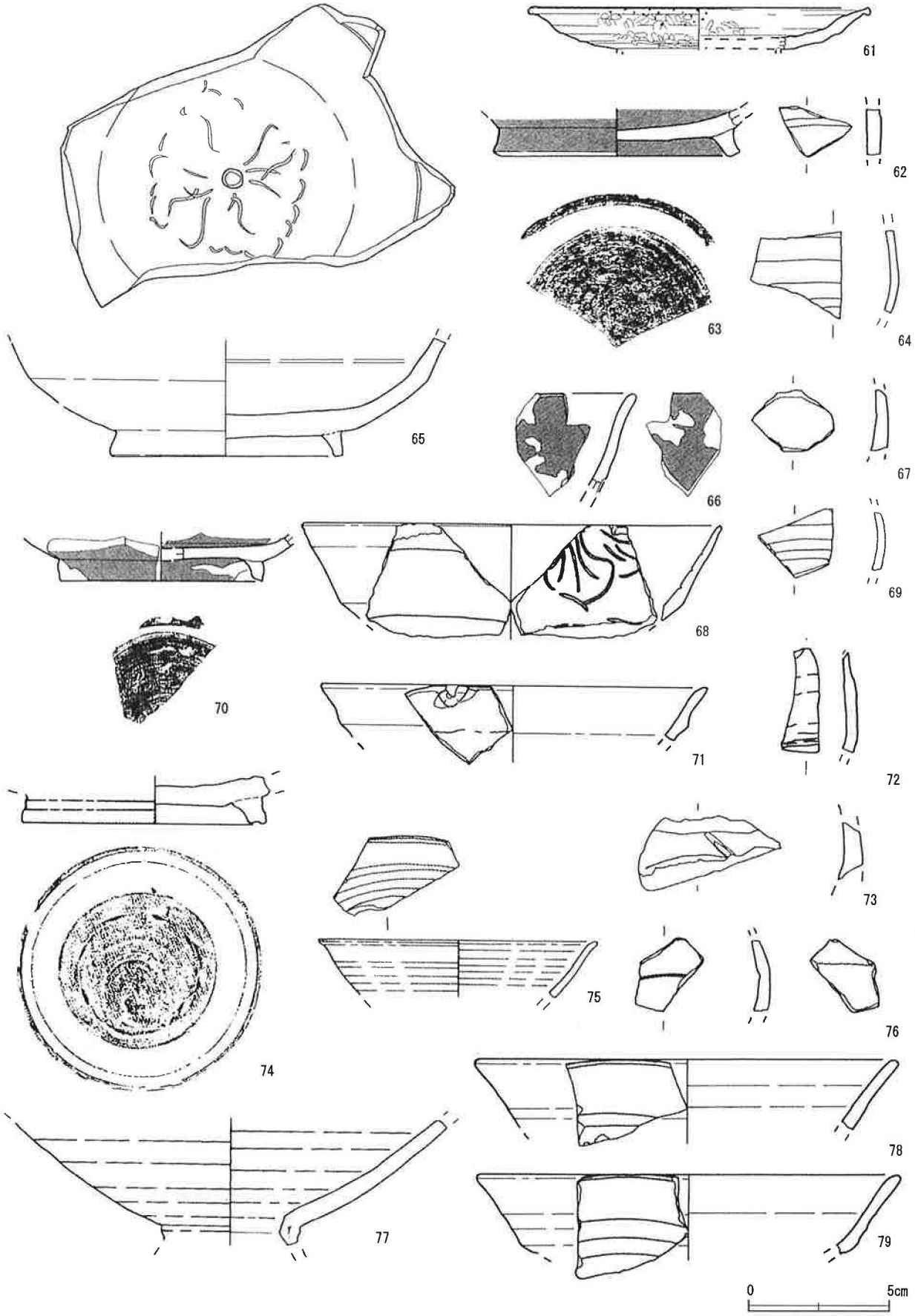
緑釉



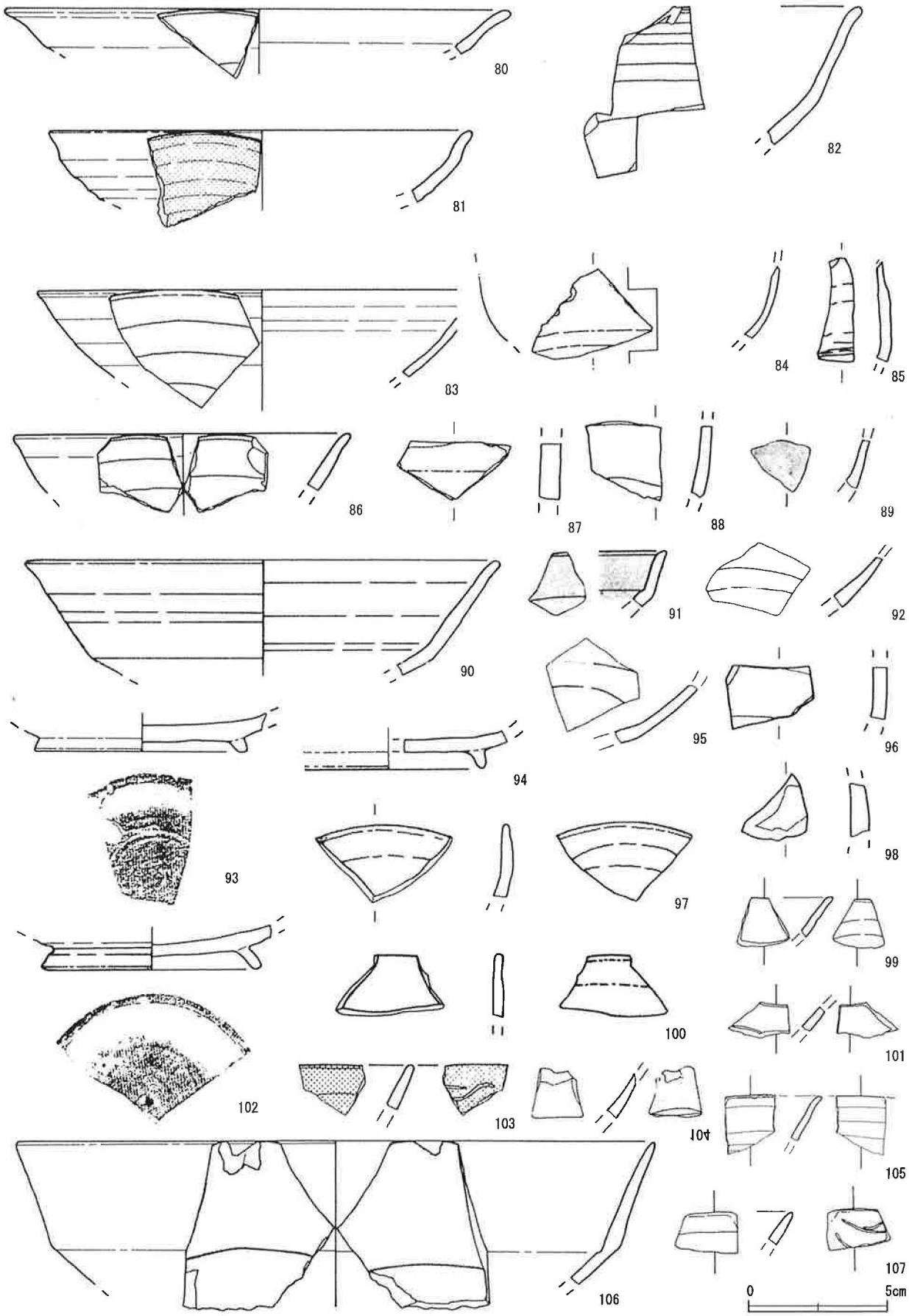
緑釉



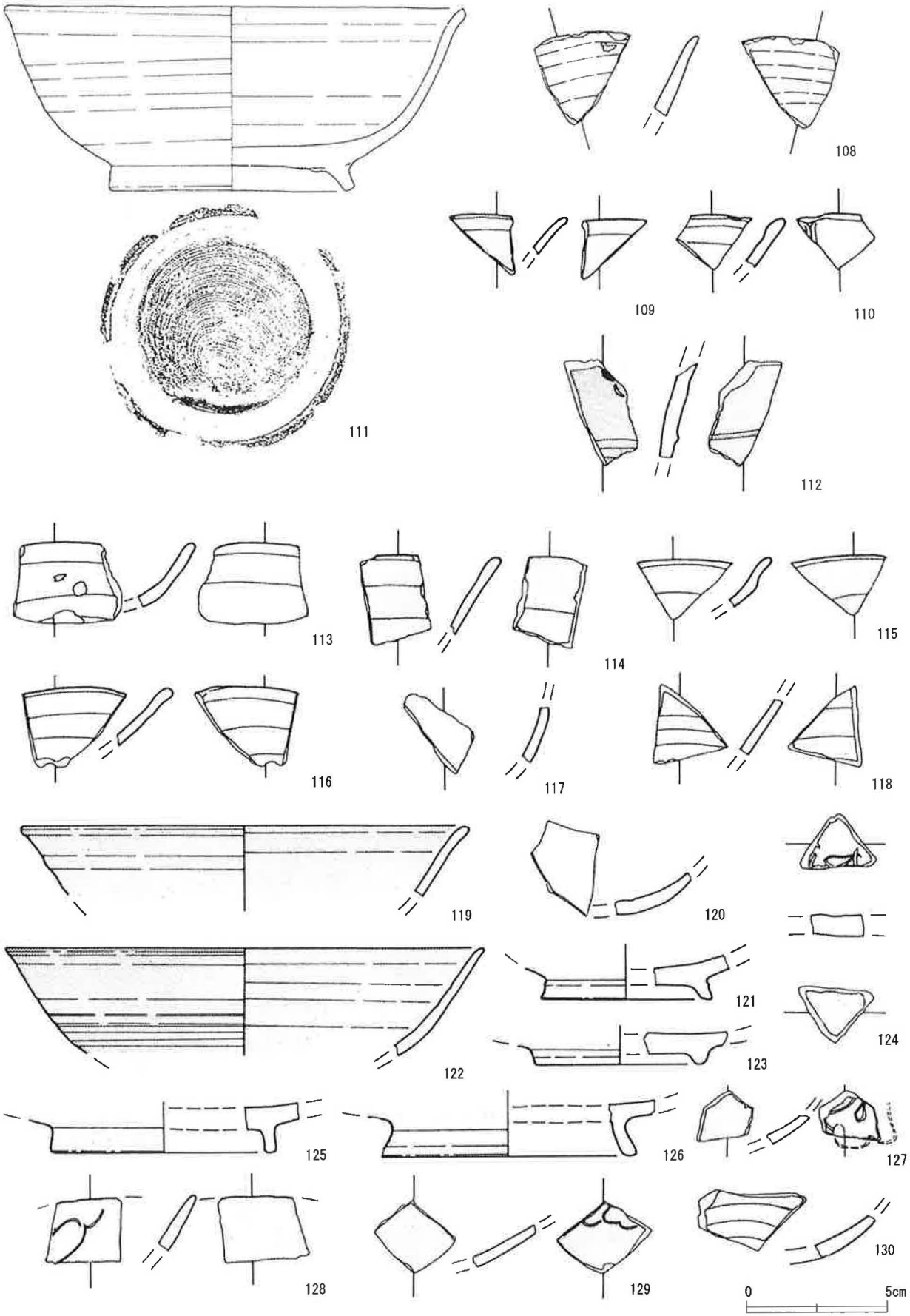
緑釉



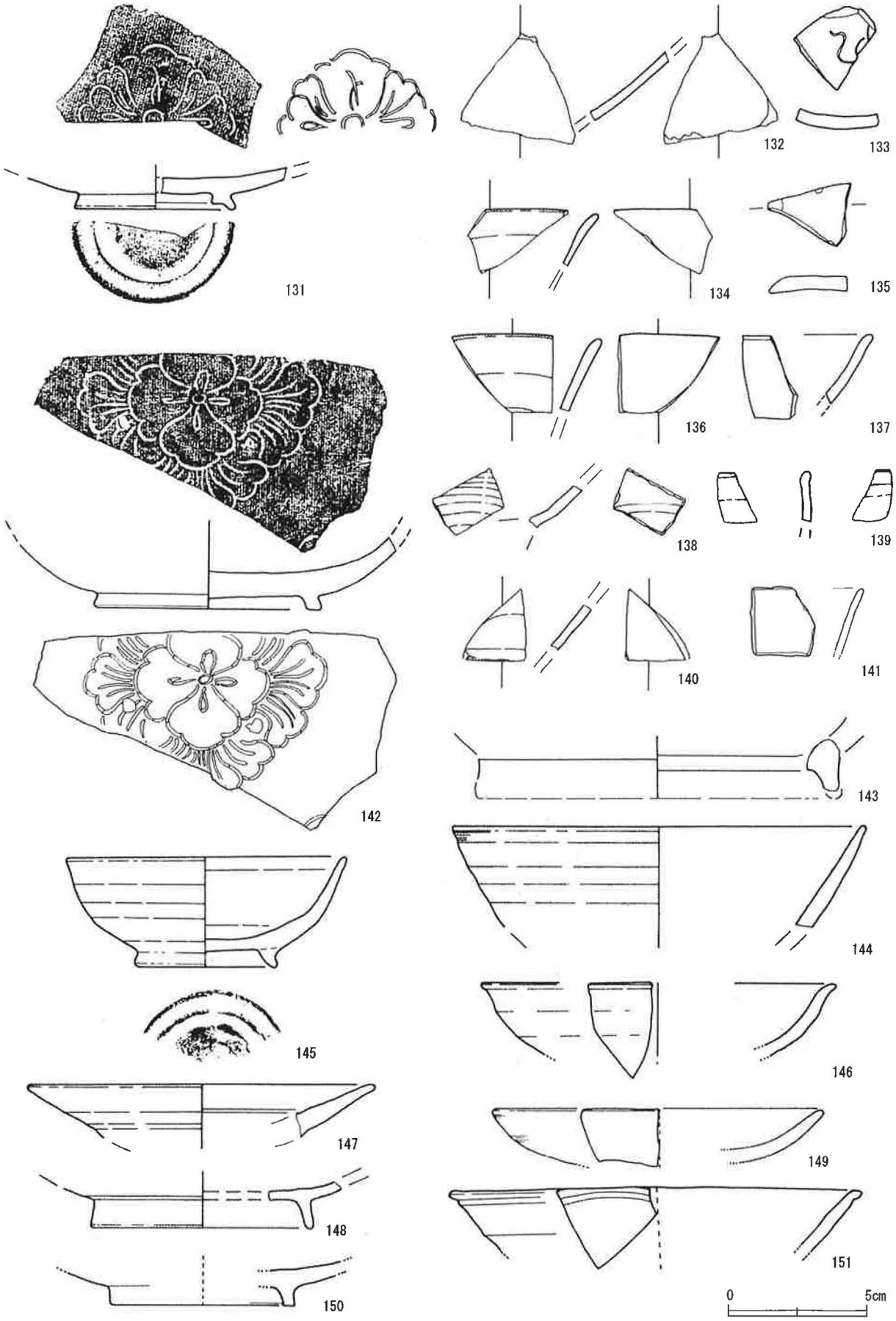
緑釉


80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
0
5cm

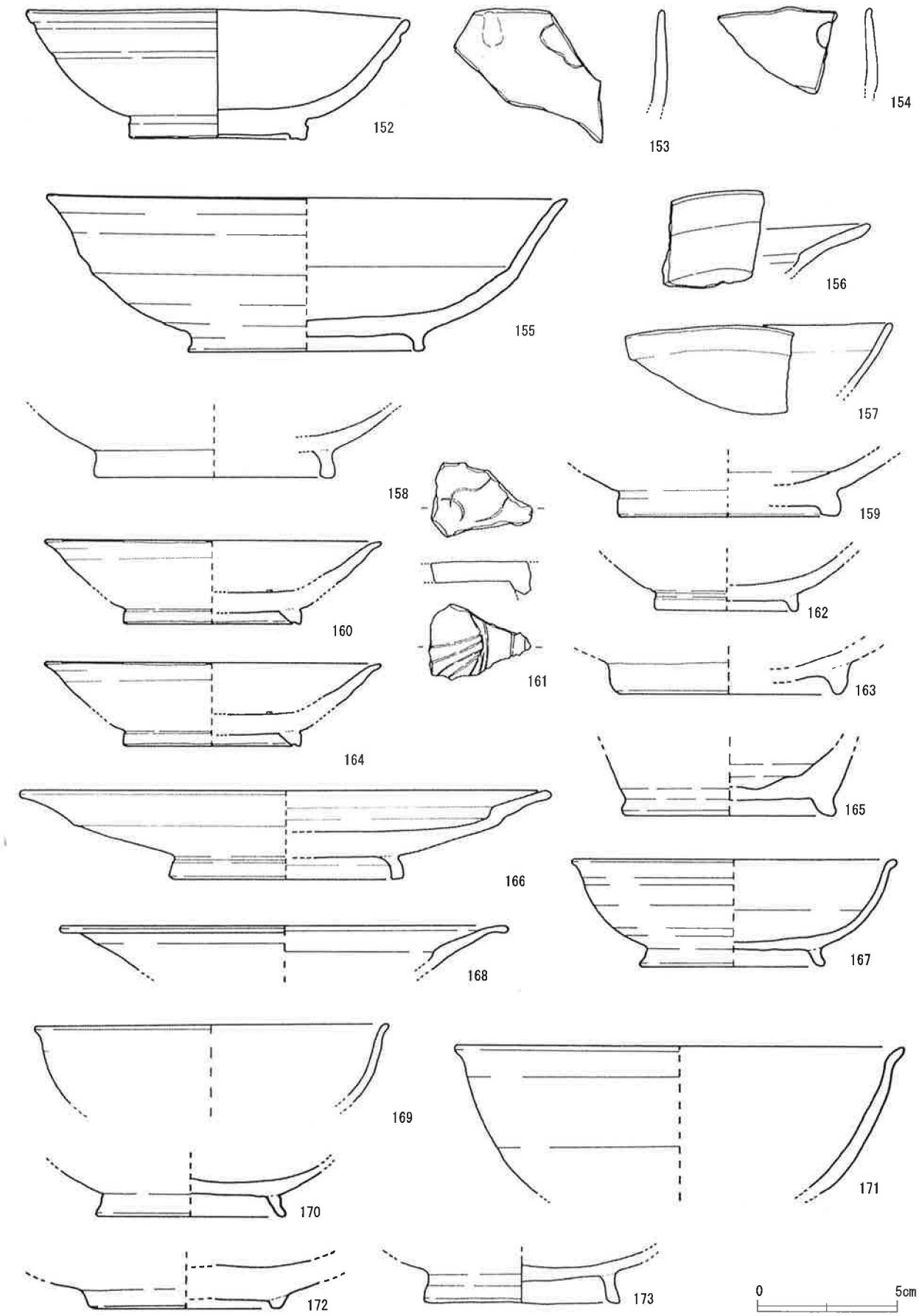
緑釉


108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
0
5cm

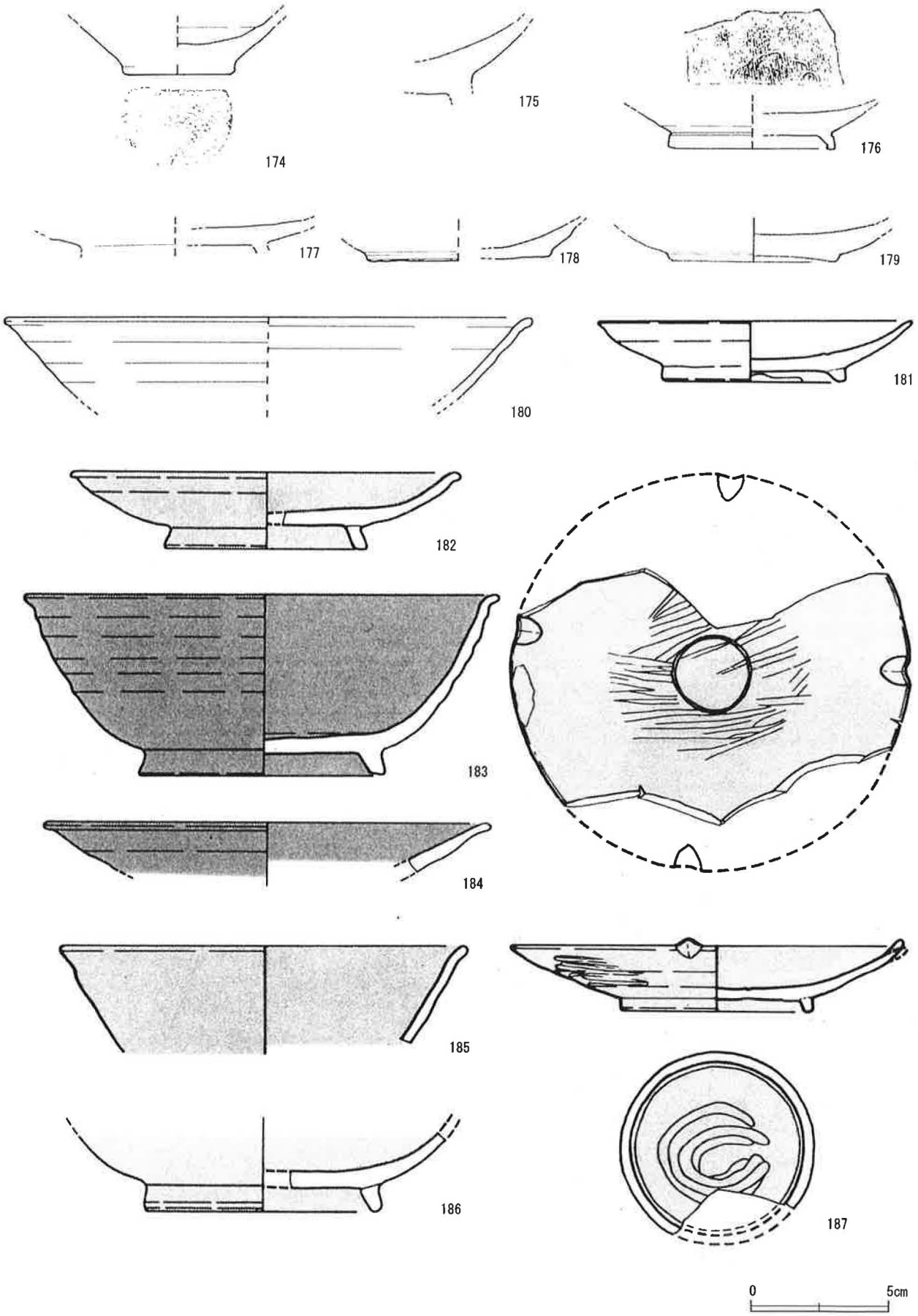
緑釉


131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
0
5cm

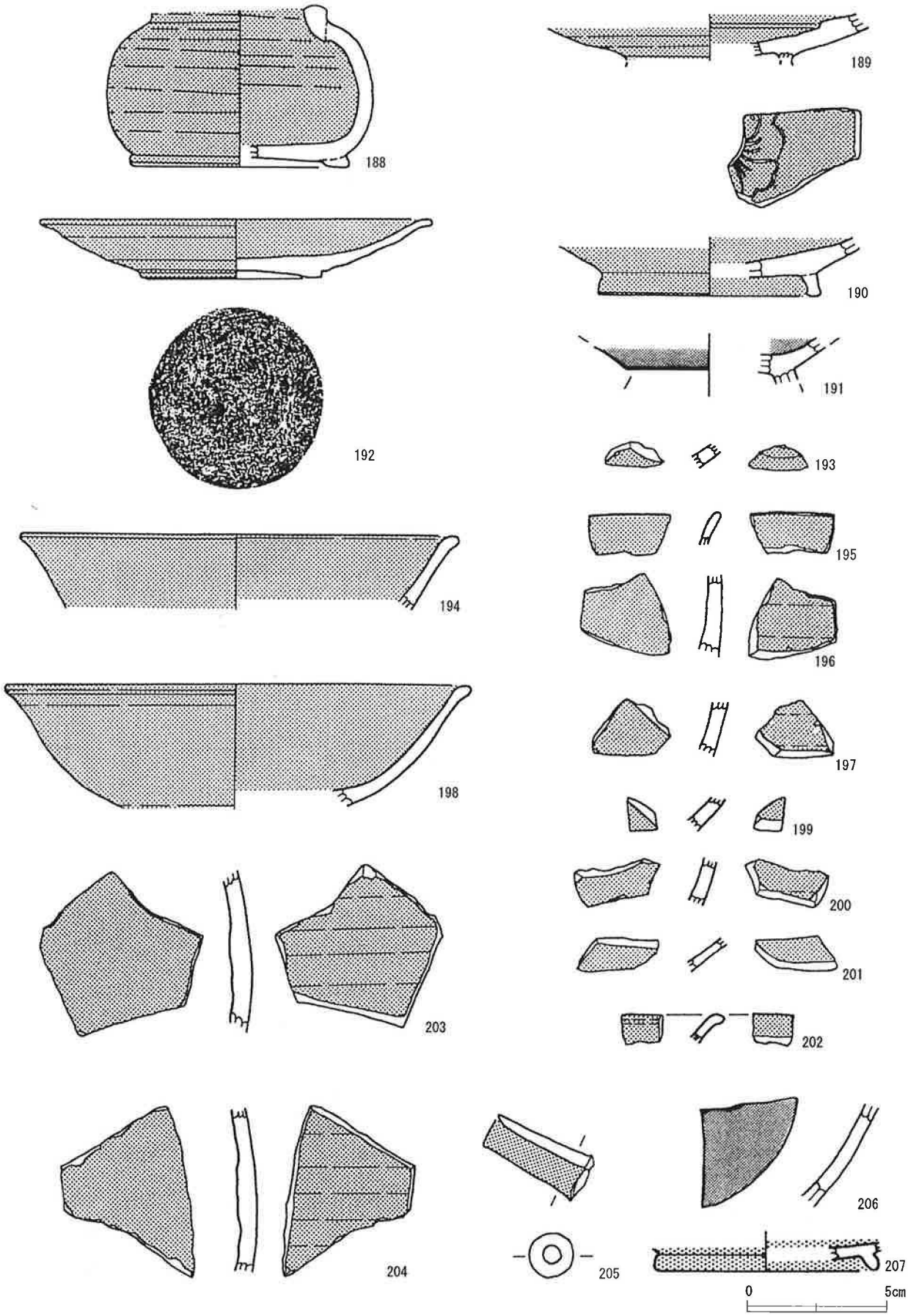
緑釉


152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
0
5cm

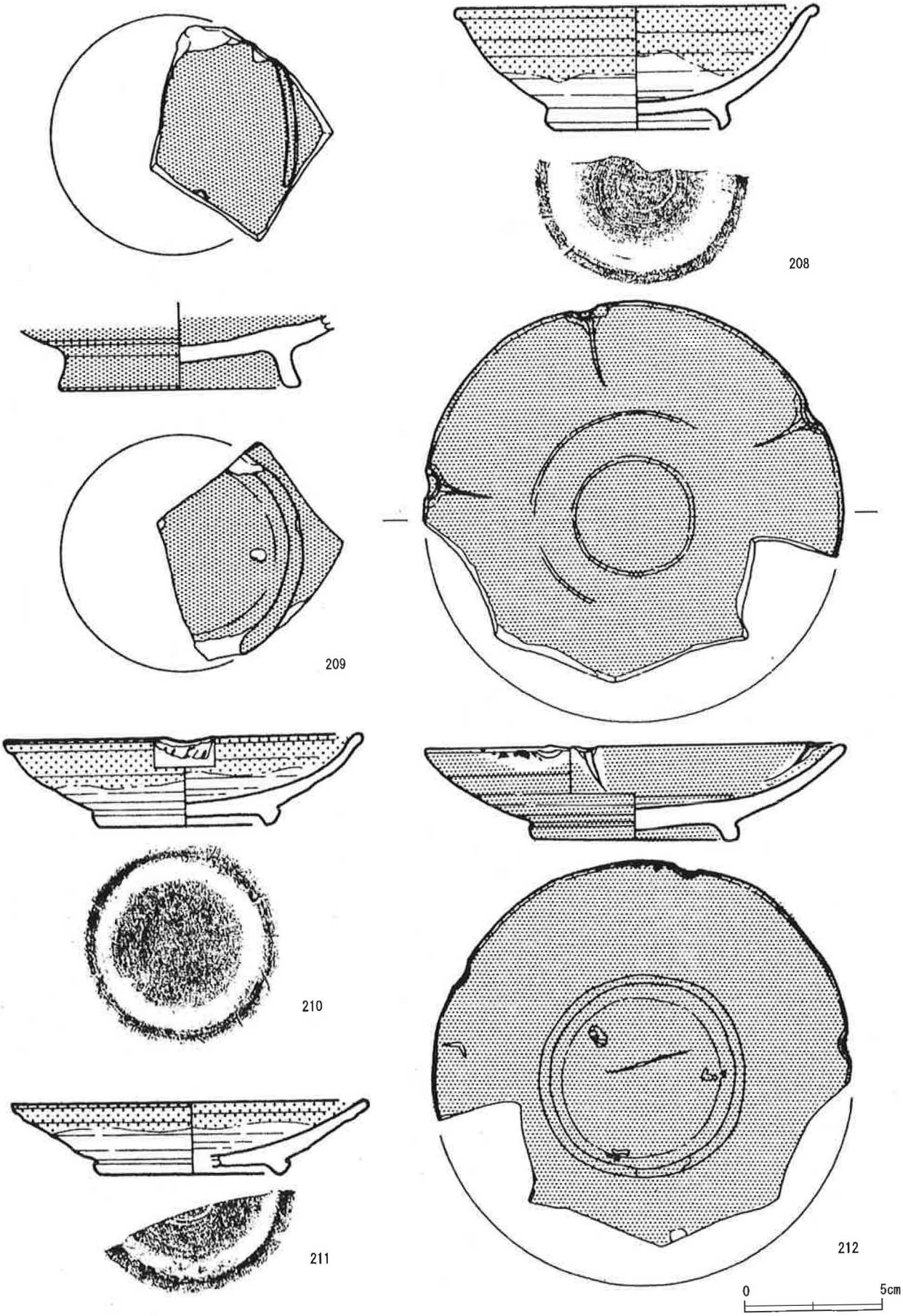
緑釉



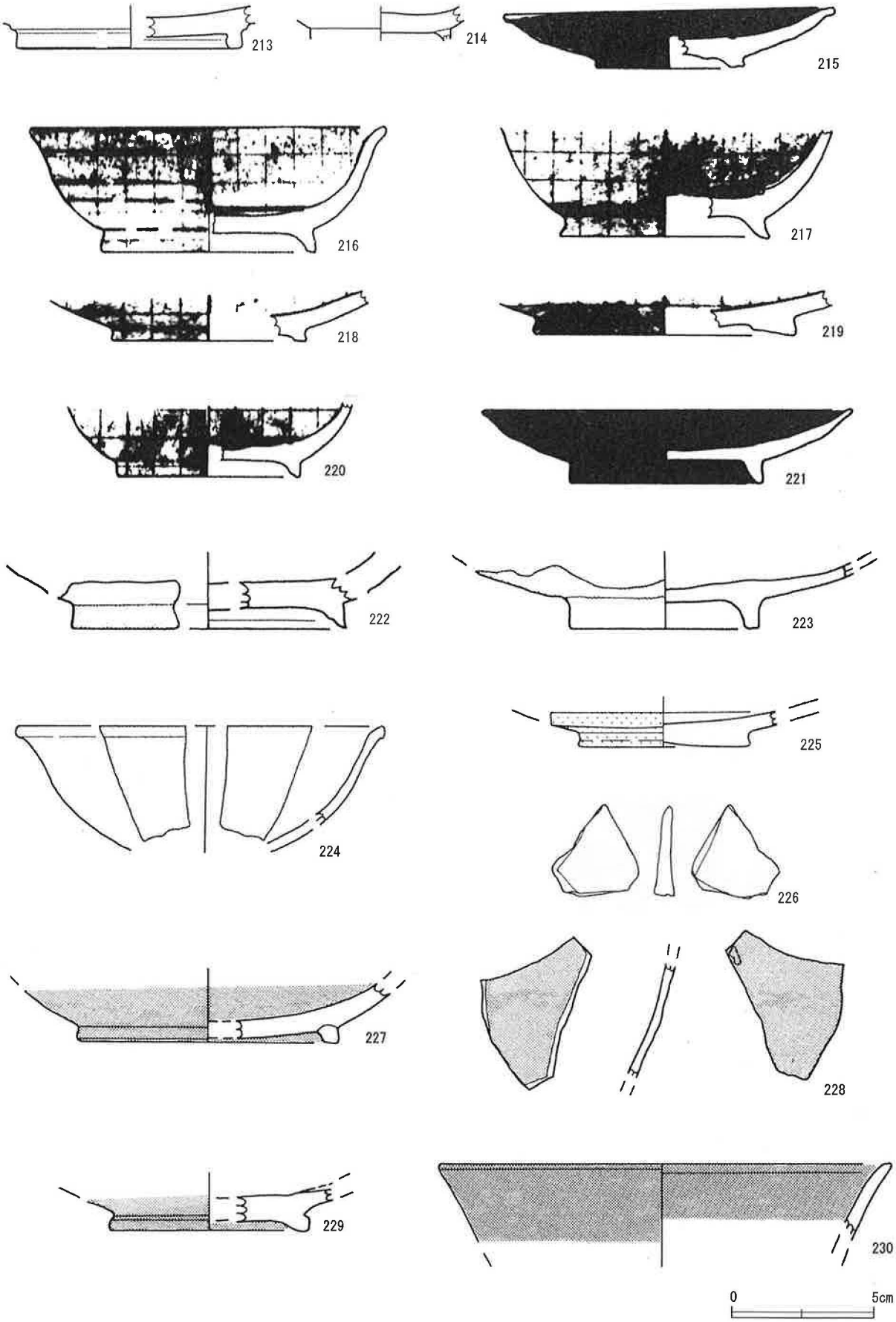
緑釉


188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
0
5cm

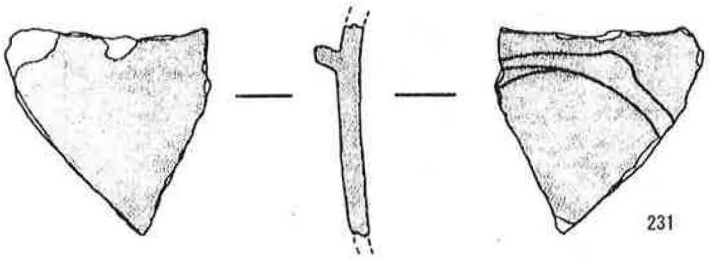
緑釉

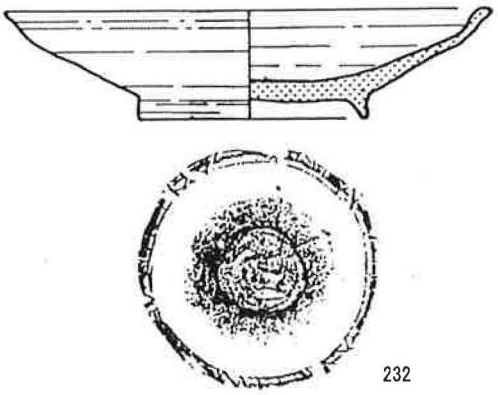


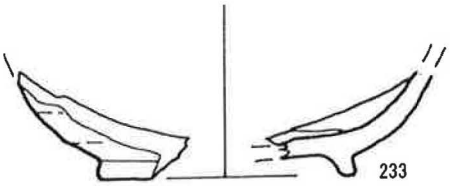
緑釉

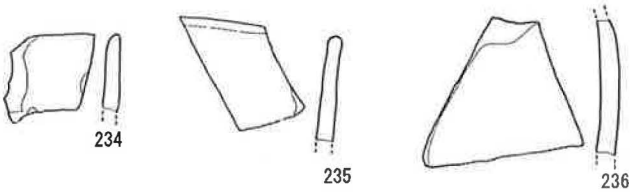

213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
0
5cm

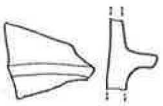
緑釉

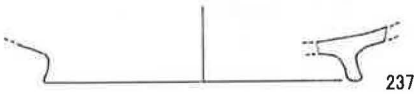

231

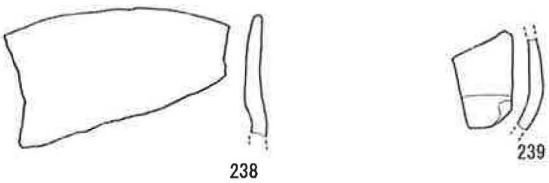

232

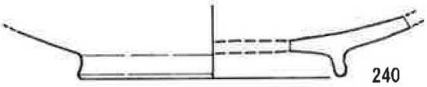

233

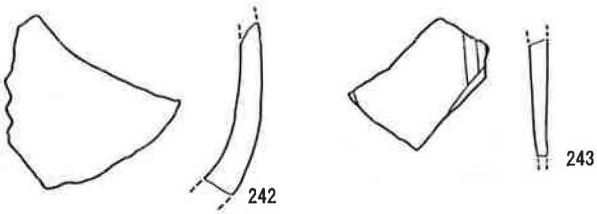

234
235
236



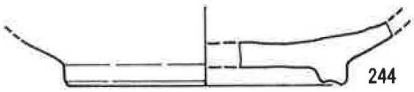

237

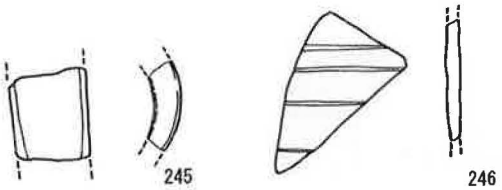

238
239


240

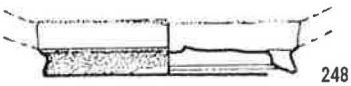

242
243

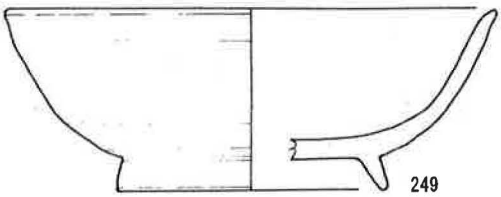
241

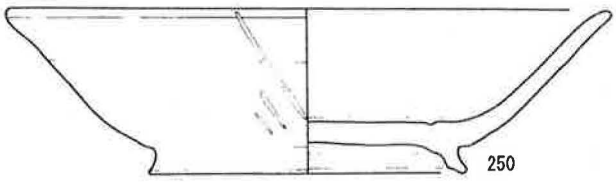

244


245
246

247

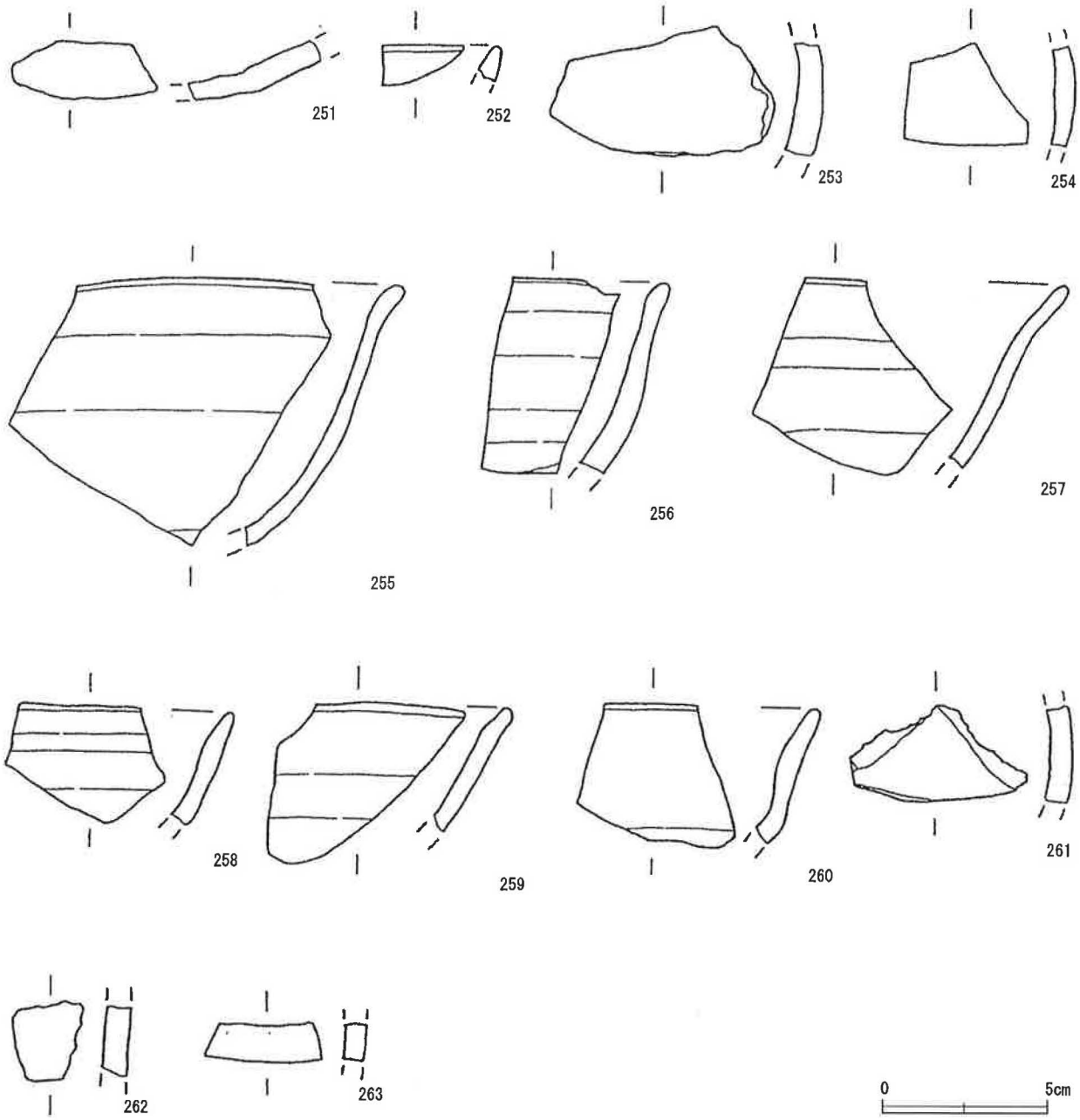

248


249


250

0 5cm

緑釉



対象報告書一覧表

番号	書　　名	発行年月日	発行機関
1	元総社蒼遺跡群①総社閑泉明神北遺跡	2000年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
2	元総社蒼遺跡群②元総社小見遺跡	2001年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
3	元総社蒼遺跡群③総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2002年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
4	元総社蒼遺跡群④元総社小見内Ⅲ遺跡	2002年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
5	元蒼遺跡群⑤元総社小見Ⅱ遺跡	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
6	元蒼遺跡群⑥元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
7	元蒼遺跡群⑦総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
8	元蒼遺跡群⑧元総社小見内Ⅳ遺跡	2003年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
9	元蒼遺跡群⑨元総社小見Ⅳ遺跡	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
10	元蒼遺跡群⑩元総社小見Ⅴ遺跡　元総社小見内Ⅵ遺跡	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
11	元蒼遺跡群⑪元総社小見内Ⅶ遺跡	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
12	元蒼遺跡群⑫元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2004年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
13	元蒼遺跡群⑬元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2005年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
14	元蒼遺跡群⑭元総社小見Ⅵ遺跡	2005年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
15	元蒼遺跡群⑮元総社小見内Ⅹ遺跡	2005年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
16	元総社蒼遺跡群（１）	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
17	元総社蒼遺跡群（２）	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
18	元総社蒼遺跡群（３）元総社小見Ⅶ遺跡	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
19	元総社蒼遺跡群（４）	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
20	元総社蒼遺跡群（５）	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
21	元総社蒼遺跡群（６）	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
22	元総社蒼遺跡群（７）	2006年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
23	元総社蒼遺跡群（８）	2007年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
24	元総社蒼海蒼遺跡群（９）・(10)	2007年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
25	元総社蒼海遺跡群(11)	2007年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
26	元総社蒼海遺跡群(12)	2007年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
27	元総社蒼海遺跡群(13)	2008年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
28	元総社蒼遺跡群(14)・(19)	2008年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
29	元総社蒼遺跡群(15)	2008年2月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
30	元総社蒼遺跡群(16)	2008年2月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
31	元総社蒼遺跡群(17)	2008年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
32	元総社蒼遺跡群(18)	2008年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
33	元総社蒼遺跡群(20)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
34	元総社蒼遺跡群(21)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
35	元総社蒼遺跡群(22)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
36	元総社蒼遺跡群(23)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
37	元総社蒼遺跡群(24)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
38	元総社蒼遺跡群(25)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	元総社蒼遺跡群(26)	2009年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
40	元総社蒼遺跡群(27)	2010年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
41	元総社蒼遺跡群(28)	2010年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
42	元総社蒼遺跡群(29)	2010年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
43	元総社蒼遺跡群(30)	2010年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
44	元総社蒼遺跡群(31)	2010年12月	前橋市教育委員会
45	元総社蒼遺跡群(32)(33)	2011年3月	前橋市教育委員会
46	元総社蒼遺跡群(34)	2011年3月	前橋市教育委員会
47	元総社蒼遺跡群(35)	2011年2月	前橋市教育委員会
48	元総社蒼遺跡群(36)	2011年3月	前橋市教育委員会
49	元総社蒼遺跡群(37)	2012年3月	前橋市教育委員会
50	草作遺跡	1980年5月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
51	天神遺跡	1987年3月	前橋市教育委員会
52	天神Ⅱ遺跡	1989年1月	前橋市教育委員会
53	天神Ⅲ遺跡	2008年8月	前橋市教育委員会
54	弥勒遺跡	1990年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団

対象報告書一覧表

番号	書　　名	発行年月日	発行機関
55	弥勒遺跡Ⅱ	1996年3月	前橋市教育委員会
56	弥勒遺跡Ⅲ　年報　第３６集　平成１７年度文化財調査報告書	2006年9月	前橋市教育委員会
57	上野国分寺参道遺跡	1997年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
58	上野国分尼寺寺域確認調査	2000年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
59	元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ	2001年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
60	元総社明神遺跡Ⅰ	1983年3月	前橋市教育委員会
61	元総社明神遺跡Ⅱ	1984年3月	前橋市教育委員会
62	元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ	1986年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
63	元総社明神遺跡Ⅴ	1987年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
64	元総社明神遺跡Ⅵ	1988年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
65	元総社明神遺跡Ⅶ	1989年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
66	元総社明神遺跡Ⅷ	1990年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
67	元総社明神遺跡Ⅸ	1991年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
68	元総社明神遺跡Ⅹ	1992年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
69	元総社明神遺跡ⅩⅠ	1993年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
70	元総社明神遺跡ⅩⅡ	1994年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
71	元総社明神遺跡ⅩⅢ	1997年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
72	樋越遺跡	1986年3月	前橋市教育委員会
73	閑泉樋南遺跡	1986年3月	前橋市教育委員会
74	屋敷遺跡	1987年2月	前橋市教育委員会
75	屋敷Ⅱ遺跡	1996年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
76	寺田遺跡	1987年3月	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
77	堰越遺跡	1988年3月	前橋市教育委員会
78	堰越Ⅱ遺跡	1988年6月	前橋市教育委員会
79	上野国分僧寺・尼寺中間地域（１）	1987年2月	群馬県教育委員会・群埋文
80	上野国分僧寺・尼寺中間地域（２）	1988年3月	群馬県教育委員会・群埋文
81	上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）	1989年3月	群馬県教育委員会・群埋文
82	上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）	1990年3月	群馬県教育委員会・群埋文
83	上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）	1991年3月	群馬県教育委員会・群埋文
84	上野国分僧寺・尼寺中間地域（６）	1992年2月	群馬県教育委員会・群埋文
85	上野国分僧寺・尼寺中間地域（７）	1992年2月	群馬県教育委員会・群埋文
86	上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）	1992年3月	群馬県教育委員会・群埋文
87	鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ区	1986年10月	群馬県教育委員会・群埋文
88	鳥羽遺跡Ｉ・Ｊ・Ｋ区	1988年3月	群馬県教育委員会・群埋文
89	鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ区	1990年3月	群馬県教育委員会・群埋文
90	鳥羽遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｅ・Ｆ区	1992年3月	群馬県教育委員会・群埋文
91	中尾（遺物篇）	1984年3月	群馬県教育委員会・群埋文
92	史跡　上野国分寺跡	1989年3月	群馬県教育委員会
93	上野国分寺跡・上野国分二寺中間地域	1993年3月	群馬県教育委員会・群埋文
94	元総社西川遺跡	2001年12月	群馬県教育委員会・群埋文
95	元総社寺田遺跡Ⅰ	1993年3月	群馬県教育委員会・群埋文
96	元総社寺田遺跡Ⅲ	1996年3月	群馬県教育委員会・群埋文
97	元総社西川・塚田中原遺跡	2003年11月	群馬県教育委員会・群埋文
98	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	2007年3月	群馬県前橋土木事務所・群埋文
99	国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	2000年3月	群馬町教育委員会
100	国府南部遺跡群Ⅲ	2001年3月	群馬町教育委員会
101	国府南部遺跡群Ⅳ	2002年3月	群馬町教育委員会
102	国府南部遺跡群Ⅴ	2003年3月	群馬町教育委員会
103	上野国分尼寺跡北辺遺跡	2002年3月	群馬町教育委員会

あ と が き

平成２４年度は、普及関係では、市民プロジェクト第２期の最終年度（３年目）で、大型の石見型、馬形埴輪等の復元制作に取り組みました。また、市民ボランティアの発掘・育成について、新たに２３年度から取り組み、ご好評を頂きました座学と野外活動を組み合わせた文化財講座を引き続き実施しました。

文化財管理関係については、懸案事項でありました「阿久沢家住宅」の公有化がなり、臨江閣については整備に向けた保存管理計画が策定され、本格的な改修計画の端緒とすることができました。

発掘調査では、元総社蒼海土地区画整理区域内において上野国府の解明に向けた範囲内容確認調査が平成２３年度から着手され、今年度は２年目となりました。２７年度までの５年間で実施される予定であり、この調査を通して何とか国府解明の手掛かりが掴めたらと考えています。

本書は、２４年度に実施された文化財事業の概要をまとめたものであり、この資料が多くの皆様に活用され、文化財保護行政をご理解いただく一助になれば幸いです。

平成 25 年 7 月　　日

文化財保護課長　松村　親樹

平成 24 年度

前橋市文化財調査委員

阿久津 宗 二（24 年 5 月 28 日まで）
井 上　唯 雄
梅 澤　重 昭
片 山　満 秋
村 田　敬 一

平成 24 年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	松村　親樹
文化財保護係	
課長補佐兼文化財保護係長	小島　純一
副主幹	堤　敏範
〃	岩瀬　孝弘
主　任	登山　伸一
〃	小沼　安美
〃	宮沢　竜一
〃	小川　卓也
〃	下田　大介
文化財整備指導員	能登　健
埋蔵文化財係	
課長補佐兼埋蔵文化財係長	前原　豊
主　査	岩丸　展久
〃	細野　泰宏
主　任	藤坂　和延
〃	眞下　晃
〃	瀧澤　重雄
〃	小峰　篤
〃	坂本　高広
〃	並木　勝洋
〃	福田　貫之
〃	阿久澤智和

年報 第 43 集 平成 24 年度文化財調査報告書
平成 25 年 7 月発行
発行 前橋市教育委員会 管理部 文化財保護課
前橋市三俣町二丁目 10 番地２

表紙　新指定重要文化財　平和町（旧向町）雷電神社の山車